

第2章 武蔵村山市の小中一貫教育の取組と検証

1 武蔵村山市の小中一貫教育の取組と効果

(1) 施設一体型小中一貫校（村山学園）の取組

「施設一体型小中一貫校だからできるシステムづくり」

ア 施設一体型小中一貫校開校までの経緯

平成13年度に、武蔵村山市教育委員会の委嘱により「武蔵村山市幼（保）・小・中学校の連携のあり方検討委員会」が設置された。本委員会の主な検討事項は、小・中学校の連携による心の教育の推進の在り方であった。

検討委員会の報告を踏まえ、翌年には「武蔵村山市立学校特色化推進プラン検討委員会」が設置され、ここで市立第四小学校と市立第二中学校を小中一貫校として統合する構想が提言された。検討委員会のメンバーは、学識経験者や市立小・中学校の校長・教頭・教諭に加え、市立小学校のPTA関係者や地域有識者が委員として構成されていた。開校準備のスタート時点から、地域の関係者が深く関わっていたことが、小中一貫校として開校した翌年の平成23年度から、村山学園がコミュニティ・スクールとしての出発を迎えられた大きなポイントである。市の小中一貫校構想は、市内各小・中学校に共通する課題を解決する役割を担って検討され、村山学園は、市全体の小中連携教育のパイロット校としての意義をもって計画が進められていった。

平成18年度から平成20年度までの計画策定期の施設設備等については主として市教育委員会事務局が、カリキュラムについては市内全校の教員が、それぞれ担当して計画を策定していた。カリキュラムについては、平成19・20年度の2年間にわたり、「武蔵村山市小・中一貫校カリキュラム作成委員会」及びその下部組織である「各教科・領域等部会（全16部会）」の委員として、市内全校から総勢96人の教職員が結集して、その作成に当たった。

一方、村山学園の小中一貫校開校に向け、学園名、学園歌、標準服・シンボルマークを決定するため、平成20年7月に「（仮称）武蔵村山学園開校準備委員会」（後の村山学園開校準備委員会）を立ち上げ、その下部組織として、小中一貫校開校に向けた具体的な検討を、保護者、地域の方々、学校、市教育委員会事務局による委員から構成される分科会を発足させ、対応を図った。

平成21年度小中一貫校プレ開校、平成22年度小中一貫校開校、平成23年度にコミュニティ・スクールとしての指定を受け、9年間を通して、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」である「人間力」の育成を目指し、学校システムの構築を推進していった。

イ 施設の型を生かした特色ある教育活動

（ア）小・中学校をつなぐ（一貫校第1ステージ）【平成22～24年度】

小・中学部のシステムの違いを、プレ開校時から従来の学校運営をしながら解決していくことは非常に困難であり、様々な試行を通して調整を繰り返してきた。

① プロジェクト型組織運営

一つの学校として組織運営を行うには、一つの校務分掌組織で行う必要がある。しかし、前年度まで小・中学部それぞれで実施していた取組を一つの取組として合わせるにあたり、小・中学部それぞれの責任者が各組織に確認し、改めて責任者が相互に検討・調整しなければならず、スムーズに進めることが困難であった。そこで、「小・中学部のシステムを合わせる」という発想から「村山学園としての新たなシステムを創る」という発想に転換し、全校規模の企画については、新たに「プロジェクト（PJ）チーム」を設置し、その責任者であるリーダーを一人決めるという学校運営組織とした。平成22年度は、「学校評価推進PJ」「研究推進・研究発表会PJ」等、9つのプロジェクトチームを立ち上げ、学校全体として

の運営を推進した。

② 諸会議の工夫

小学部の学級担任制、中学部の教科担任制のシステムの違いや、市教育研究会の定例研究会等、小・中学部ごとの市全体の日程の違いなど、会議時間を共通に設定するための課題が非常に多かった。そのため、学期の初めや終わり、長期休業中や土曜日の学校公開日の午後等を利用し、会議を行うようにした。

③ 授業形態の工夫

村山学園では、学習指導要領に準拠した中で、小中一貫教育の枠組みを生かした授業を展開している。全教職員が小・中学部の兼務発令を受け、授業形態を工夫している。

(ア) 協力授業

小学部の教員と中学部の教員がティーム・ティーチングで指導する。お互いの専門性を生かした授業展開が可能となり、個別の指導や支援の充実を図る。

(イ) 交流授業

異学年の児童・生徒が、同じ空間で学習する中で、交流しながら、互いの立場や考えを認め合い、他者理解を深めることにより対人関係力を育成することを目指す。

(ウ) 一部教科担任制

小学校から中学校への円滑な接続を図るため、第5・6学年の一部で教科担任制を導入している。移行期への不安を解消するためにも大きな役割を果たしている。

(イ) 小・中学校をつなぐ（一貫校第2ステージ）【平成25年度】

小中一貫校としてのシステムが構築され、学校としては一つの学校になりつつあったが、中学生を育てるための手だてが十分ではなかった。

① 9年生像の明確化

教員を対象に「目指す9年生の姿」についてアンケートを行い、出された具体的な生徒の姿を「学習」「生活」「将来に向けて（キャリアプランニング能力）」など7つのカテゴリーにまとめた。そして、「目指す児童・生徒像」との関連を整理しながら、小中一貫教育PJで取りまとめた。目指す具体的な9年生の姿が明確になったことで、発達段階に応じた児童・生徒の姿や、それを具現化するための手だてについて、検討、振り返りをしやすくなった。

② 「村学スタイル」の設定

児童・生徒が「できた」「分かった」と実感できる授業を、全教員が全教科等で実践できるようにするため、共通の授業スタイル「村学スタイル」を設定し、原則、全ての授業で実施することとした。「目標」「めあて」を明確にすること、それに即した「まとめ」を設定すること、できたかどうか分かる自己評価をすること、学習の中で主体的な学習を展開するための多様な活動が設定されること等が盛り込まれている。

③ 第5・6学年の中学生体験

小学校から中学校への円滑な接続を図るとともに、目指す9年生の姿へ中学年部から近付けていくために、第5学年から定期考査を実施すると

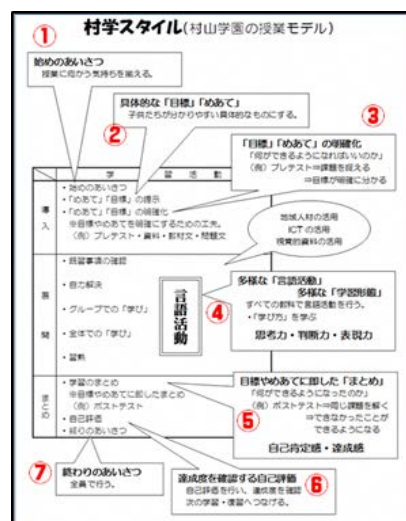


図1 村学スタイルの概要



写真1 定期考査を受ける6年生

もに、通知表には5段階評定で保護者に通知をするようにし、それに向けた学習計画を立てて取り組むようにした。

(ウ)「つなぐ」から「創る」へ（一貫校第3ステージ）【平成26～28年度】

小・中学部のシステムや文化の違いを考慮し、新たなシステムを創りながら様々な課題を解決してきた。ここからは、施設一体型小中一貫校である村山学園だからこそできる新たな「小中一貫校文化」を創り出し、児童・生徒の「人間力」の育成を目指した。キーワードは、「一つの学校 みんなで一緒に」である。

① 校内組織の改革

小学部と中学部がなかなか一体になれない原因として、双方に教務主任や生活指導主任が配置され、それぞれが強い責任感をもって職務に当たっていることが考えられた。そこで平成26年から、校内では「主任」という呼称を廃し、部長、副部长、課長という職名を用い、小学部と中学部を合体させたライン組織を導入した。

② 「むらやま科」の編成

児童・生徒にとって、武蔵村山市は故郷である。故郷に誇りをもった人間に育成するためには、教える教員が意識的に指導をしていく必要がある。そこで、村山学園では、各教科等の指導内容で「武蔵村山市」に関連するものを整理し、クロスカリキュラム「むらやま科」を編成した。

③ 学力向上策の推進（小・中学校、特別支援学級、日本語学級の有機的連携）

(ア) 小・中学校の連携

45分授業の小学部、50分授業の中学部が同じ校舎内で生活するうえで、生活時程をどのように設定するのかは大きな課題の一つであった。様々な生活時程を試行し、現在は、図2のような3種類の時程で生活している。工夫は、発達の段階に応じた給食時間や休み時間を確保したうえで、放課後に「パワーアップタイム」と称する学習の時間を設定したことである。各学級に学習補助の中学生を派遣し、生徒が分からない児童に教えたり、終わったプリントのまる付けをしたりして、児童の学習内容の定着を図るとともに、「格好いい中学生」の育成を図っている。

校 種	1～4年	5・6年	7～9年
登 校	8:00～8:20	8:00～8:20	8:00～8:20
朝学習	8:15～8:25	8:15～8:20	8:15～8:20
朝学活	8:25～8:35	8:20～8:30	8:20～8:30
1校時	8:35～9:20	8:30～9:20	8:30～9:20
2校時	9:25～10:10	9:25～10:15	9:30～10:20
中休み	10:10～10:35	10:15～10:35	
3校時	10:35～11:20	10:35～11:25	10:30～11:20
4校時	11:25～12:10	11:30～12:20	11:30～12:20
給 食	12:10～12:55	12:20～12:55	12:20～12:55
歯磨・昼休	12:55～13:15	12:55～13:15	12:55～13:15
5校時	13:15～14:20	13:15～14:05	13:15～14:05
6校時	14:05～14:50	14:10～15:00	14:15～15:05
終学活	14:50～15:00	15:00～15:10	15:05～15:15
清 掃	15:00～15:15	15:10～15:25	15:15～15:30
パワーアップ	15:15～15:45	15:25～15:45	15:30～15:45
下 校	15:45	15:45	15:45

図2 村山学園の生活時程

(イ) 通常の学級と日本語学級の連携

村山学園には、日本語を母語としない児童・生徒が多く在籍している。年度の途中に、日本語が全く話せない児童・生徒が編入してくることも珍しくない。そのような実態から、村山学園には小・中学部共に日本語学級が設置されている。

日本語学級での指導は、児童・生徒ごとに時間割を設定し、取り出して日本語の指導をしている。

特に、中学部の生徒の卒業後の進路等に鑑みて、当該生徒が在籍する学級に日本語学級担当教員が入って支援をしたり、夏季休業日中に登校して学習できる場を設定したりしている。さらに、当該児童・生徒に関係する全ての学習プリントを封筒に入れて集める



写真2 日本語を学び合う児童・生徒

等、学級担任・教科担当と日本語学級担当教員が情報を密にとり、協力した指導体制の構築に努めている。

(ウ) 自閉症・情緒障害通級指導学級と知的障害固定学級の連携

村山学園には、小学部に自閉症・情緒障害学級（通級指導学級）が、中学部に知的障害学級（固定学級）が設置されている。中学部は、知的障害の生徒が在籍する特別支援学級であるが、併せて情緒障害のある生徒が多く在籍しているのが実態である。そこで、時間割の調整を行い、知的障害学級の生活単元学習の時間の一部に、自立活動的なソーシャルスキルトレーニング等を組み入れ、自閉症・情緒障害通級指導学級担当教員とのティーム・ティーチングで指導をする等、生徒の実態に応じた指導を、教員の連携を軸として展開している。

(エ) 通常の学級と特別支援学級の連携

通常の学級の中でも、特別な支援が必要な児童・生徒が在籍していることを踏まえ、集団の中で気になる児童・生徒を見取ったり学習・生活面で支援したり、合理的配慮の視点から学級・教科担任へ助言したりする等、特別支援学級担当教員がもつ専門性を生かした連携を推進している。また、特別支援学級に在籍する生徒に対して、個の学力に応じた指導を実現するため、通常の学級で授業を担当している教員が、特別支援学級の当該教科の指導を行えるよう、時間割の工夫をしている。

ウ 校区での取組の成果と課題

成果

【プロジェクト②「対人関係力」の育成】

校内研究等の取組により、生徒のボランティア活動などへの参加が増え、生徒の社会へ貢献しようとする意欲が高まった。

【プロジェクト③「自己制御力」の醸成】

9年間を通して、学校行事や総合的な学習の時間等、キャリア教育を重点として継続的に取り組んできたことにより、将来したいこと、就いてみたい職業、仕事などの夢をもつ児童・生徒の割合が高まった。

【プロジェクト⑤「人間力」の育成】

平成30年度からこれまで6つの部会で構成していた学校運営協議会の部会を4つの教育支援プロジェクトチーム（学校評価、学習・環境、生活・安全）として整理、統合し、各プロジェクトチームを担当する教員を中心に地域と学校が連携・調整を図りながら、組織全体として開かれた学校づくりを推進することができた。大学と連携した「ものづくり教室」やキャリア教育の一環である「地域の方からお話を聞く会」等、学校運営協議会を中心とした地域・学校・保護者の協働的な取組を体系的に実践するシステムが学校に根付き、児童・生徒の人間力の育成に努めることができるようになった。

課題

【プロジェクト①「確かな学力」の定着】

交流授業や協力授業、教科担任制等を通して、児童・生徒の発達の段階や指導の系統性を理解することができた教員の割合は増えたが、今後も児童・生徒の学力の確実な定着、向上を目指していく必要がある。

【プロジェクト④「中1ギャップ」への支援】

小学校では、困っているときに先生や友達に相談している児童の割合が増えているが、中学部に進級しても生徒が先生や友達に相談しやすい環境をつくり、学習面、生活面、人間関係面でのきめ細かな支援に努めていく必要がある。

(2) 施設隣接型小中一貫校（大南学園）の取組

「人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校」

ア 学校の概要

本市は青梅街道を挟み新興住宅地が多く点在する地域と、古くからある地主を中心として広がる地域に分かれる。本学園は市の東南部に位置し、学区のほとんどは閑静な住宅街である。また、各自治体や青少年対策地区委員会による行事が盛んである。本学園の第七小学校と第四中学校は、市内市民の小路である遊歩道を挟んで隣接している、施設隣接型小中一貫校である。そのため、第七小学校の卒業生の9割以上が第四中学校に進学している。両校とも、校庭を一部芝生化している。また、野菜を育てるための大きな学校農園などを通じて健康教育や食育を充実させ、PTAを中心に花を育てたり緑を増やしたりすることを通して情操教育の充実を図っている。



【大南学園校舎 左：第四中学校、右：第七小学校】

イ 施設の型を生かした特色ある教育活動

大南学園は隣り合っている校舎をそのままの形で生かしていく「施設隣接型一貫校」である。そこで、子供たちや教職員、そして、地域・保護者が、一貫校になったことを実感できるようにするため、「3つの柱」を設定している。

「知の統合」（主に学習面でつながる取組）

「心の統合」（主に一体感をもたせる取組）

「形の統合」（主に施設面や標準服など、目に見える取組）

(ア) 知の統合

9年間を見通した教育をより円滑に進める部会をつくり、小学校教諭と中学校教諭の全ての教員で構成した「教科チーム」で具体的なプランを計画し、実施している。

- ・ 教科ごとの系統性を意識したブリッジプログラム



大南学園の教員は、中学校の教科ごとに「教科チーム」を編成し、発達段階に応じた、各教科で育てたい力を明確にした授業プランを考えている。

- ・ 全教科、全教員で授業改革をし、大南ベーシック（小中一貫校基準）「わけ（理由）をそえて、自分の意見を言える児童生徒」を育成している。



授業では、自らの考えを伝える場面を全ての時間に取り入れるようにしている。理由や根拠を伝えることで、話し合いが生まれ、それを繰り返す行うことで理解が深まっている。

- ★ 大南ベーシックとは、小中一貫校基準である「わけ（理由）をそえて」を共通のキーワードとして取り組む学習指導のことである。

- ・ ICT教育を通して学習への興味、関心を高める授業改革



情報ツールであるタブレットPCを授業に取り入れて、学習への興味・関心や理解力を高めている。

(イ) 心の統合

小中一貫校として目指すべき姿を第四中学校3年生として、両校の心の統合を図っている。

第七小学校の児童には第四中学校の中学生に対する「あこがれ」の気持ちを育て、第四中学校の生徒には小学生に対して「おもてなし」をすることや行事などを通して、尊敬される存在となれるように自覚と誇りをもてる指導をしている。

- ・ 小中合同の様々な活動



【七小校門前での合同挨拶運動】



【四中校門前出の合同挨拶運動】



【合同クリーン作戦】

- ・ 運動会や合唱コンクール、音楽会への相互参加など、行事やボランティアでの協働



【七小運動会でのおもてなし係】



【四中体育祭でのスーパー選抜リレー】



【四中合唱コンクールへの参加】

- ・ 夏季休業中の取組として、第七小学校児童対象の補習教室である「七小塾」や、七小児童対象の実験教室を第四中学校生徒が手伝ったり、部活動体験を実施



【「七小塾」で四中生徒がミニ先生】



【サイエンス四中】



【七小児童が四中で部活動体験】

どちらも中学生が小学生に対して助言やお世話することを通して、心の統合を図っている。

(ウ) 形の統合

愛称を公募の中から学校運営協議会による推薦によって「小中一貫校大南学園」に決定した。施設隣接型一貫校として、両校の児童・生徒、教職員が行き来しやすいように連絡通路が設置されている。また、学園歌や学園章も児童・生徒や地域とともに作成した。共通の校則やきまり、学習や生活のめあての基準が記載されている「学園手帳」を作成した。第四中学校では平成27年度から標準服を一新し、第七小学校も平成28年度から児童が標準服を着用することができるようになった。

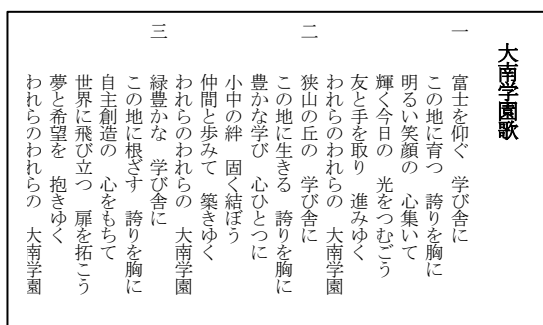


【大南学園の標準服】



【学園章 メジロと桜】

両校の子供たちから集めたデザインをもとに、大南学園の学園章を制作した。学園旗とともに、いろいろな場面でのシンボルとして、大南学園を支えていく。



【大南学園 学園歌】



【学園手帳】

中学生が携帯している生徒手帳のように、一貫校の小学生にも、携帯できるものを制作した。記載された学習や生活のきまりは、大南学園の子供たちの学校や家庭での学習・生活の指針となる。



【大南学園をつなぐ渡り廊下】

市民の遊歩道を横切るように、第七小学校と第四中学校をつなぐ連絡通路ができた。上履きのまま、両校を行き来できる通路により、移動時間が大幅に短縮できるだけでなく、多様な場面での交流が容易になった。



【大南学園（四中校区）コミュニティ・スクール】

大南学園の教員と、地域の方による話し合いの場を設けている。地域の危険箇所や、学校に対する要望などを交流し、地域みんなで大南学園をつくっているという意識を高めている。

ウ 校区での取組の成果と課題

平成28年度より小中一貫校大南学園として歩み始めることが認められた本校への期待は、大きく分けて3つあり、「地域に根差した教育活動を展開する学校」「地域の活性化の基となる学校」「武蔵村山市大南の地区で育ったことに誇りをもてる学校」であった。この期待に応えるため、第七小学校と第四中学校と地域が連携し、小中一貫校として様々な取組を行ってきた。

【成果について】

地域と連携しながら、小中一貫校として「その日の課題はその日のうちに」を合い言葉に行ってきた丁寧な対応については、保護者から高い評価を受けている。また、小中一貫校として様々な年間行事が大変充実していると地域・保護者に受け止められている。国際理解教育やICT活用、四中校区教育推進委員会やNPO法人、企業とのコラボ授業、近隣の幼稚園・保育園との協働活動、縦割り班活動、オリンピック・パラリンピック推進教育等の中で、小中の連携を意識してきた。さらに、ラジオ体操や「野の宴」、おもちつき会等の地域行事が、小中の学校運営協議会、第七地区青少対、小中PTAの協力で開催され、児童・生徒の健全育成に役立っている。そのため、「学校に楽しく通えている」「学校の雰囲気良く、子供が生き生きとしている」「けじめのある生活ができている」「子供や教職員の様子から好ましい印象を受ける」等の肯定的な評価が多い。また、「グローバル人材の育成」に向け、分かりやすい授業を基に、基礎・基本を定着させる工夫や体験的な学び等、小中で「知の統合」を図り、小中一貫基準としての「わけをそえて話すことができる子供の育成」を目指してきた結果、今年度の東京都の学力テストの二教科で東京都の平均を上回ることができた。



【挨拶運動でタッチをする児童と生徒】

また、開校当初より取り組んでいる小中合同の学園会議での「教科のブリッジプログラム」や、運動会・合唱コンクール等の行事への参加や部活動体験等の活発な活動が、中一ギャップ解消の取組として定着してきた。隣接型小中一貫校として、無理のない、小中それぞれの良いところを互いに取り入れながら、両方がウインウインの関係で有り続けられる取組の成果が目に見える形になってきていることを実感できるようになった。

第七小学校の児童にとって、常に隣に目指すべき四中生のあこがれる姿があることは、様々な場面で今の自分を振り返り、「中学生になったら〇〇しよう」という、具体的な目標をもてるきっかけとなっており、それにより、第七小学校の児童が第四中学校への進学を楽しみにするようになってきている。

【今後の課題】

「学校が変われば地域も変わる」というコンセプトのもとにつくられた小中一貫校として多くの取組に高い評価が得られ、実際に成果が目に見える形にもなっているが、その一方で、いくつかの課題もある。家庭学習の定着についてはまだまだ評価が低い。また、児童・生徒の挨拶についても、かなり改善はされているが、個人差が大きい。挨拶をされると返すことができる児童生徒は多いが、自分から挨拶ができるようにしていきたい。そのために、学期に1回ずつ小中それぞれの校門で小中合同の当番制による朝の挨拶運動週間の取組を行っている。小学校高学年から中学生にかけては、恥ずかしさもあり、なかなか自分から挨拶ができない児童・生徒もいるが、挨拶運動週間の当番になると、集団心理も手伝って、自分から積極的に挨拶ができる児童・生徒が増えてきた。今後も、このような活動を続け、校内だけではなく、家庭や地域でも積極的に挨拶ができる児童・生徒の育成を目指していく。これからも学校を核とした新しい地域創生が図られつつある今の状況をさらにすすめていきたい。

(3) 施設分離型小中一貫教育「第一中学校区」(第一小学校、第九小学校、第一中学校)の取組 「合同授業研究でつながる小中一貫教育」

ア 学校の概要

【第一小学校】

第一小学校は全校児童413名、教職員54名、今年105年目を迎えた。本校は、「心を育て、学力を伸ばす学校」を目指し、伝統によって培われた校風、変わるべきでない伝統を守り抜き、大切なものを守り抜くために新しいことに挑戦している。その中で、地域の幼稚園や保育園を含めた幼保小中の連携・協力を推進し、つながりを重視した教育を行っている。また、開校100周年の記念として「日本に一つしかない日時計」を設置した。

【第九小学校】

第九小学校は全校児童294名、教職員44名、市内で最も小規模の学校である。通級指導学級の「きこえとことばの教室」、特別支援学級「えのき」を設置している。本校は教育目標として「学び合う子」「つながり、支え合う子」「たくましい子」を掲げている。アメリカ合衆国のシアトル市にある「マクドナルドインターナショナルスクール」との交流を通しての異国文化理解、また、地元の産業の「お茶作り体験」等を通しての自国文化理解を通して、活力あふれる活動を創造する児童の育成をすすめている。

【第一中学校】

第一中学校は全校生徒536名、教職員54名、本年度創立72周年を迎える。本校は「自己を生かし、他者を生かす」生徒の育成を目標に、次のような特色ある教育活動を行っている。学習面では英語・数学の習熟度別少人数授業や朝読書、全教室に導入されている電子黒板の活用によって生徒の基礎学力の定着を図っている。また、地域の方を講師として招いたチキチキフェスティバルを行っており、村山かてうどんや着物の着付けなど、地元にながら講座で連携を深めている。

イ 施設分離型における特色ある教育活動

一中校区は小中一貫教育を進めるに当たり、「合同授業研究」を主として行ってきた。本校区は施設分離型であり、日常的に小中一貫教育を意識するのは容易ではない。しかし、施設分離型のメリットとは各校が強い独自性を打ち出しつつも、三校が共通の視点で児童・生徒を育てることにある。そこで本校区は授業研究に重点をおき、小中で学習パターンの共通化を図ってきた。全ての授業で「一中メソッド」という思考の枠組を設定し、意識的に取り入れるようにした。

一中メソッド

課題を
つかむ



自分で
考える



周りと一緒に
深める

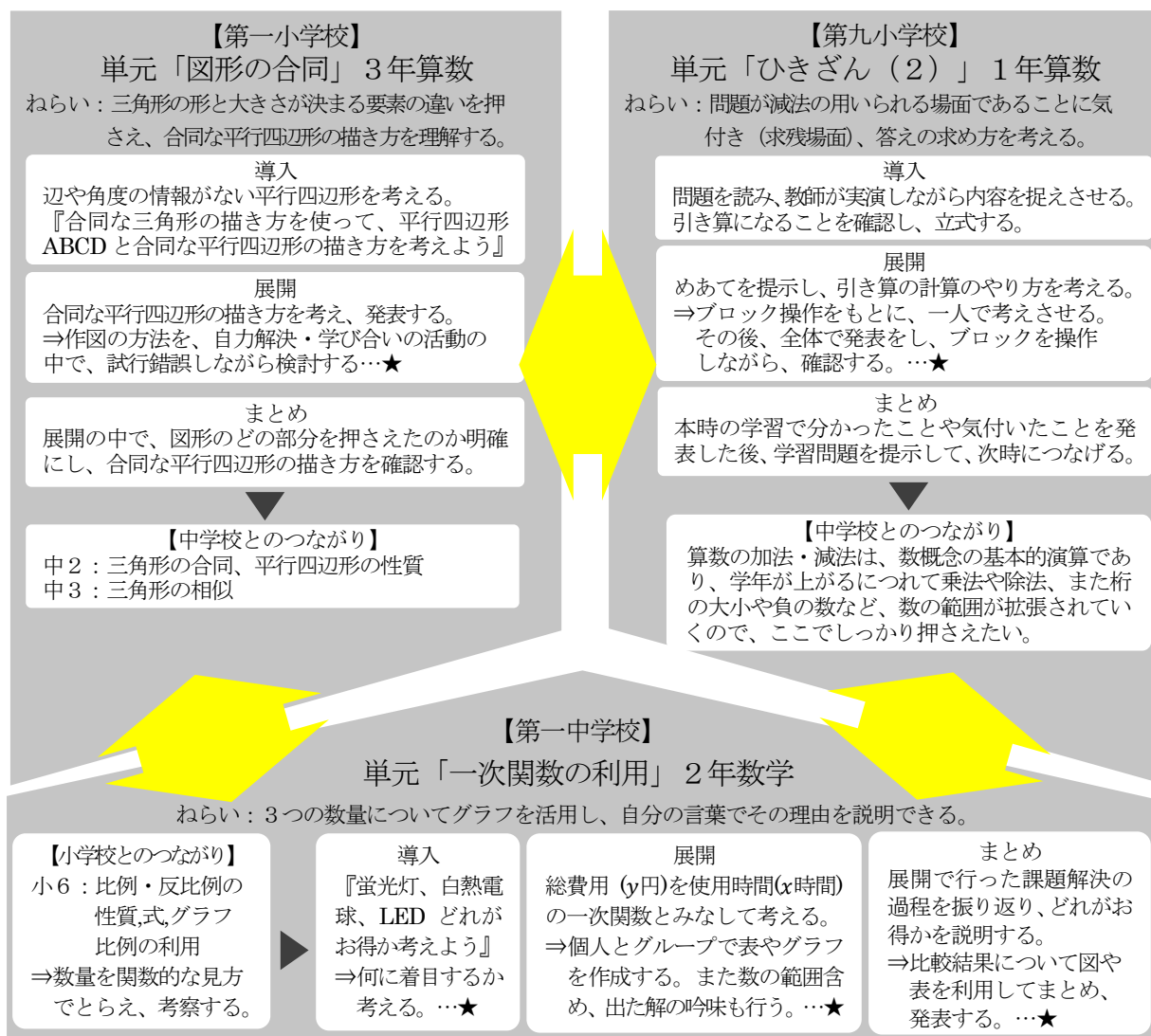


自分で
まとめる

この小中一貫の実践の柱は、小中の教員が入り混じって、言語・理数・社会・芸術・特別支援教育の5つの部会に分かれ年間を通して“学習指導案検討⇒研究授業⇒研究協議会”を行ってきたことである。

研究を進める中で、小学校と中学校の教員が教科の系統性や連続性を再認識したり、互いの学校文化を理解し、育てたい児童・生徒像を共有したりすることができた。また管理職と研究主任で研究プロジェクトを立ち上げ、研究の全体運営を行った。この研究の継続が教員の意識や授業力の向上につながり、児童・生徒の学習意欲を高め、学力の伸長に寄与すると考えられる。

理数部会での算数・数学の実践事例を次頁に掲載する。



★…授業で取り入れた言語活動

ウ 校区での取組の成果と課題

一中校区では、全国サミット発表後、合同授業研究の教科を英語活動・英語とした。小・中学校で共通の研究教科に取り組むことで、9年間を見通した教育実践をより明確に行えると考えた。

(ア) 成果

- ・ 小学校の英語活動において、多様な指導方法に取り組むことで、その経験が中学校の学習でも生かされ、コミュニケーション力の向上が図られた。
- ・ 英語の楽しさを感じさせながら、自分の思いや考えを相手に伝える大切さを指導していくことが、9年間を見通して、英語教育に取り組んでいく基礎であることが分かった。
- ・ 同じ視点で授業実践することで、互いの認識が深まり、教員同士のコミュニケーションが図られた。
- ・ 中学生が教員補助として卒業した小学校で職場体験に取り組む中、小学生は在学当時より成長し、大人らしくなった卒業生の姿を見て、あこがれをもつことができた。

(イ) 課題

- ・ 研究教科を統一したことで、これまで以上に小・中学校のつながりが見られたが、中学校においては、英語担当教員のみが研究授業を行うことになった。今後は、他教科等の学習でも系統性や連続性を再認識し、小中一貫教育の充実を図ることが求められる。
- ・ 一中校区として目指す学校像や児童・生徒像を教員同士がより共有していく必要がある。

(4) 施設分離型小中一貫教育「第三中学校区」(第三小学校、雷塚小学校、第三中学校)の取組 「合同研究授業でつながる小中一貫教育の推進」

ア 学校の概要

【第三小学校】

第三小学校は、全校児童470名、全教職員46名、本年度創立56年目を迎える。本校では、主体的に学び合う学校、心と体を育てる学校、地域と共に歩む学校を目指している。地域のよさを生かした特色ある教育活動としては、ヤングアメリカンズ(第6学年)、丘の上キャンプ、水田教室(第5学年)、村山紬体験(第4学年)、手話教室(第3学年)、消防写生会、町たんけん(第1学年・第2学年)などが挙げられる。計画的に地域の教育ボランティアや各種専門家の協力を得て、地域が誇りに思える子供の育成に取り組んでいる。

【雷塚小学校】

雷塚小学校は、通常学級368名、ひまわり学級(特別支援学級)41名の全校児童数409名、全教職員数48名の学校である。平成10年度に第五小学校と第六小学校が統合して雷塚小学校となり、今年度は開校20周年の節目を迎えた。本校は、低学年から外国語に触れ、校内研究を中心に学校全体で外国語教育を推進している。また、タブレットPCなどを活用したICT教育に取り組み、学力を向上させるための授業改善を行っている。さらに、登下校の見守り隊や学校教育ボランティア、総合防災訓練など、学校運営協議会を中心として、日頃から地域と関わり、子供たちの健全育成に努めている。

【第三中学校】

第三中学校は、全校生徒数362名、全教職員数41名、本年度創立43年目を迎える。本校では、「三中スタンダード」(①ICTの活用、②学び合い活動、③言語活動の充実)による授業の充実、大縄飛び等、体を鍛えるミニオリンピック、自分で弁当を作る食育の日を行っている。また、ひまわり種まきボランティアや1学年の横田ミドルスクールとの交流、2学年の職場体験、地域の方による3年生の面接など、地域とのつながりを大切にしながら、体験を通して個の成長を促す取組を行っている。

イ 三中校区での特色ある教育活動

(ア) 小中一貫した英語教育の実践

第三小学校、雷塚小学校、第三中学校、都立上水高等学校の4校は、平成27年度より平成29年度まで、文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、4校で連携しながら研究を進めてきた。研究では、授業公開と授業参観、授業後の意見交換会を実施し、指導方法、評価方法の改善、指導力向上に係る協議を行った。以上の取組を通して、各校の連携した英語教育に効果があることが検証された。この成果をもとに、平成30年度では中学校の英語科の教員が、三中校区の第三小学校、雷塚小学校の英語活動の授業に参加して、指導等の活動を行っている。児童への英語の指導のみならず、小学校の教員と協働して授業研究や成果の検証を行うことにより、質の高い英語教育を実践すると共に、9年間の継続した指導の成果を生み出しつつある。



第三小学校



雷塚小学校



第三中学校

(イ) 三中校区合同研修会

第三小学校、第三中学校における授業実践交流会に際し、三中校区全体で指導案を検討する合同研修会を開催した。研修会は、各教科に別れて検討を重ね、指導案の改善の他、発達段階に応じた指導法の紹介や工夫改善の取組について、活発な意見交換が行われた。この成果をもとに、各授業実践交流会には三中校区の教員が全員参加し、研究分科会で更なる研修を深めることができた。



(ウ) 第三中学校区教育推進協議会としての取組、各校コミュニティ・スクールとしての取組

学校・地域・家庭の代表者による第三中学校区教育推進協議会を組織し、年3回の定例会をもとに様々な交流体験活動を行い、小・中学校の健全育成、地域との絆の深める活動を推進している。最大の行事である「ふれあいフェスティバル」では、地域の方々を講師として招き、三中校区の小6、中2の児童・生徒が各講座で体験活動を行っている。また、各校コミュニティ・スクールにおいても、地域の特色を生かした様々な活動に取り組んでいる。



三小（丘の上キャンプ）



雷塚小（総合防災訓練）



三中（ふれあいフェスティバル）

ウ 三中校区の取組の成果と課題

(ア) 英語科の連携の成果については、様々なアクティビティを通して、どの学年も発話量が多くなり、外国語活動に意欲的に取り組んでいる。小学校では、英語活動支援員、ALT、中学校英語科教諭と各担任が事前に細かい打ち合わせを行っているため、学級担任が指導者となり、主体的に外国語の授業に取り組むようになった。中学1年生では、小学校6年生の時から指導を受けてきた教員の指導により、授業にも慣れ、積極的な授業参加の様子が見られている。今後も、小中の連携方法に工夫改善を重ねながら、より効果的な授業実践が行われるようにすることが課題である。

(イ) 合同研修会では、指導案検討を通して校種の違いによる考え方や指導方法の違いを学ぶとともに、ICTの活用という視点で、指導案の工夫改善を行うことができた。これをもとにした授業実践交流会では、指導案検討の成果について活発な意見交換を行った。小中の教員が様々な視点から意見交換と共通理解を促す良い場となった。この成果は、授業のみならず、健全育成や地域との関わり合いについても交流の場を拡げることが大切であると考えている。また、合同研修会では、11月に行われる「ふれあいフェスティバル」について、講師も交えての打合せを行った。地域から招いている講師との事前協議を通して、フェスティバルを支障なく行う準備と、小中の教員の役割分担等を明確にし、協働して開催する準備を整えることができた。

(ウ) 第三中学校区教育推進協議会では、保護者も参加できる「いのちの標語」の制作を通して、人権の大切さ、思いやりの心を育てる機会とした。「ふれあいフェスティバル」では、小学生、中学生が、地域の講師から学び、異年齢集団での体験活動を通して、地域との絆を深めることができた。また、キャリア教育の一環として、三小、雷塚小の6年生と第三中学校3年生の交流を行った。

(5) 施設分離型小中一貫教育「第五中学校区」(第二小学校、第八小学校、第十小学校、第五中学校)の取組 「自らの将来を自ら切り拓く力の育成」

ア 第五中学校区の概要

本校区は学校・家庭・地域が強い「絆」で結ばれ、子供たちは落ち着いた環境の中で伸び伸びと生活をしている。この4校の児童・生徒数は、市内全体の約4割を占める大規模な校区である。



第五中学校区シンボルマーク
縦に流れる青と水色の4本の帯は、それぞれの学校を表している。一つ一つの流れは細いが、4本集まれば大きな川となり、それが大海原に注ぎ、さらに大きく発展する様を表している。

イ 施設分離型を生かした特色ある教育活動

(ア) はじめに

第五中学校区の大きな特色ある教育活動は、「自らの将来を自ら切り拓く力の育成」を目指し、本校区4校の教職員が合同研究を通して、「五中学校区スタンダード」を完成し、検証し、改善を続けていることである。

(イ) これまでの主な取組

第五中学校区は、平成23・24・25年度の3年間、東京都教育委員会・武蔵村山市教育委員会『言語能力向上推進事業』の指定校を受けた。各校での研究を中心としながら、4校の合同研究を通して、第五中学校を卒業する姿を思い描き、目指す児童・生徒像「考えを深めたり高めたりする児童・生徒」を掲げて研究を推進してきた。今日までの本校区の研究のベースは、ここにある。

① 平成23年度

下記のような第五中学校区の児童・生徒の課題を共有するために、8月に4校の全教員が参加した合同研究会を開催した。本校区の児童・生徒の課題から目指す児童・生徒像「考えを深めたり高めたりする児童・生徒」を掲げ、各校で校内研究会を中心に実践を積み重ねた。

【本校区の児童・生徒の主な課題】

- ・ 自分の思いを表現すること(話すことや書くこと)が苦手な児童・生徒が多い。
- ・ 少人数グループでは話すことができるが、全体の前ではうまく話すことができない。
- ・ 語彙力、表現力が乏しく、スピーチや作文において「まとめる力」が低い。
- ・ 多面的に考えることが苦手である。

また、この合同研修会では目指す児童・生徒像を達成するための方策として、各校の研究教科等における「五中校区スタンダード」を作成した。

② 平成24・25年度

中間及び最終報告会の実施：公開授業・報告会

③ 平成26年度

平成23年度に作成した「五中校区スタンダード」を基に、すべての教科領域における「五中校区スタンダード」を作成し、以下の13の分科会を立ち上げ検討を行った。

〔国語 社会 算数・数学 理科 音楽 図画工作・美術 技術・家庭 保健体育(体育) 保健体育(保健) 外国語活動・英語 道徳 特別活動(児童会・生徒会) 読書活動〕

④ 平成27・28年度

平成26年度に作成した各教科領域における「五中校区スタンダード」を基に、13の全分科会で検証授業として研究授業を行った。

(前年度末…全13分科会の検証授業を行う担当校を割り当て、決定する。)

(ア) 第1回(4月下旬)…第五中学校区研究会にて、分科会ごとに指導案を検討する。

(イ) 第2回(6月上旬)…分科会ごとに検証授業と協議会を行い、「五中校区スタンダード」と授業の双方を検討する。

(ウ) 第3回(8月下旬)…年度の研究と「五中校区スタンダード」の改善をまとめる。

3 算数・数学

⑤ 平成29・30年度

上記④同様、各分科会の「五中校区スタンダード」を基にした検証授業と検討を重ねた。この2年間の特筆すべきは、本スタンダードに「人権教育において育てていきたい資質や能力」の項目を新たに設けて研究に取り組んでいることである。

これは、第五中学校が平成29年度より「東京都人権尊重教育推進校」として「自尊感情の高揚」を目指し、校区全体として「自他を大切にすること」児童・生徒の育成を推進していることの現れである。

学年	五中校区の目指す児童・生徒像	①【算数・数学】における目指す児童・生徒像	②【算数・数学】の習得内容についての共通理解	③小中連携を図るための、具体的な企画や授業
小学校 低学年	● 疑問に迫って話し、話し合ったりする児童	● 主題と道徳を用いて理由を明確にし、意見を述べ、自分の考えを「まず」「次に」「そして」の順序立てて表現できる	● 10の合成分解 ● たし算・ひき算のひっ算 ● 九九の暗算 ● かけ算九九の歌	文筆活動を 読み解く力
小学校 中学年	● 互いの立場や考えの共通点や相違点を考えながら話し、通して話し合ったりする児童	● 結論を先に述べ、理由を説明できる ● 算数の用語を用いて表現できる ● それぞれの考えや解決方法の共通点や相違点に気付くことができる	● かけ算のひっ算 ● わり算の筆算 ● つまみ食い・分業制を用いての作図 ● 小数の簡単な計算(たし算・ひき算)	小学校 ● 8年間を通じて、経験をそえる ● 出題授業を行う
小学校 高学年	● 自分の立場や意見をはっきりさせながら話し、計画的に話し合ったりする児童	● 論理的な考え方や論理的な考え方を立て、筋立てて説明することができる ● それぞれの考えや解決方法の共通点を整理できる	● 小数・分数の四則計算 ● 割合・速さの簡単な文章題	中学校
中学校 1年生	● 話し合いの経験や方向性をとらえて的を得たい、それぞれの意見を尊重して聞いたりして、自分の考えをまとめる生徒	● 帰納、帰理、帰理などの推論を用いて説明できる ● それぞれの考えや解決方法を論理的に考察し、一般性を導くことができる	● 正負の計算 ● 文字式の計算 ● 方程式の解き方	
中学校 2年生 3年生	● 相手の立場や考えを尊重し、話し合いが目的に迫って論理的に展開するよう話し合ったり聞いたりして、自分の考えを深める生徒	● 帰納、帰理、帰理などの推論を用いて説明し、一般性を導くことができる ● それぞれの考えや解決方法を論理的に考察し、一般性を導くことができる	● 関数とグラフ ● 証明 ● 因数分解 ● 平方根	
授業規律の共通理解	● 黒板の内容をきちんと正確にノートに書く ● 筆記用具・シャープペンシル、3色ペン、蛍光ペン(必要があれば)	● 黒板の内容と、先生が授業中に書いた大切なこともノートに書く ● 筆記用具・シャープペンシル、3色ペン、蛍光ペン(必要があれば)	● (小中連携) 用具の準備をする(忘れ物をしない) ● チェイン学習で、前の時間の復習をして待つ	
【小学校】	● 算数の考え方を育てることを通して、物事を科学的・合理的に整理する能力を育てる。	● 算数の考え方を育てることを通して、論理的な思考や合理的な考え方を養う。	● 授業中に先生の説明を注意深く聞く(集中する) ● しっかりノートを取る(黒板の内容を大切だと意識すること)	
【中学校】	● 算数の考え方を育てることを通して、物事を科学的・合理的に整理する能力を育てる。	● 算数の考え方を育てることを通して、論理的な思考や合理的な考え方を養う。		

「五中校区スタンダード」(例 算数・数学科分科会)

平成29年度より「人権教育において育てていきたい資質や能力」を表中の下方に設けた。五中校区の合同研究会を行い、適宜スタンダードの見直し、修正を加えている。

ウ 校区での取組の成果と課題

(ア) 成果

① 「人間力」育成への絶対条件 ～教師力の向上～

(プロジェクト⑤)

「五中校区スタンダード」を軸に全13分科会が共通の項目からなる指導案を立て、検証授業を行っている。このことにより、教科・領域等は違えども、本校区の教員は本校区共通の「小中一貫教育」と向き合っている。また、目の前にいる児童・生徒の過去あるいは未来へのつながりを念頭に置いた指導の改善への意識が高い。授業改善面では、系統性を重視した授業・話し合い活動の導入・各学年における学力の定着等、生活指導面では、授業規律・言葉遣い・身だしなみ等に共通理解がなされている。

② 対人関係力 ～豊かな心～

(プロジェクト②)

本校区において、第五中学校区学校運営協議会主催「みんなの音楽会」、青少年対策委員会主催「みかん狩り」、クリーン作戦…二小、管楽器指導…八小、夏のラジオ体操…十小、等を通して、中学生と小学生との交流が地域の中で行われている。言動を通して、微笑ましい関係が見られる。

(イ) 課題

① 知的能力 ～確かな学力～

(プロジェクト①)

「小中一貫教育」を軸に、本校区的全教員の意識改善を図ることが必須である。つまり、校区の小学校1年生から中学校3年生までが同時に身に付けるべき共通の『資質・能力』に目を向け、「何のための小中一貫教育なのか」の『何のための』を共通認識することである。

② 各校での実践を『人間力』の育成の観点でつなぎ直すこと

(ア) 自己制御力 ～志～

(プロジェクト③)

各学校で実践している第4学年「二分の一成人式」、第6学年「卒業関連行事」、中学校第2学年「立志式」等、『将来に向けた目標や志』で貫く内容を意識的に設ける。年度の初めに各校の担当者会議を開き、場面と内容を共通理解する。

(イ) 中1ギャップへの支援 ～不安や心理的な負担～

(プロジェクト④)

本校区の第6学年児童・第1学年生徒のアンケート結果、不安に思うこと・不安だったことの第1位は共に「勉強」である。既に、「五中サミット」等、児童・生徒間の交流がある中で、新たに中学校教員による6年生向けの「授業体験」の機会を検討したい。

(6) 成果指標の比較

確かな学力の定着の一つの指標である「学力調査」及び「中学校・高等学校等への進学実績」、中1ギャップへの支援としての効果を図る一つの指標である「不登校率」について、小中一貫校開校前の平成20年度を基準とし、平成24年度及び平成29年度の経年比較を行う。

ア 学力調査の結果

各学力調査等の結果について、本市の平均正答率を全国又は東京都の平均正答率で割り、100をかけたものを充足率とし、問題の難易度に左右されない学力調査結果の比較指標として活用することとした。

(7) 全国学力・学習状況調査

		平成20年度	平成24年度	平成29年度
国語A	小学校6年	88.5	92.9	89.5
	中学校3年	94.7	89.4	87.3
国語B	小学校6年	86.8	78.9	83.0
	中学校3年	88.5	83.9	80.8
算数A	小学校6年	90.0	86.9	88.2
数学A	中学校3年	83.0	79.3	80.0
算数B	小学校6年	87.2	86.1	78.5
数学B	中学校3年	79.0	68.8	75.2

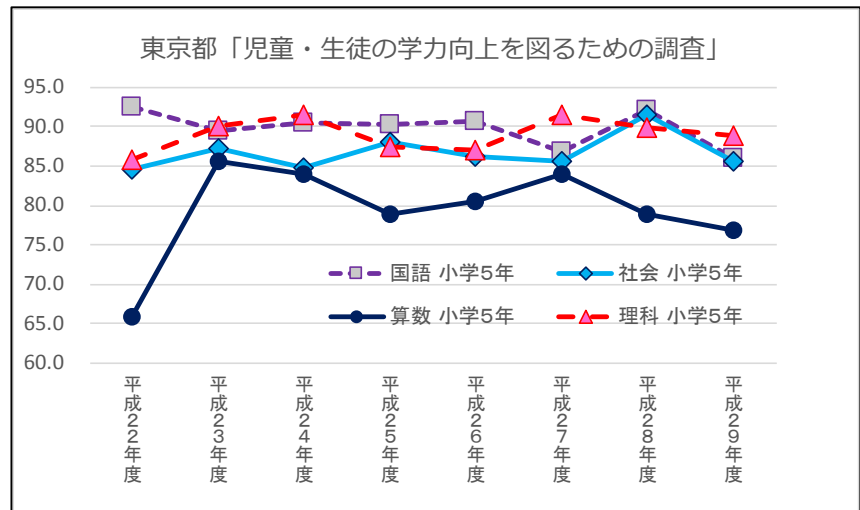
※ 表の数値は、対都充足率を示している。

(イ) 東京都教育委員会「児童・生徒の学力向上を図るための調査」

		平成20年度	平成24年度	平成29年度
国語	小学校5年	—	90.5	86.7
	中学校2年	—	97.0	108.8
社会	小学校5年	—	84.8	86.4
	中学校2年	—	89.0	86.6
算数・ 数学	小学校5年	—	83.9	77.3
	中学校2年	—	83.8	82.9
理科	小学校5年	—	91.5	89.8
	中学校2年	—	86.3	101.2
英語	中学校2年	—	84.2	94.9

※ 平成20年度東京都教育委員会「児童・生徒の学力向上を図るための調査」は、問題解決能力等に関する調査であったため、各教科のデータがない。

※ 表の数値は、対都充足率を示している。



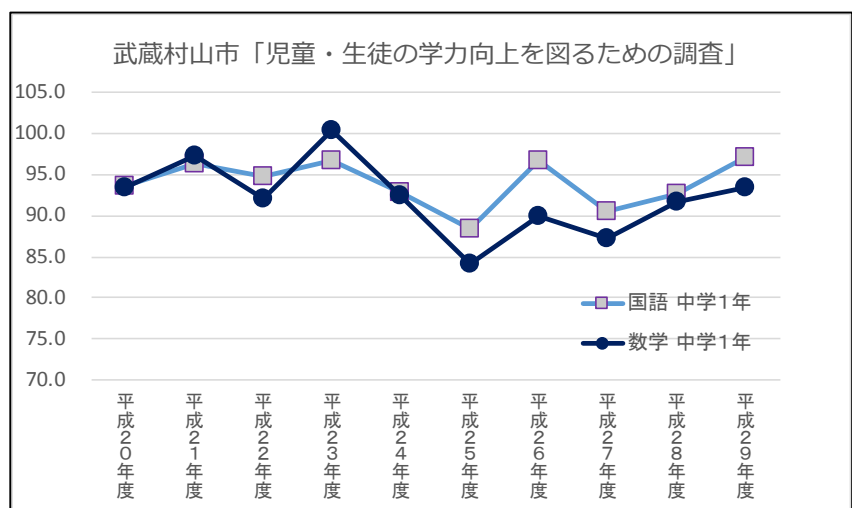
グラフ1 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」経年変化

(ウ) 武蔵村山市教育委員会「児童・生徒の学力向上を図るための調査」

		平成20年度	平成24年度	平成29年度
国語	小学校3年	94.9	90.0	—
	中学校1年	96.3	95.6	93.3
算数・数学	小学校3年	104.9	96.3	—
	中学校1年	96.9	95.8	91.1

※ 小学校3年生対象の武蔵村山市教育委員会「児童・生徒の学力向上を図るための調査」は、平成28年度実施を最後に終了したため、平成29年度のデータがない。

※ 表の数値は、対国（正答期待値）充足率を示している。



グラフ2 武蔵村山市「児童・生徒の学力向上を図るための調査」経年変化

イ 中学校・高等学校等への進学実績

小学校から私立又は国公立中学校への進学、中学校から東京都立高等学校のうち「進学指導重点校」「進学指導特別推進校」「進学指導推進校」への進学について、進学児童数を総児童数で割った値に100をかけたものを進学率として、平年比較を行う。

(ア) 小学校から私学等への進学

	平成20年度	平成24年度	平成29年度
進学児童数	33人	31人	36人
総児童数	581人	645人	644人
進学率	5.7%	4.8%	5.6%

(イ) 中学校から進学指導重点校等への進学

	平成20年度	平成24年度	平成29年度
進学生徒数	15人	31人	28人
総生徒数	411人	463人	537人
進学率	3.4%	6.7%	5.2%

※ 「進学指導重点校」

日比谷、西、国立、八王子東、戸山、青山、立川

※ 「進学指導特別推進校」

小山台、駒場、新宿、町田、国分寺、国際、小松川

※ 「進学指導推進校」

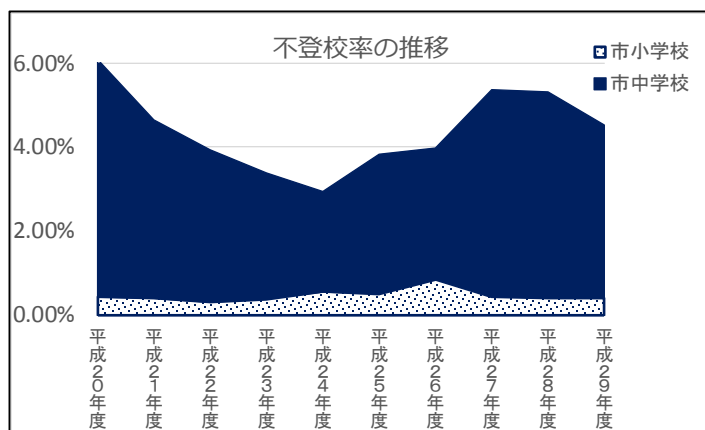
三田、豊多摩、竹早、北園、墨田川、城東、武蔵野北、小金井北、江北
江戸川、日野台、調布北、多摩科学技術

ウ 不登校児童・生徒の推移

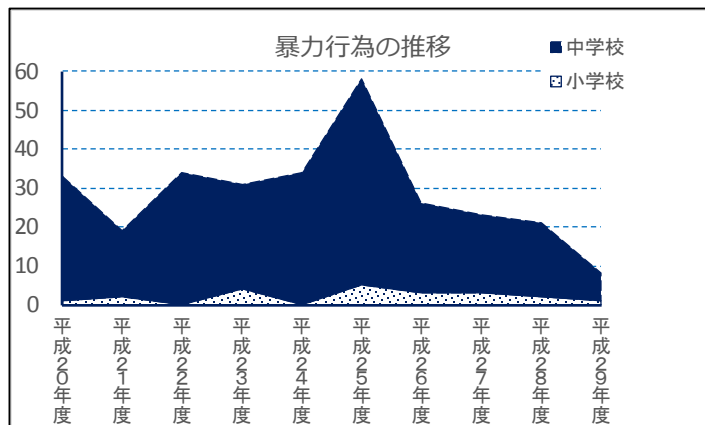
		平成20年度	平成24年度	平成29年度
小学校	不登校児童数 (人)	18	25	18
	児童数 (人)	4,260	4,632	4,406
	不登校率 (%)	0.42	0.54	0.41
中学校	不登校生徒数 (人)	82	48	89
	生徒数 (人)	1,921	1,999	2,161
	不登校率 (%)	4.27	2.40	4.12
全体	不登校児童・ 生徒数(人)	100	73	107
	児童・生徒数 (人)	6,181	6,631	6,567
	不登校率 (%)	1.62	1.10	1.63

エ 暴力行為の発生件数（問題行動等調査の結果）

		平成20年度	平成24年度	平成29年度
小学校	対教師暴力（件）	0	0	0
	生徒間暴力（件）	0	0	1
	対人暴力（件）	1	0	0
	器物損壊（件）	0	0	0
	合計（件）	1	0	1
中学校	対教師暴力（件）	7	9	1
	生徒間暴力（件）	16	13	4
	対人暴力（件）	3	0	0
	器物損壊（件）	6	12	2
	合計（件）	32	27	7
全体	対教師暴力（件）	7	9	1
	生徒間暴力（件）	16	13	5
	対人暴力（件）	4	0	0
	器物損壊（件）	6	12	2
	合計（件）	33	34	8



グラフ3 武蔵村山市立小・中学校における不登校率の推移



グラフ4 武蔵村山市立小・中学校における暴力行為の推移

2 武蔵村山市の小中一貫教育の検証

(1) 検証の目的

武蔵村山市における小中連携教育の推進の発信校という役割を担った小中一貫校村山学園の開校年度に入学した児童が、平成31年3月末、小中一貫校村山学園の最高学年として卒業を迎えた。これを機に、今後の武蔵村山市の教育の充実に資することを目的として、武蔵村山市全体で進めてきた小中一貫教育の成果と課題を検証する。

(2) 検証の概要

武蔵村山市の小中一貫教育及び小中一貫校村山学園の検証は、平成25年6月に武蔵村山市立小中一貫校村山学園検証委員会が作成した「武蔵村山市立小中一貫校村山学園の実践に関する検証報告書」における検証項目に基づいて作成し、市全体の傾向と比較並びに小中一貫校村山学園の経年比較を実施することとした。

項目は、「1 児童・生徒の実態」「2 接続期（6・7年生）の実態」「3 教員の意識」「4 保護者・地域の意識」に分類し、児童・生徒、保護者、地域住民及び教職員を対象とした調査を実施した。

(3) 検証データの収集方法と実施期日

対象		実施時期	配布数	回答数	回収率
児 童	3～6年生	平成30年 6月7日 ～8月3日	3,011	2,923	97.1%
	6年生		734	756	97.1%
生 徒	7～9年生		2,200	2,058	93.6%
	7年生(中学1年生)		731	694	94.9%
保 護 者	家庭数		4,441	2,047	46.1%
地 域	学校運営協議会		222	86	38.7%
教 員	全員		366	269	73.5%

(4) 児童・生徒アンケートの結果

市内全小・中学校児童（3～6年）・生徒（1～3年）を対象とし、以下の項目について意識調査を行った。

表は、質問項目ごとに、「そう思う」を4ポイント、「だいたいそう思う」を3ポイント、「あまりそう思わない」を2ポイント、「そう思わない」を1ポイントとして、平均ポイントを算出したものである。

なお、比較表は「ア 小・中学校における比較」「イ 小中一貫教育3つの型による比較」「ウ 中学校区における比較」を作成した。

ア 小・中学校における比較

NO.	質問	小全体	中全体	全体
1	勉強したことが分かる(小) 学習したことが分かる(中)	3.30	3.08	3.21
2	学校に行くのが楽しい。	3.25	3.10	3.19
3	行事や集会などに楽しく参加している(小) 運動会や合唱コンクールなどの行事に、積極的に参加している(中)	3.18	3.39	3.27
4	たくさん本を読んでいる(小) 読書量は多い(中)	2.95	2.25	2.66
5	学校・学級のきまりを守って生活している。	3.29	3.33	3.31
6	進んであいさつをしている。	3.30	3.19	3.25
7	時と場に応じた正しい言葉遣いをしている。	3.19	3.33	3.25
8	授業が始まる前に、教科書やノートなど、授業で使うものを用意している。	3.09	3.26	3.16
9	教科書・ノートなど、授業で使うものを忘れずに持ってきている。	3.22	3.27	3.24
10	宿題や家庭学習をしっかりとやっている。	3.38	3.01	3.23
11	友達と仲良く遊んだり勉強したりしている(小) 学校での友人関係は良好だと思う(中)	3.60	3.38	3.50
12	学校には仲の良い友達がいる。	3.82	3.67	3.76
13	困っていることなどがあったら、先生や友達に相談している。	3.03	2.87	2.96
14	先生は私のことを分かってくれている。	3.17	2.77	3.01
15	先生は悩みや相談をよく聞いてくれる。	3.14	2.72	2.97
16	地域の行事に進んで参加している。	2.80	2.47	2.66
17	家の人といろいろな話をしている。	3.54	3.22	3.41
18	交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校している。	3.65	3.48	3.58
19	将来したいこと、ついてみたい職業、仕事などの夢がある。	3.49	3.01	3.29

イ 小中一貫教育 3 つの型による比較

NO.	質問	施設一体型	施設隣接型	施設分離型
1	勉強したことが分かる(小) 学習したことが分かる(中)	3. 21	3. 28	3. 19
2	学校に行くのが楽しい。	3. 19	3. 23	3. 18
3	行事や集会などに楽しく参加している(小) 運動会や合唱コンクールなどの行事に、積極的に参加している(中)	3. 17	3. 39	3. 25
4	たくさん本を読んでいる(小) 読書量は多い(中)	2. 57	2. 75	2. 65
5	学校・学級のきまりを守って生活している。	3. 27	3. 36	3. 30
6	進んであいさつをしている。	3. 26	3. 29	3. 25
7	時と場に応じた正しい言葉遣いをしている。	3. 13	3. 32	3. 25
8	授業が始まる前に、教科書やノートなど、授業で使うものを用意している。	3. 24	3. 21	3. 14
9	教科書・ノートなど、授業で使うものを忘れずに持ってきている。	3. 23	3. 29	3. 24
10	宿題や家庭学習をしっかりとやっている。	3. 11	3. 41	3. 21
11	友達と仲良く遊んだり勉強したりしている(小) 学校での友人関係は良好だと思う(中)	3. 46	3. 56	3. 50
12	学校には仲の良い友達がいる。	3. 71	3. 81	3. 75
13	困っていることなどがあったら、先生や友達に相談している。	2. 94	3. 01	2. 96
14	先生は私のことを分かってくれている。	2. 96	3. 06	3. 00
15	先生は悩みや相談をよく聞いてくれる。	2. 95	2. 97	2. 97
16	地域の行事に進んで参加している。	2. 59	2. 50	2. 71
17	家の人といろいろな話をしている。	3. 37	3. 49	3. 40
18	交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校している。	3. 56	3. 60	3. 58
19	将来したいこと、ついてみたい職業、仕事などの夢がある。	3. 34	3. 31	3. 28

ウ 中学校区における比較

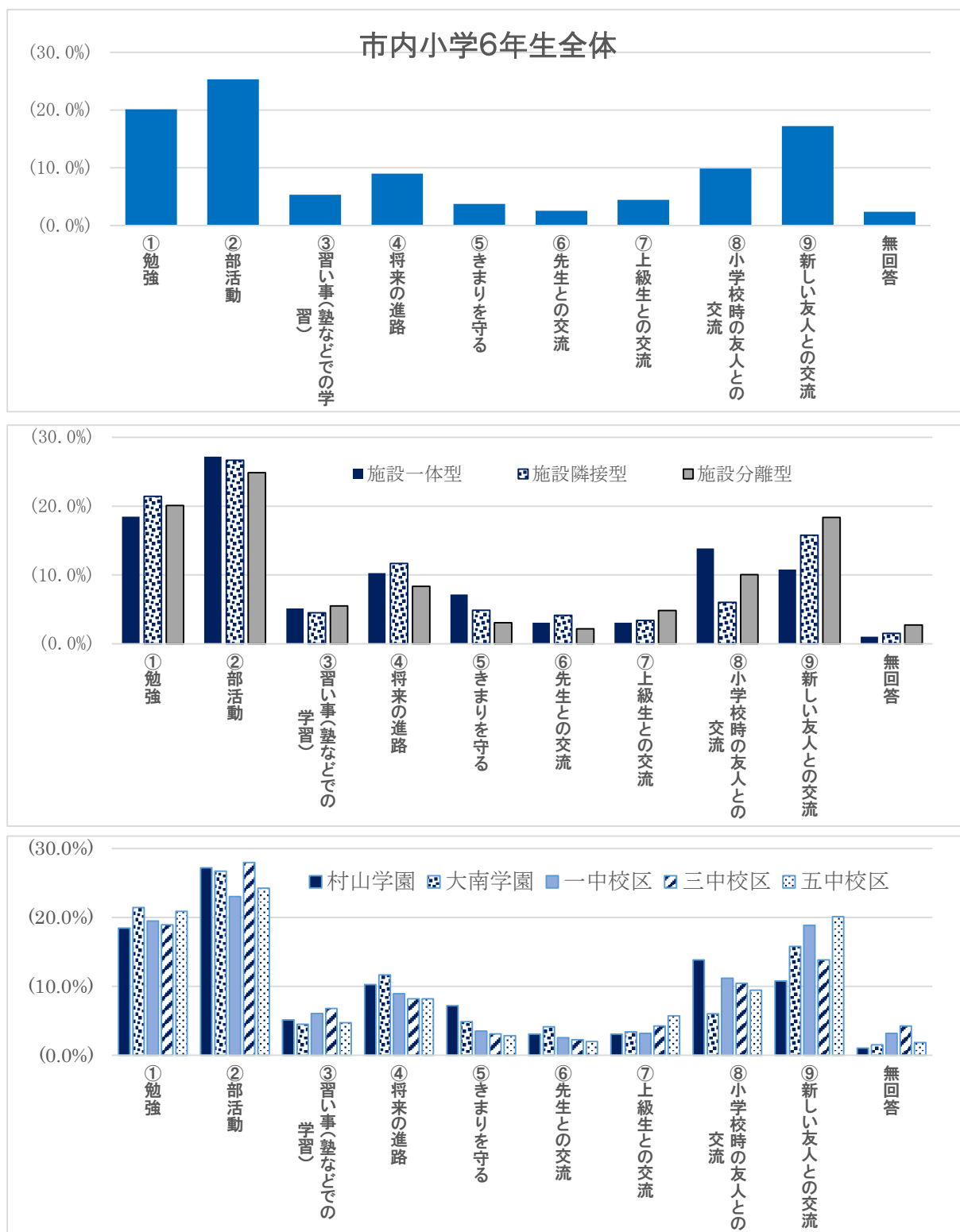
NO.	質問	村山学園	大南学園	一中校区	三中校区	五中校区
1	勉強したことが分かる(小) 学習したことが分かる(中)	3.21	3.28	3.20	3.29	3.13
2	学校に行くのが楽しい。	3.19	3.23	3.23	3.28	3.10
3	行事や集会などに楽しく参加している(小) 運動会や合唱コンクールなどの行事に、積極的に参加している(中)	3.17	3.39	3.25	3.36	3.20
4	たくさん本を読んでいる(小) 読書量は多い(中)	2.57	2.75	2.55	2.76	2.65
5	学校・学級のきまりを守って生活している。	3.27	3.36	3.35	3.35	3.26
6	進んであいさつをしている。	3.26	3.29	3.29	3.28	3.20
7	時と場に応じた正しい言葉遣いをしている。	3.13	3.32	3.26	3.33	3.20
8	授業が始まる前に、教科書やノートなど、授業で使うものを用意している。	3.24	3.21	3.24	3.22	3.04
9	教科書・ノートなど、授業で使うものを忘れずに持ってきている。	3.23	3.29	3.20	3.25	3.25
10	宿題や家庭学習をしっかりとやっている。	3.11	3.41	3.14	3.32	3.18
11	友達と仲良く遊んだり勉強したりしている(小) 学校での友人関係は良好だと思う(中)	3.46	3.56	3.47	3.57	3.47
12	学校には仲の良い友達がいる。	3.71	3.81	3.72	3.78	3.75
13	困っていることなどがあったら、先生や友達に相談している。	2.94	3.01	2.91	2.98	2.97
14	先生は私のことを分かってくれている。	2.96	3.06	3.07	3.03	2.95
15	先生は悩みや相談をよく聞いてくれる。	2.95	2.97	3.00	2.96	2.95
16	地域の行事に進んで参加している。	2.59	2.50	2.72	2.80	2.65
17	家の人といろいろな話をしている。	3.37	3.49	3.38	3.46	3.38
18	交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校している。	3.56	3.60	3.57	3.61	3.57
19	将来したいこと、ついてみたい職業、仕事などの夢がある。	3.34	3.31	3.27	3.31	3.27

（５）接続期（６・７年生）アンケートの結果

市内全小学校６年児童及び市内全中学校１年生徒を対象とし、以下の項目について意識調査を行った。

ア 小学校６年生アンケートの結果

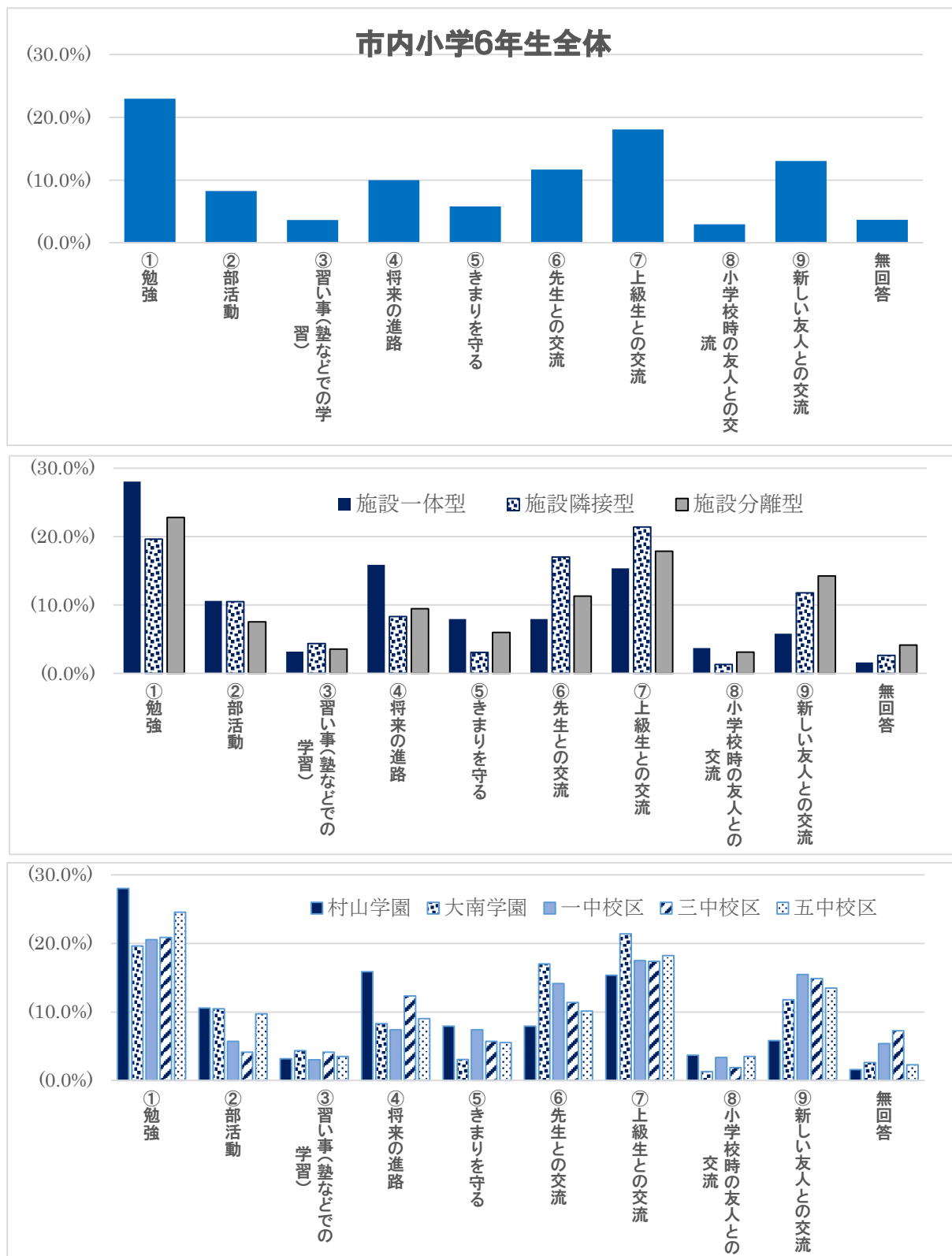
１ 来年の４月から７年生（中学生）になりますが、何か、期待していること（頑張りたいこと）はありますか。３つまで選んで○をつけてください。



【主な意見等】

		学習・行事等	対人関係	志・進路	その他
施設一体型		■ 勉強が楽しくなしてほしい。 ■ 部活が楽しみ(今の部活の種目より多くしてほしい。)	■ 新しい友達を作ること		■ 中学校が楽しみ
施設隣接型		■ 運動会とかいろいろな行事・スポーツ ■ 運動会の競技で新記録を取りたい。			■ 学校の中を探検する。
施設分離型	一 中 校 区	■ ダンス部をつくりたい。 ■ 遊ぶ時間の大部分を勉強などに向けるように頑張る。 ■ 運動会	■ 敬語や先輩 ■ 先生との交流	■ 志望高校に行けるかどうか	■ クラブチームに入りたい。 ■ シャーペン ■ 給食 ■ 遊び
	三 中 校 区	■ 歴史の勉強 ■ イベント ■ 勉強する環境が変わること ■ 学校行事、委員会活動	■ 障害がある中学生との交流 ■ 幼稚園の時の友人に会えるかもしれないから		
	五 中 校 区	■ 学校での行事(合唱コンクール) ■ 部活動 ■ 家庭学習 ■ 中学校の図書室で読んだことない本をたくさん読むこと	■ 上級生や幼稚園の時の友人、習い事の友達、同じ学年やクラスの友達との交流 ■ 喧嘩をしないこと、毎日笑顔になること ■ いろいろな人と仲よくすること		■ 習い事を続けること ■ 部活とは別のスポーツをすること ■ 兄と一緒に通えること

2 来年の4月から7年生（中学生）になりますが、何か、心配に思うこと（不安に思うこと）はありますか。3つまで選んで○をつけてください。

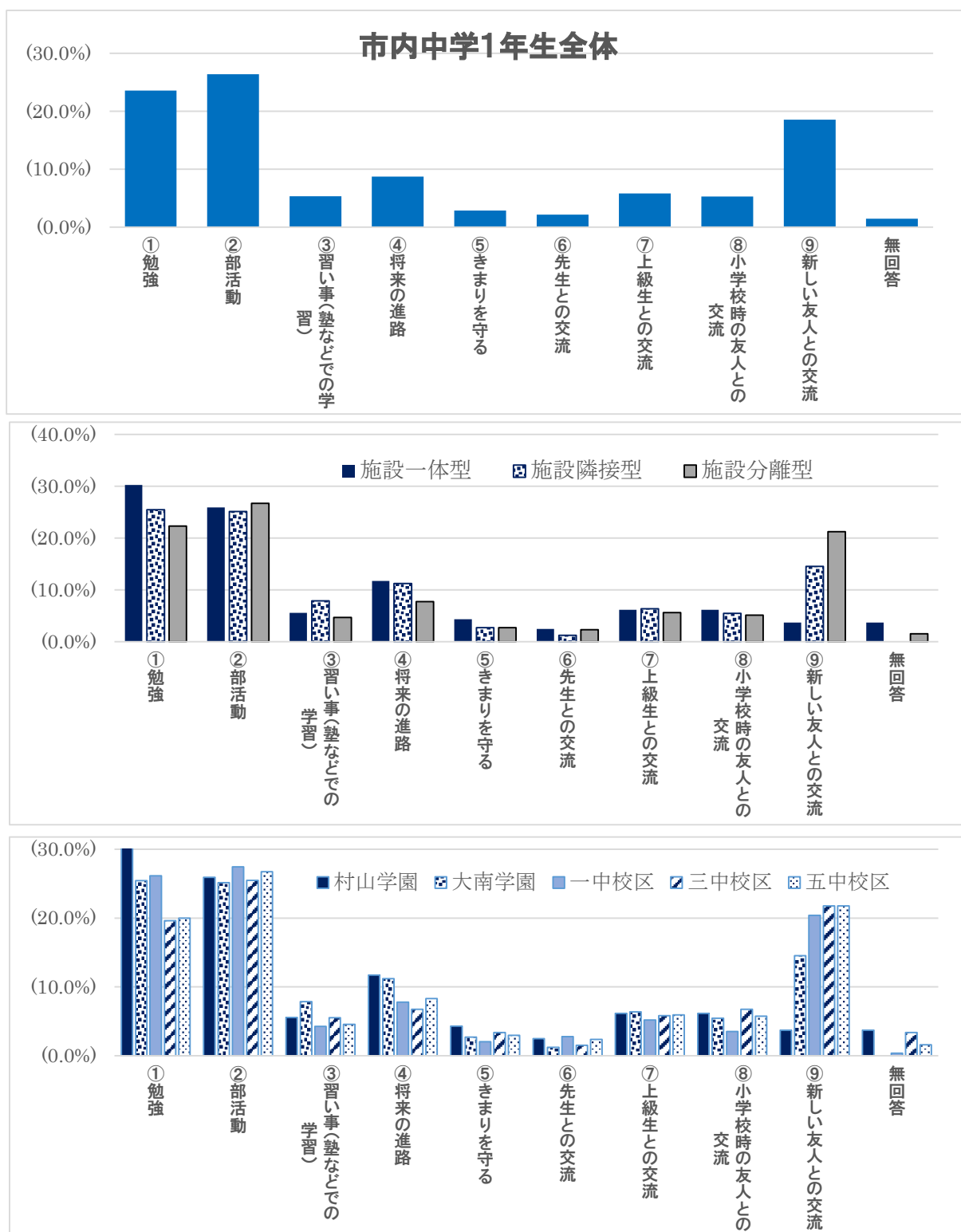


【主な意見等】

		学習・行事等	対人関係	志・進路	その他
施設一体型		■ 勉強についていけなさそう。 ■ 学力をもう少し上げてほしい。勉強態度が少し悪い。 ■ 勉強と部活動の両立が心配	■ クラスになじめるか心配 ■ 中学生になって友達ができるか不安 ■ 6年生の間に、中学の先生と関わりたい。		
施設隣接型			■ いじめ ■ 上級生、新しい友人との交流		
施設分離型	一 中 校 区		■ いじめ ■ 小学校で仲の悪い子との関係	■ 将来の進路	■ スポーツ
	三 中 校 区		■ いじめ、暴力 ■ クラスの場所、専科の場所を覚えられるかどうか。		■ 遊ぶ時間
	五 中 校 区	■ 自分が入りたい部活に入れるか ■ 体育の学習内容	■ 友達ができるか ■ みんなが優しくしてくれるか ■ 周りでいじめが起きないか ■ 小学校が同じだった友達と同じクラスにれるか	■ 将来の進路	■ 学校に慣れるか ■ 時と場に応じた言葉遣いができるか

イ 中学校1年生アンケートの結果

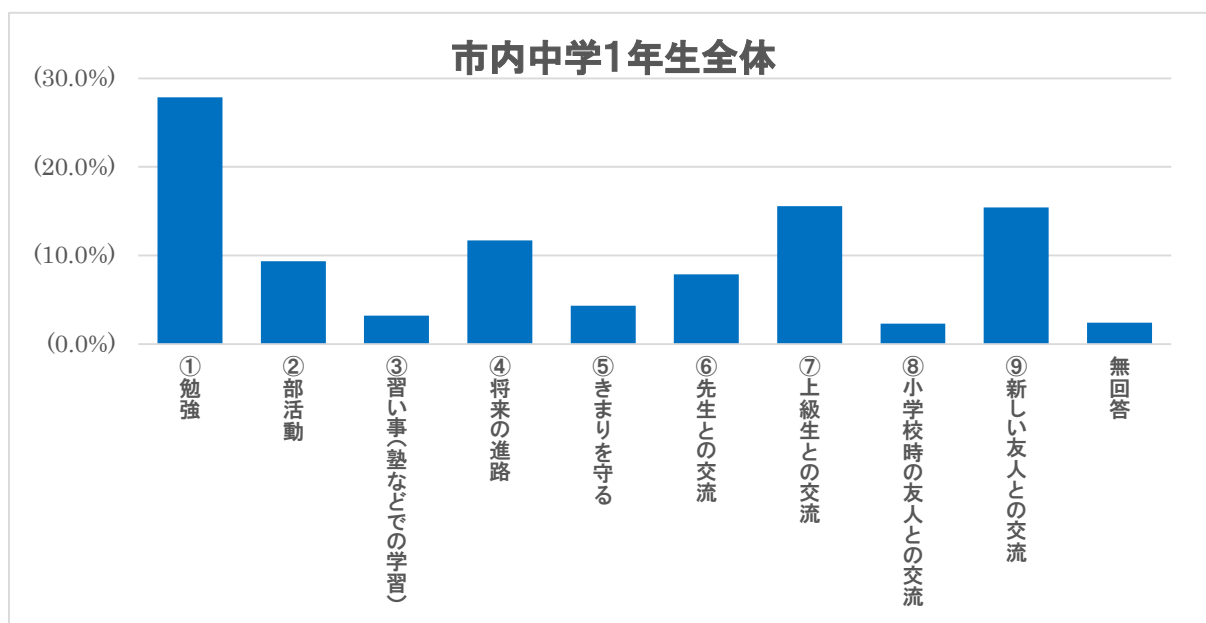
1 今年の4月に7年生（中学生）になりました。7年生（中学生）になる前に、期待していたこと（頑張りたいこと）は、ありましたか。3つまで選んで○をつけてください。

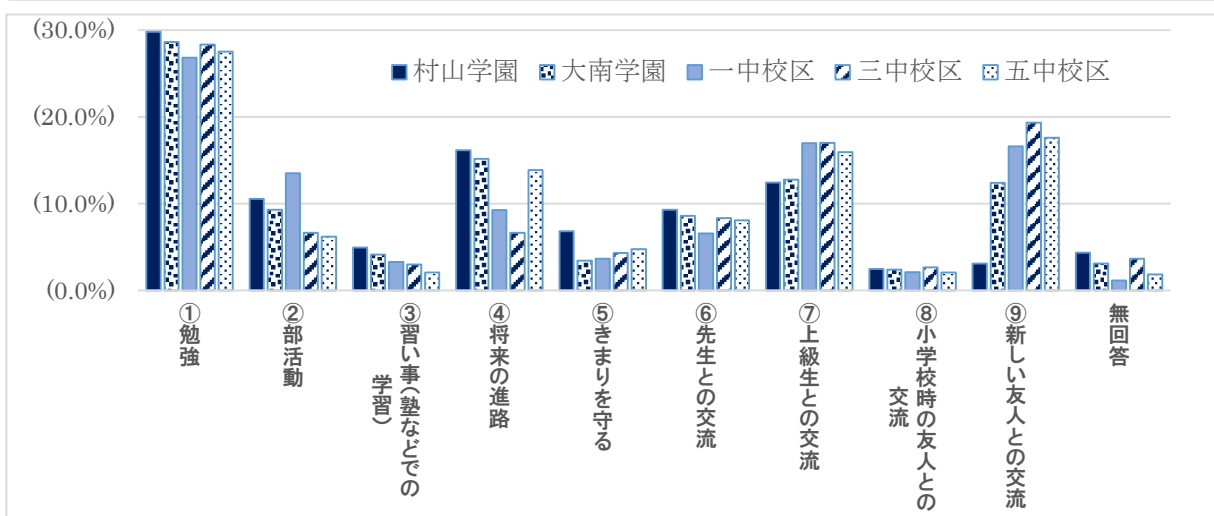
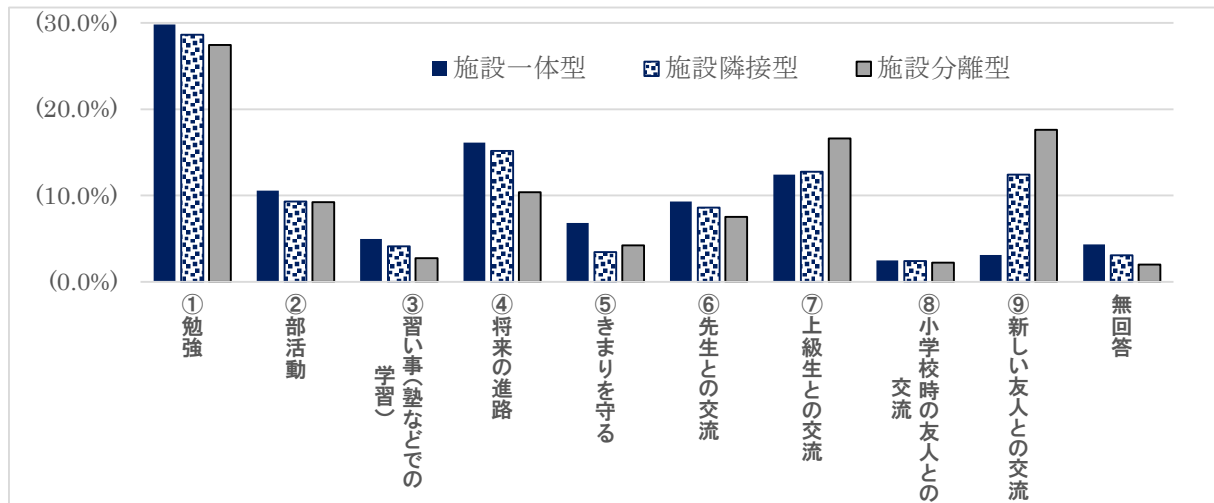


【主な意見等】

		学習・行事等	対人関係	志・進路	その他
施設一体型					■ きまりを守る。
施設隣接型		■ 合唱コンクール等の行事、図書室 ■ 委員会活動での取組	■ 友人関係 ■ 新しいクラス	■ いい先輩になること	■ 部活動と勉強を両立できるように頑張りたい。 ■ 習い事のスポーツ
施設分離型	一 中 校 区	■ スキー教室などの行事や委員会 ■ 授業をしっかり受ける。	■ 新しい環境 ■ 先輩、友人、新しい友人との交流	■ しっかりと挨拶をすること ■ 寝坊をしない。	■ 家での手伝い ■ 習い事(塾と学校の両立) ■ 制服
	三 中 校 区	■ 運動会などの行事や委員会 ■ 勉強	■ 違う学校の人と友達になる。	■ 夢との両立 ■ 高校に行く。	■ 楽しみがなかった。
	五 中 校 区	■ テスト勉強 ■ 行事への本気の取組 ■ 本格的な委員会活動	■ 上級生との交流	■ できないことを減らすこと	■ 担任の性別 ■ 習い事 ■ 制服 ■ ジャージ

2 今年の4月に7年生（中学生）になりました。7年生（中学生）になる前に、心配していたこと（不安だったこと）は、ありましたか。3つまで選んで○をつけてください。



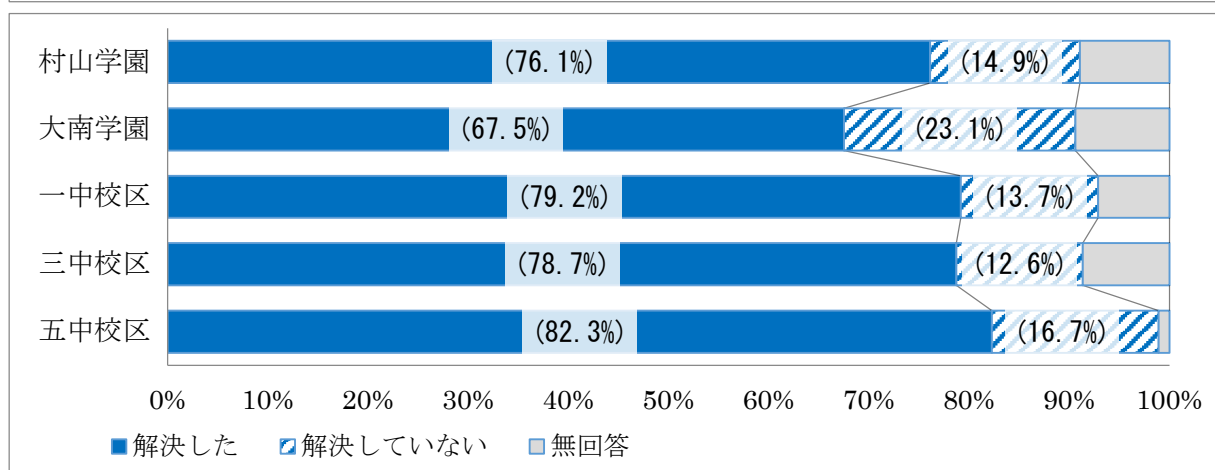
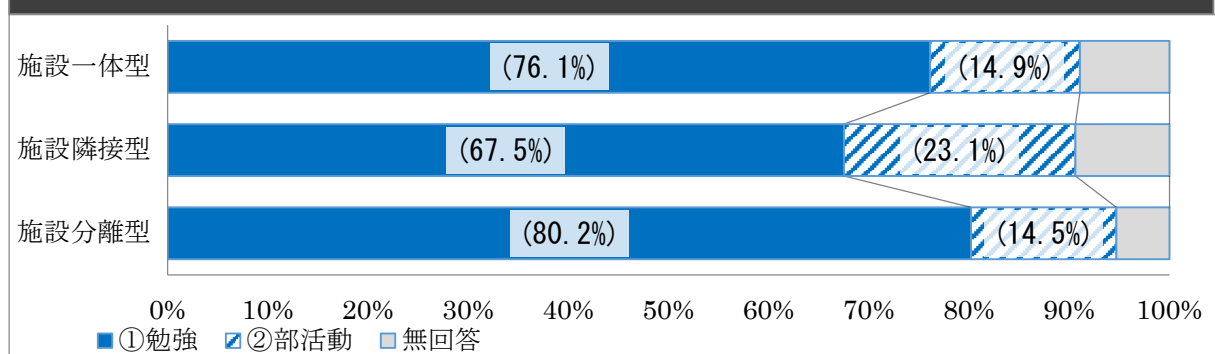


【主な意見等】

		学習・行事等	対人関係	志・進路	その他
施設一体型					■ きまりを守れるか。
施設隣接型		■ 塾など、勉強の習い事をしていないので、勉強についていけるか、いつか入る塾はどうしようか。	■ 友人関係 ■ いじめ等のトラブル		■ 新しいクラスになじむ。
施設分離型	一中区		■ しっかり挨拶できるのか。 ■ 友達、先生との交流や上級生との交流		■ 通学路 ■ 提出物 ■ 塾と学校の両立
	三校区	■ 授業中の挙手のこと			

		学習・行事等	対人関係	志・進路	その他
	五中校区	■ テストの成績	■ クラスメイトとの関係 ■ いじめやからかい		■ 学校そのものに対する恐怖心

3 7年生（中学生）になる前に、心配していたこと（不安だったこと）は解決しましたか。いずれかに○をつけてください。



【主な意見等】

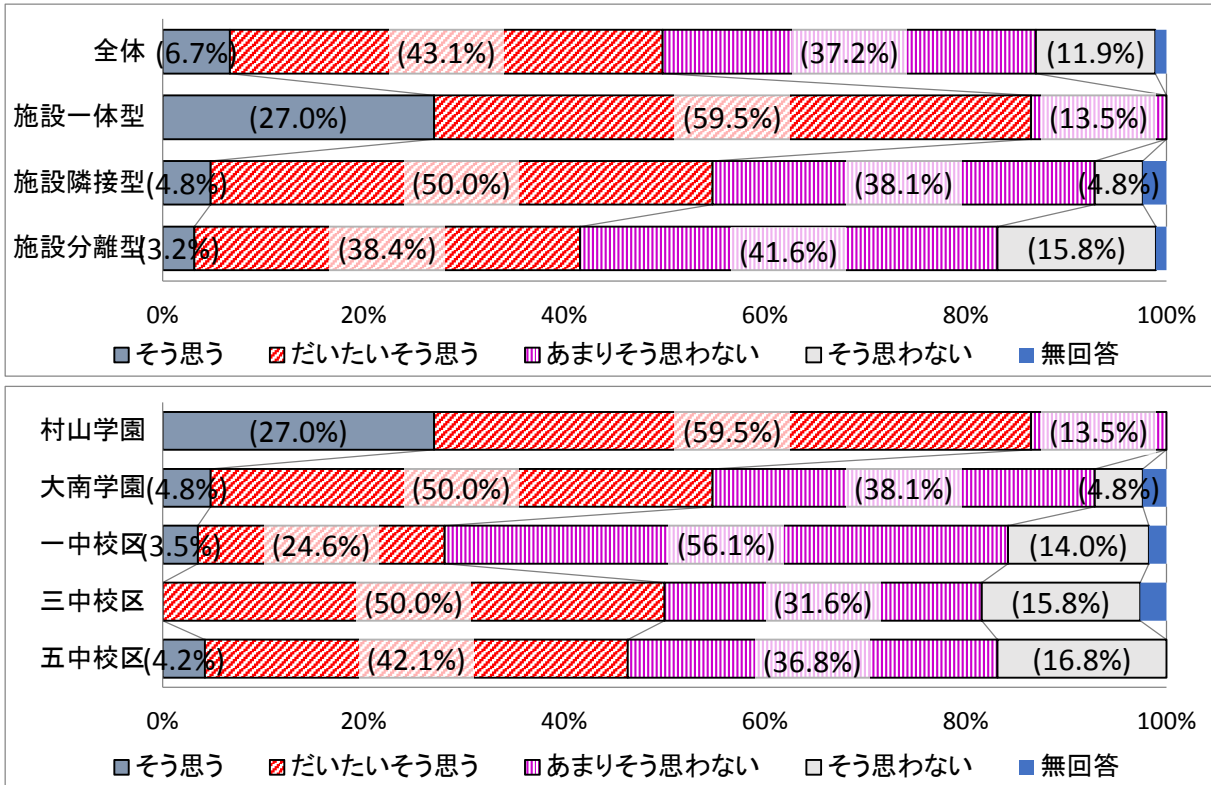
	学習・行事等	対人関係	志・進路	その他
施設一体型	■ 部活動がまだ決まっていないこと。 ■ 時々、授業でついていけないときがある。 ■ 部活動と勉強の両立	■ 友達関係 ■ 部活動で上級生に話すこと ■ 友達とのけんかが増えた。		■ 規則 ■ 部活に必要な荷物が多く、困っている。
施設隣接型	■ 勉強が分からない。授業についていけない。	■ 友人関係 ■ 上下関係 ■ 他の学校の子と仲良くできるかどうか。		■ 勉強と習い事の両立が難しい。

		学習・行事等	対人関係	志・進路	その他
		■ 時間がなく、勉強時間が取れなくて授業の復習ができないこと ■ 部活動が忙しく、勉強との両立がうまくできていない。	■ 部活の先輩が怖い。退部を考えている人が多い。		■ 休み時間が少ない。外で遊ぶ時などがほしい。
施設分離型	一 中 校 区	■ 授業の進みが早い。 ■ 部活動の日数が多く、時間が長い ■ クラスがうるさい ■ チャイム前着席	■ 友人関係 ■ 先生との関わり		■ 持ち物が多い。 ■ 時間と体調の管理 ■ 先生への失礼な言葉遣い
	三 中 校 区	■ 授業についていけない。	■ 先輩との交流 ■ クラスに信頼できる友達がいらない。周りになじめない。		■ 休み時間が短い。
	五 中 校 区	■ 授業が早く進むこと。おいていかれることがある。 ■ 授業中うるさいこと ■ 図書の時間がないこと ■ 勉強法がよく分からないこと	■ 変な違う名前と呼ばれ笑われること ■ 先生との関わり方が分からないこと ■ コミュニケーションを取れない友達がいること ■ 部活動での上級生や同級生からの視線	■ 進路、将来の夢が決まっていないこと	

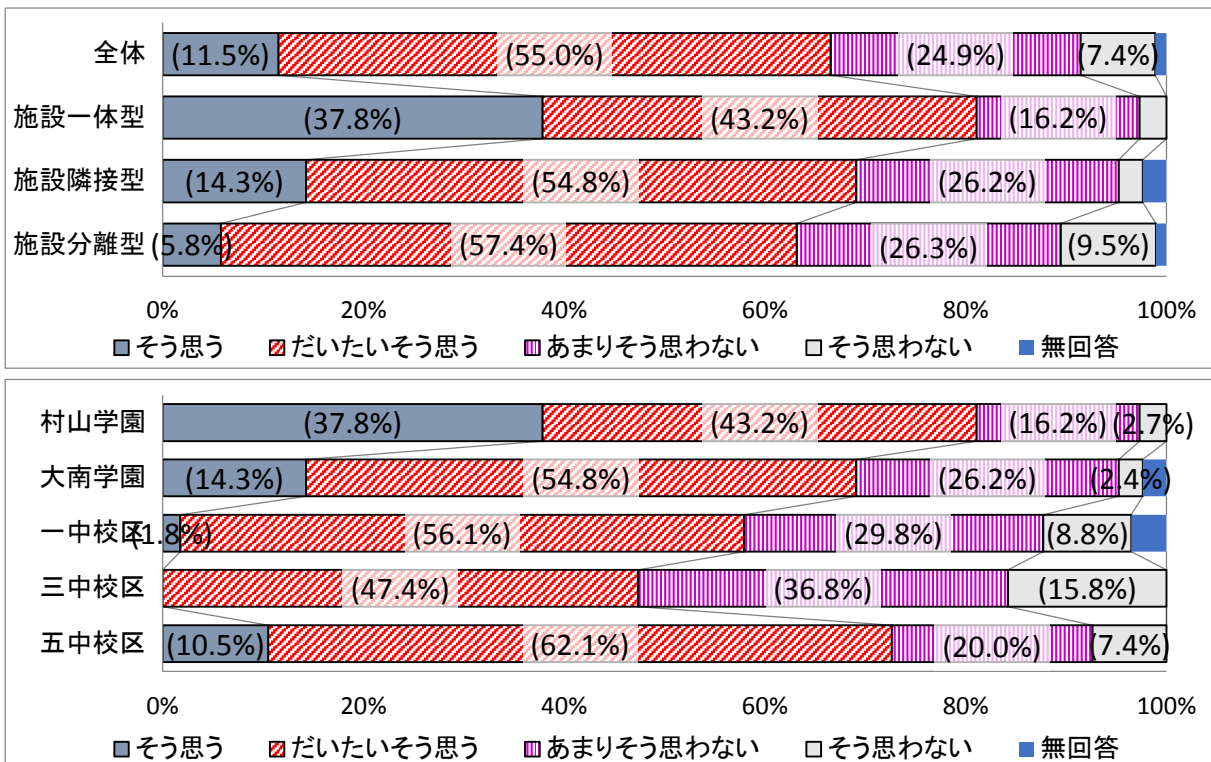
（６）教員アンケートの結果

市内全小・中学校教員を対象とし、以下の項目について意識調査を行った。

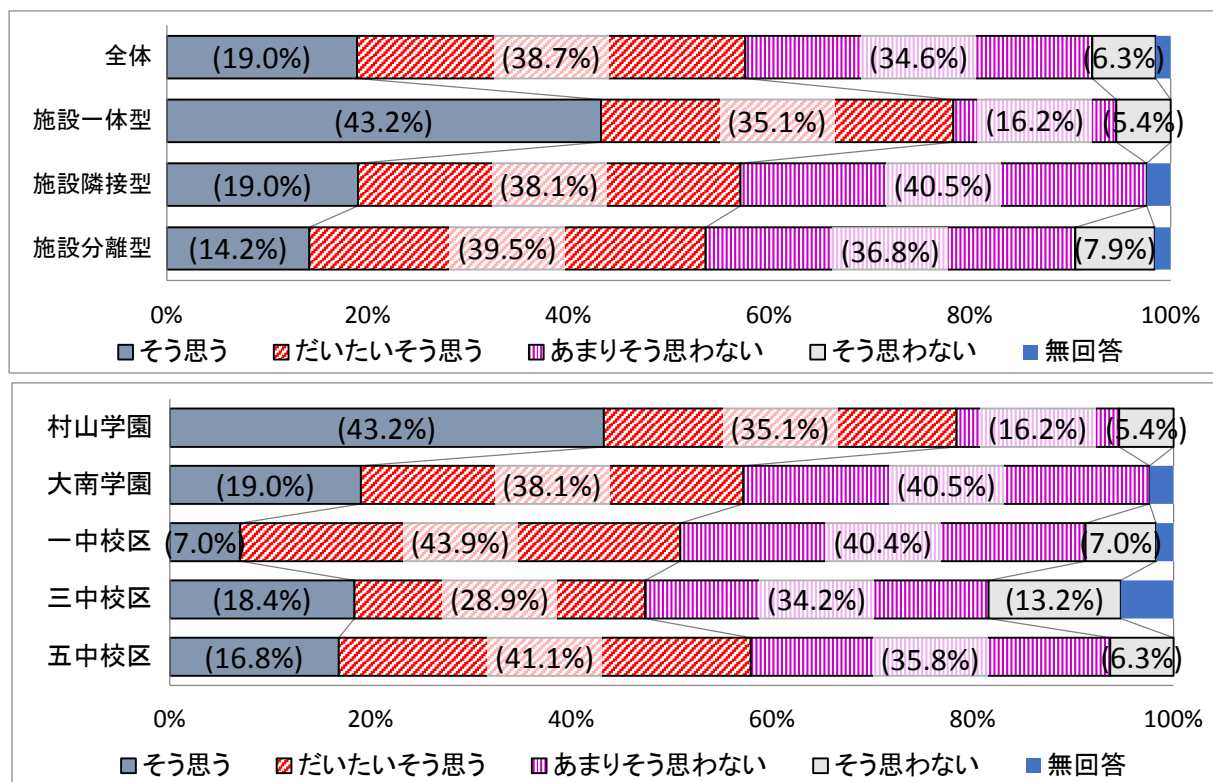
１ 小中一貫教育を通して、児童（生徒）の姿から、これまで自分が抱いていた児童像（生徒像）に変化や新たな気づきを見出すことができた。



２ 小中一貫教育を通して、児童（生徒）の学習や生活の様子を見て、児童（生徒）の発達の段階を理解することができた。



3 児童（生徒）に接したり、小学部教員（中学部教員）の児童（生徒）に対する指導を見たりすることで、生徒（児童）への指導の在り方を考え直す契機となった。



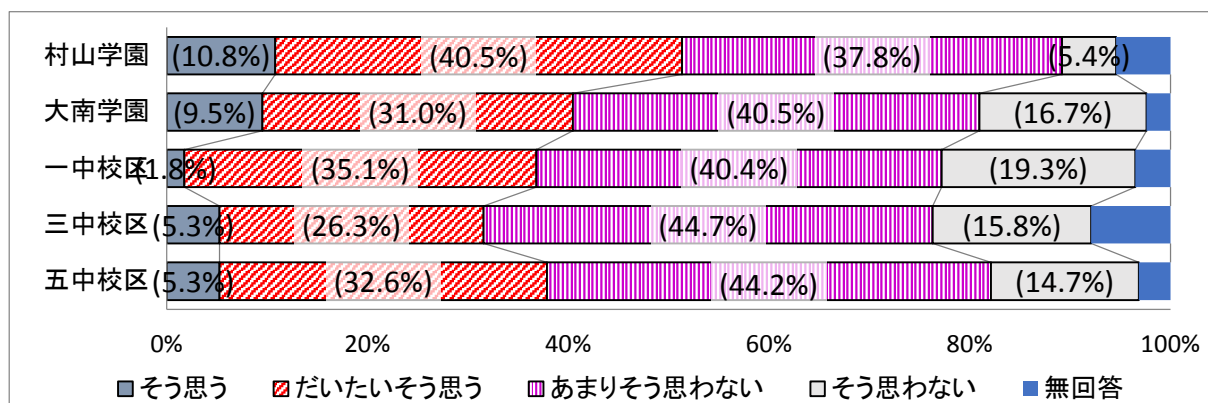
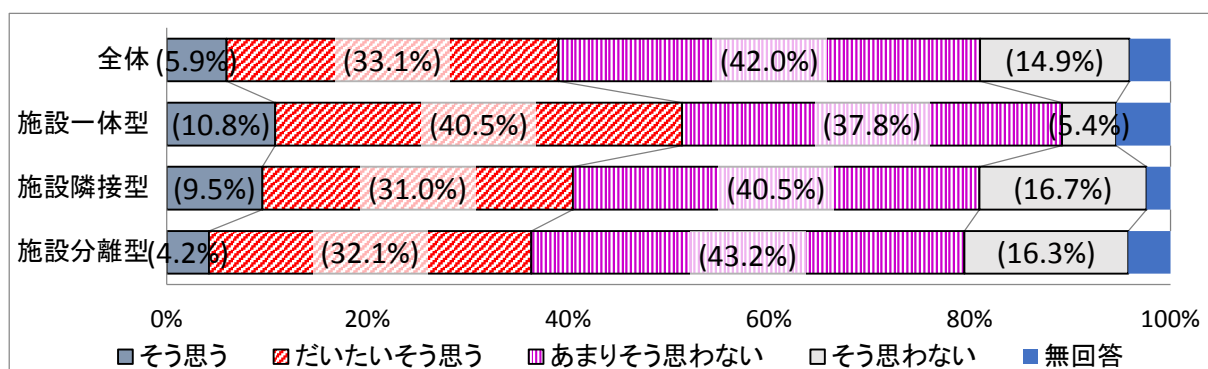
【主な意見等】

	児童・生徒対応	指導方法の工夫	内容の系統性等	その他
施設一体型	- 児童への寄り添った対応。小学部は、より温かみを感じるような指導であるように見えた。 - 話しかけられる、相談される存在になること - 小と中の教員では、生徒との距離感が違う。	- 教員がほとんどの部分を考えてり指導したりしているところ - 分かりやすい言葉に言い換える等、話し方を工夫すること - 児童の目線で、分かりやすく伝えることの必要性	9年間の連続した指導、見通しての指導ができる。 - 小学生のうちに基本的な態度を身に付けさせる必要があると感じた。	- 小学部の時にどのような生活をしてたか分かった。 - 言葉遣いや対応、言葉かけ等の指導の在り方 - 他の先生がどんな時にどんな叱り方をするのか見ると、叱るポイントを考え直す契機になる。
施設隣接型	中学での先生方の指導のスタンスを知ることができた。	丁寧な言葉遣い、きれいな字（板書）	中学の授業を見ることで、小学校で何をしておくべきか分かった。	授業等で連絡を密にとるようになり、理解が深まった。

		児童・生徒対応	指導方法の工夫	内容の系統性等	その他
		■ さらに丁寧に ■ 暴力や授業におけるきまり等を守れなかったときのメリハリのある指導の必要性を痛感したこと	■ なぜ悪いのか、次からどのようにしていくのか指導しているのを見て、直すきっかけになった。	■ 小学校段階で、どのような内容の理解や技能の習得が大切(中学での学習で重要)なのかということが実感・再発見できた。	■ 話し方、言葉の選び方 ■ きめ細やかな指導 ■ 卒業した児童がその後、どのような形で、中学校で指導されているかが分かった。
施設分離型	一 中 校 区	■ 学齢期に合った指導や接し方	■ 教材の設定(ノートのとり方、板書、活動など)、授業のテンポにおいて、中学校の指導を参考にした。円滑な接続ができるようにした。	■ 学習指導や生活指導、小中のつながりを意識するようになった。 ■ 小学校でチャイム前着席ができていないことを知った。	■ 中学と小学校の子供への関わりはかなり違う。文化が違うのでなかなか取り入れるまではいかない。
	三 中 校 区	■ 話し方がとてもゆっくりである。	■ 英語の教え方や教材を、小学校でやっているものに寄せた。	■ 外国語の指導をする上で、中学校入学前までに指導しておく内容について整理することができた。	■ 年々、低年齢化していることを実感し、中1への対応の仕方がより丁寧に行うべきだと思うようになった。
	五 中 校 区		■ それぞれの発達段階に応じた指導について、改めて考える契機となった。 ■ 五中校区スタンダードを基にした授業づくり	■ 小中が共同で授業研究をする場面にて、発達段階及び指導内容の系統性について、理解が深められた。 ■ 小学校で身に付けるべき力(学習・生活)をしっかり指導する必要がある。	■ 生徒の姿を見て、中学までつながる学習規律や小学校段階の学習内容の定着を目指さなければと意識するようになった。 ■ 授業観察をする中で、小中の系統性を考え、それぞれに目標を立てて積み重ねる必要性を感じた。

	児童・生徒対応	指導方法の工夫	内容の系統性等	その他
		■ 同じ教科でも、授業の流れが大きく違うことに驚いた。挙手中心ではなく、グループ活動や指名中心に授業を進める方法もあることが分かった。	■ 発達段階を踏まえた育てたい児童の姿が明確になり、自分が関わっている学年の指導の仕方が分かった。 ■ 板書や電子黒板での指導とノート指導など、系統的につなげたい。	

4 小学部教員（中学部教員）の児童（生徒）に対する指導から影響を受け、生徒（児童）に対する生活指導や学級指導の内容・方法を変えたところがある。



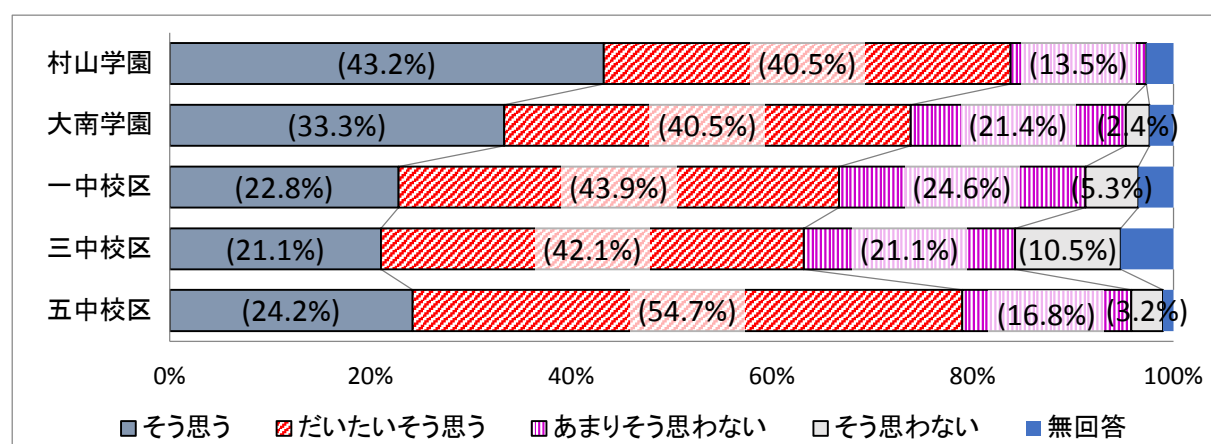
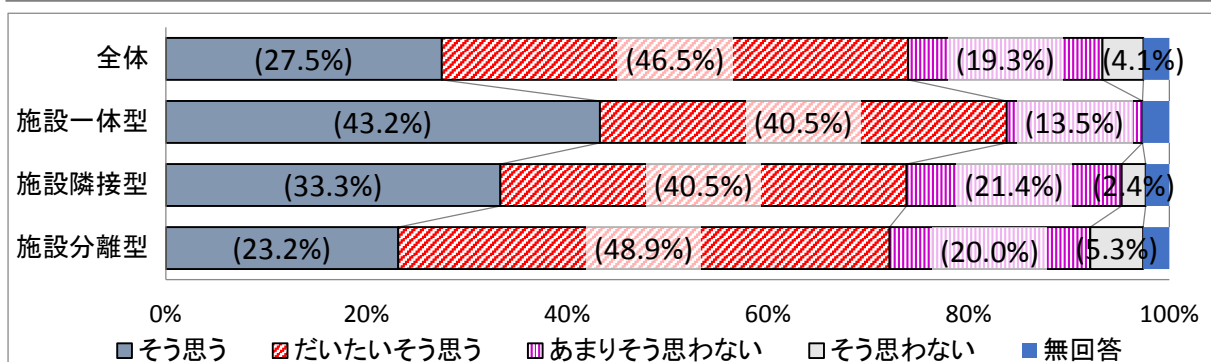
【主な意見等】

	児童・生徒対応	指導方法の工夫	内容の系統性等	その他
施設一体型	■ 頭ごなしに言うことがなくなった。	■ 楽しく取り組むということを大切にしようと思った。	■ 6年生でやってきたことは、生徒に任せてみる。	

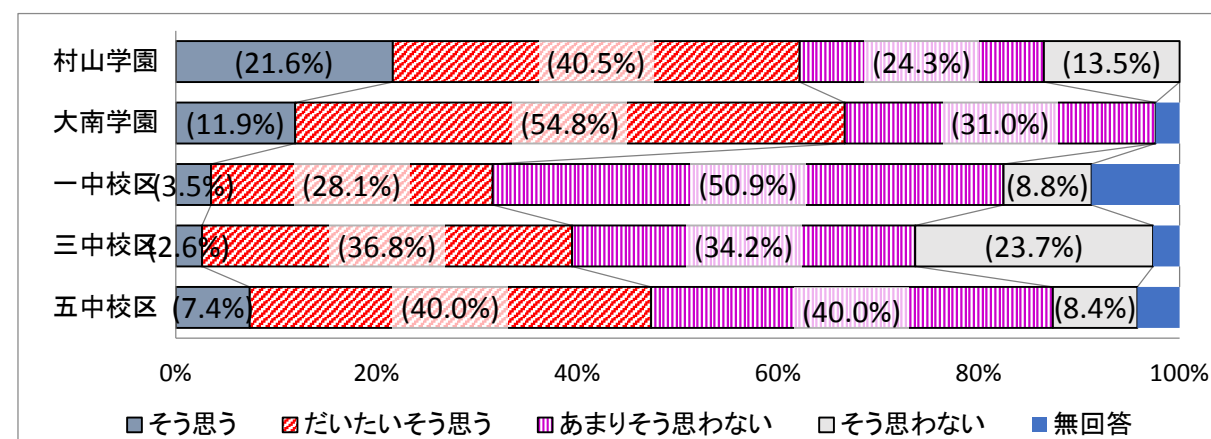
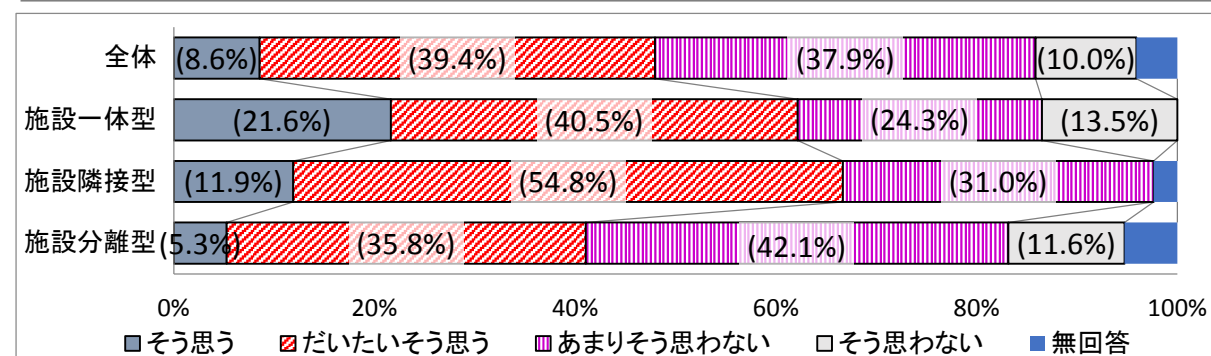
		児童・生徒対応	指導方法の工夫	内容の系統性等	その他
		■ 寄り添った指導 ■ 叱らずに誘導する方法をまねしているが難しい。 ■ 端的で分かりやすい指示の出し方 ■ これまで以上に、丁寧な言葉遣い、柔らかな表情、笑顔での対応を心掛けるようになった。		■ 中学に入っ て困らないよ う、時間や態度 のことなどの 徹底 ■ 小中共通の きまり	
	施設隣接型	■ 褒める場面を増やした。 ■ 易しい言葉や分かりやすい言葉を使うよう心掛けている。	■ 小学校高学年の児童がどのような指導を受けてきたのかを知ること、中学校での指導の方法を考えることができる。 ■ できないことをそのままにしないこと		■ 丁寧な指導、楽しい掲示物 ■ 宿題提出率を高めるため、朝、班ごとに宿題を集めること
施設分離型	一 中 校 区		■ 小学部教員の工夫を参考にしてほしい。 ■ 小と中は違うというスタンスで授業は進める。中1にはゆっくり説明する。 ■ 視覚的な教材を増やした。 ■ 授業の目標の掲げ方や教具、発問の方法	■ 小・中で指導内容を合わせられるようになった。 ■ チャイム前着席は中学校で指導すべきだと思い、指導を徹底するようになった。	■ 小学校段階での学習内容の定着が足りない分野が分かった。その対策として、中学校でもう一度ドリルなど使ってしっかり教えている。

		児童・生徒対応	指導方法の工夫	内容の系統性等	その他
	三 中 校 区	■ 言葉をより分かりやすく。褒めて育てる。	■ 掲示物の工夫		■ 音楽のパート決めや練習を生徒が主体的に行っていた点
	五 中 校 区	■ 指示ははっきりと、短くする。 ■ 丁寧に分かりやすく話や説明をする。 ■ まずは生徒の話を聞き、何を訴えているのか聞いた上で、善悪、正誤の判断をし、指導している。	■ 中学校においても、視覚的支援を行って(掃除用具の片付け方の写真等)小学校でも必要である。 ■ 五中校区では、話し合い活動を中心にスタンダードを作成しているので、それに合わせて指導を変えた。 ■ 小学校での指導を踏まえて、授業づくりを行っている。 ■ 話し方、板書、掲示の工夫 ■ 授業のめあてと本時の流れを示すこと。	■ 「～です。」と語尾を丁寧に言わせたり、理由を具体的に聞き出したりに指導を変えた。 ■ 基本的なかけ算や分数など、応用力を付ける前に基礎・基本を徹底するよう心掛けている。 ■ 小学校でできてきていること、していないことを考えた上で指導している。	■ SNSが指導上外せない課題であり、小学校のうちから指導が必要である。 ■ 小学校では、髪型や染髪等、自由になっているところもあり、指導内容を揃えていく必要がある。

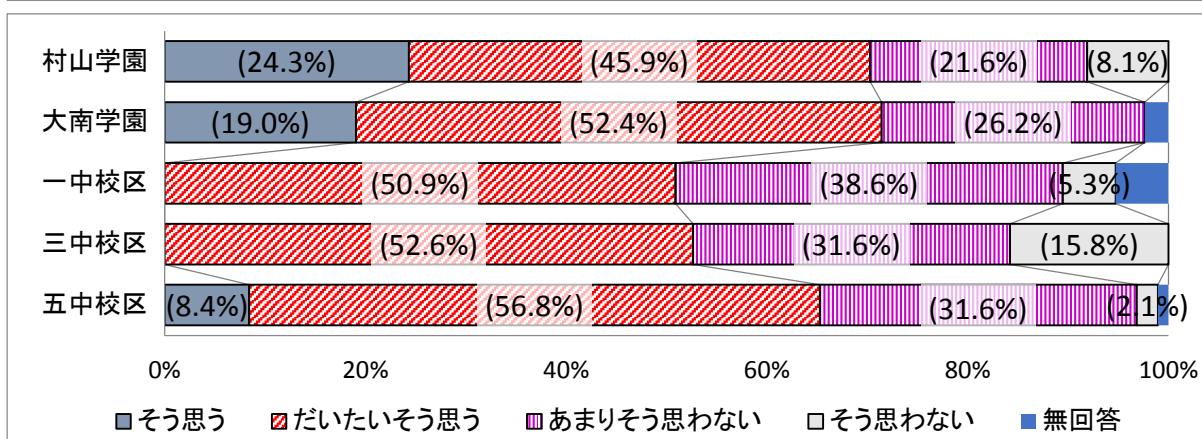
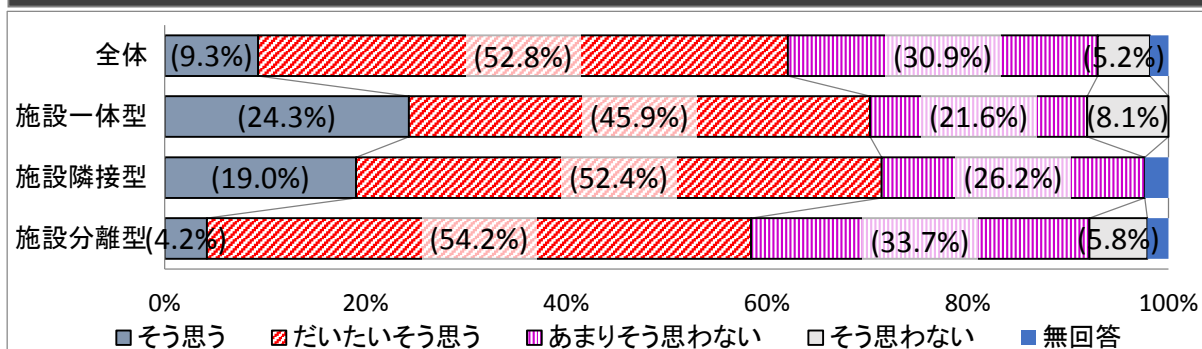
5 小学部教員（中学部教員）の授業や生活指導等について、場面に即した具体的な内容や方法を知りたいと思う。



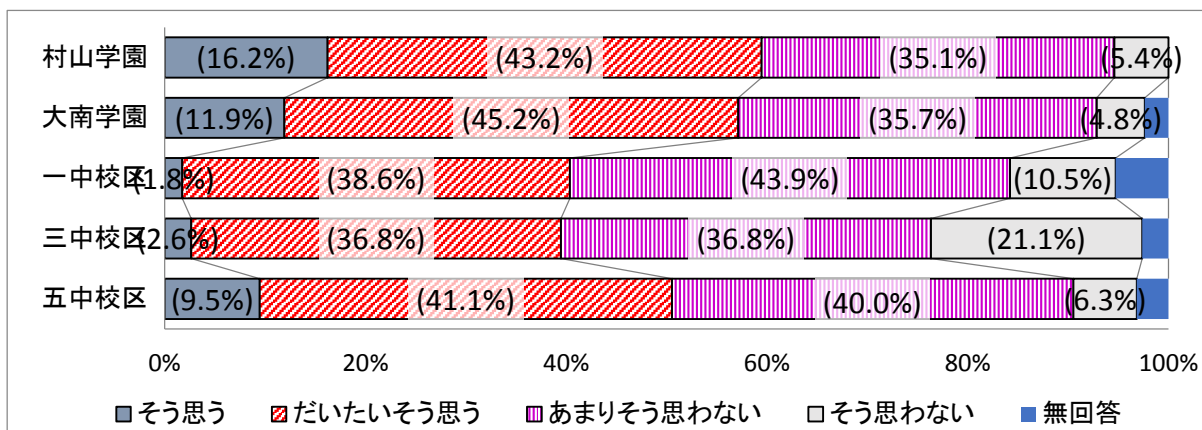
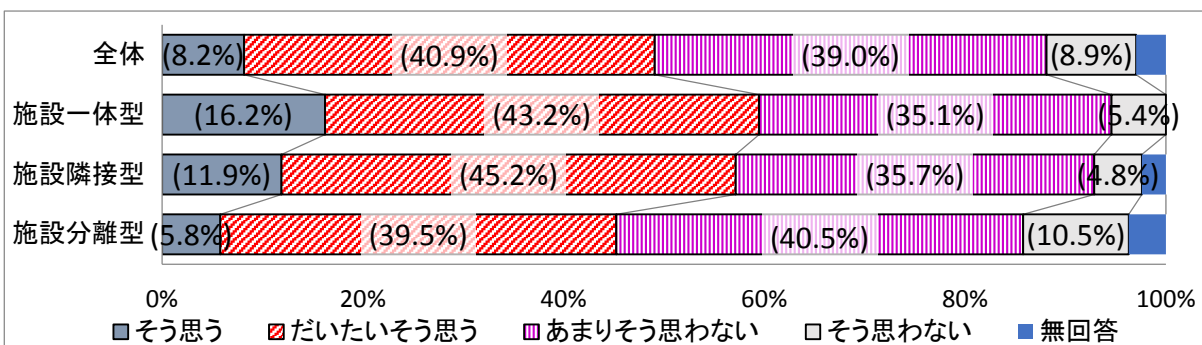
6 校内研究を通して、小中一貫校としての研究活動が次第に深まっている。



7 小中一貫教育における交流活動等を通して、児童・生徒の発達の段階や指導の系統性を理解することができた。



8 小中一貫教育における交流活動や小中合同で実施した授業等を通して学んだことを、自分自身の授業に取り入れ、指導を工夫している。

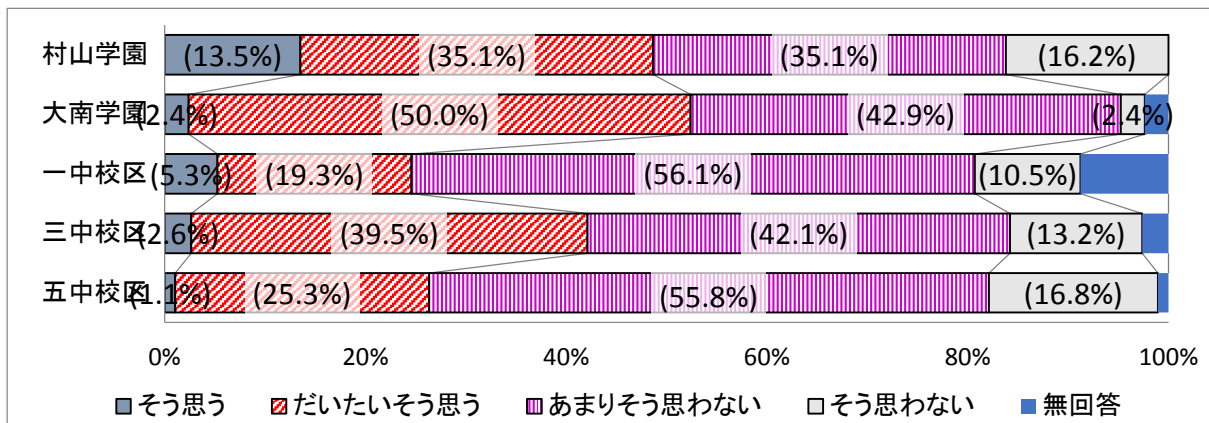
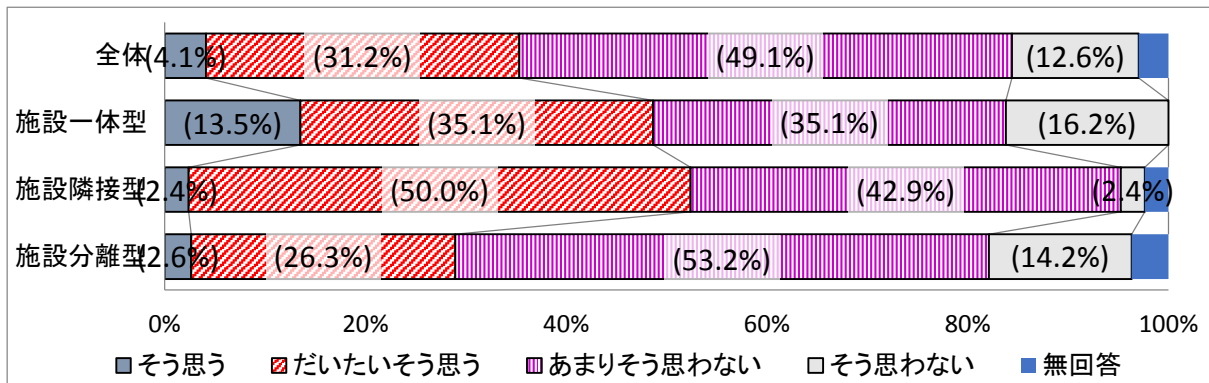


【主な意見等】

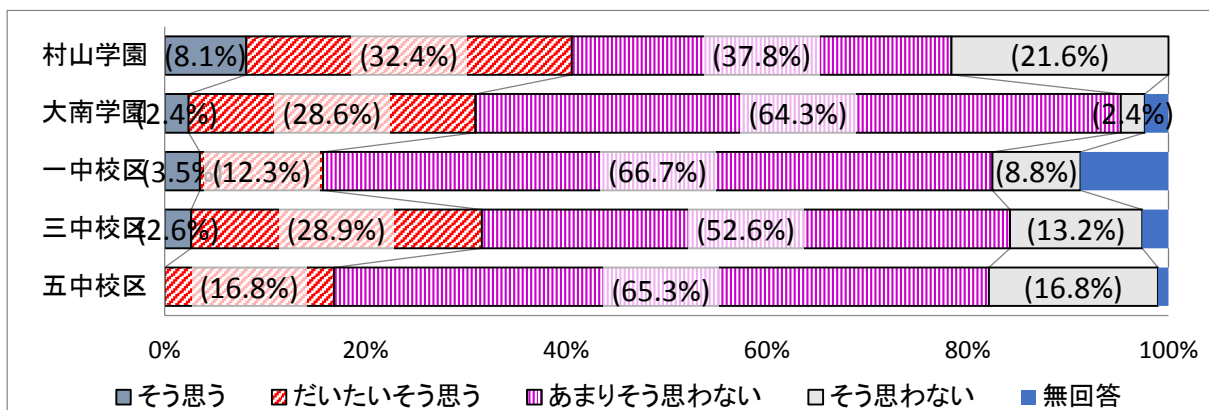
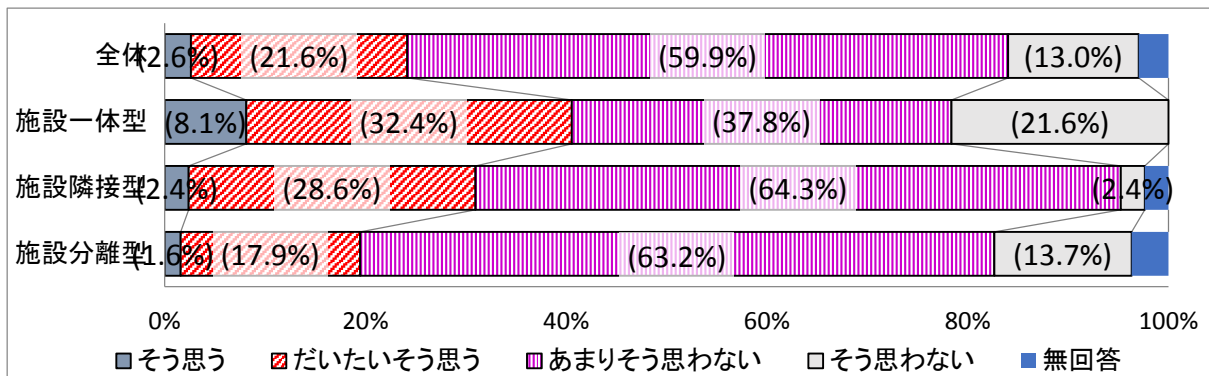
		指導方法の工夫	内容の系統性等	その他
施設一体型		■ 指示は短く、分かりやすく伝える。内容を精査し、「分かる」と「できる」を授業で増やす。小テストの内容も考え直した。 ■ 学級会スタイル ■ 道徳授業の進め方	■ 小学校で学習していることが理解できた。	■ 交流活動を行った後、児童・生徒に感想を聞いたり、良かったこと、改善できることなどを質問したりしている。 ■ 学級経営 ■ 美術鑑賞活動の指導を発達段階に合わせる。
施設隣接型		■ タブレットを活用、理由を添えて発言させるなど ■ 導入時の手だてや手法、まとめる際の重点化・焦点化するポイントなどが、中学での学習を意識するようになった。	■ 中学1年生の指導に関しては、小学校で学んだことを取り入れ、抵抗感を少なくした。 ■ わけ添えを取り入れている。中学校の先生から習ってきたことをしっかり指導する。	■ 生活指導において、高学年において見通しをもたせた。目指す姿について等 ■ 小学校での技能の定着具合に合わせて、授業の進め方を考えた。
施設分離型	一 中 校 区	■ 教材の設定（ノートのとおり方、板書、活動など）において、中学校の指導を参考にした。円滑な接続ができるようにした。 ■ 授業の目標の掲げ方や教具、発問の方法	■ 英語の授業での中学校の先生の思いが伝わったので、中学生になって困らないように内容を教えている。 ■ 算数で分数・小数の計算は繰り返し指導されているので、中学校でも繰り返し指導している。	■ 村山サミットでの思考ツールは興味深く、その後取り入れている。 ■ ねらいを書くことで安心する。
	三 中 校 区	■ 小学校でうまくいった授業をそのまま中学校で実践している。	■ 英語活動における具体的活用場面の想定やアルファベットの書き方など ■ 外国語の指導をする上で、中学校入学前までに指導しておく内容について整理することができた。	

		指導方法の工夫	内容の系統性等	その他
	五 中 校 区	■ 児童・生徒が必要感や困り感をもてる展開を考えている。 ■ 教科指導において、話し合い活動や発表の仕方について、方法を変えた。 ■ 小学校の英語活動を発展させる形で授業を行った。 ■ 板書をしっかりとノートに書き写させる。 ■ 分かりやすい言葉を使う。 ■ 教室の掲示物の内容や掲示の仕方を工夫する。	■ 小学校卒業までに経験させておくべきことを、逆算して年間指導計画に取り入れるようになった。 ■ 英語活動において、アルファベットを意識して指導し、中学校で困らないようにしている。 ■ 小学校の先生から聞いた内容の延長線にあるテーマの時は、「小学校でこう習ったでしょ。」と確認するようになった。	■ 図書の授業実践をして、指導していた。 ■ 中学校の先生方より、より専門性の高い指導内容や方法について、アドバイスをいただいた。 ■ 既習事項の定着を意識して指導するようにしている。 ■ 道徳などは意識し、改善を図っている。 ■ 小・中の特別活動は、進め方が異なると思う。

9 児童・生徒に学習意欲の高まりが感じられるようになってきた。



10 児童・生徒に学力の向上が見られるようになってきた。



11 小中合同の行事について、どのようなメリット、デメリットを感じていますか。また、今後、小中一貫校の良さを活かし、小中合同で取り組む新たな行事の提案がありましたら、お書きください。

【メリット】

	小学生の憧れ	中学生の成長	人間関係等	その他
施設一体型		■ 中学生が、先輩という自覚をもつことができる。 ■ 上級生が下級生を気にして動く姿勢 ■ 中学生が優しい気持ちを保てている。 ■ 中学生が小学生の面倒を見てくれる。 ■ 中学生が主体となっている。	■ 交流行事で助け合う姿が見られている。 ■ 学年が違っていても子供たち同士の仲が良い。 ■ 様々な場面で交流できる。 ■ 他校にいたらそれほど接点がないであろう年齢の人間との関わりの機会がもてる。	■ 小中合同の委員会など継続的にやることができる。 ■ 教える、支える、懂れる ■ 見ごたえがある。
施設隣接型	■ 小学生があこがれを抱ける。中学校の敷居が低くなる。 ■ 小学生は、自分も中学生になったら活動したいと見通しをもったり、中学生と過ごすことを楽しんだりするようになった。	■ 中学生にとっては先輩としての姿を見せ、自信を付けられる。 ■ 中学校のおもてなし活動は、中学生がとても生き生きしていると思う。 ■ 中学生のしっかりした態度を見ることでよいお手本になる。	■ 中学校へ小学校の先生が行くことで、生徒の小学校への距離が縮んだように思われる。中学生が小学校へ来る壁が低くなった。	■ 発達段階に応じた姿を共有できる。 ■ 上級学校の見える化 ■ 小学校を卒業して終わるのではなく、9年間の見通しをもって取り組めること
施設分離型	一 中 校 区 ■ 小中の交流がうまくいった時は、中学生に対してあこがれをもつことができると思う。		■ 縦割り集団で取り組むものが、異年齢の幅が大きいことで、さらにダイナミックなものになる。	■ 中学校のイメージが小学生に伝わる。

		小学生の憧れ	中学生の成長	人間関係等	その他
	三 中 校 区	■ 高学年が中学の活動に関わったり交流したりすると、見通しがもてていい。	■ 中学生が成長し頼りにされていると感じる経験やリーダー性の育成	■ 交流が深まり、より一体となることができる。	■ 相互参加の垣根が低くなる。
	五 中 校 区	■ 中学生のお手本を見て、小学生も頑張ろうとしている。	■ 中学生が小学生の世話をすることにより責任感が身に付く。	■ 児童・生徒同士、小中教員が関わることににより互いに親近感がわく。	■ 小学校での学習、経験を、中学校でそのまま抵抗なく継続できる。 ■ 「中学校ではこのようなことをしているから、小学校ではここまで教えた方がいい」ということが分かった。 ■ 中学校への不安感が和らぎ、学校生活に期待がもてる。

【デメリット】

	小学生	中学生	その他
施設一体型	■ 小6の活躍の場が少なくなる。また、6年生が年長者として育つ場がない。	■ 中学生の幼稚化。もっとレベルの高いことを要求しなければならないが、全体の統一感を優先させると小さい子に合わせるしかない。 ■ 中学部からお世話係になっている。	■ 行事が多く落ち着かないため、学力向上につながっているのかどうか分からない。 ■ 行事が多く、一つ一つの行事のまとめができないまま、次のことが始まってしまう。なんでも一緒にやることが良いのか疑問。 ■ 授業や活動で一緒の時、時間のずれが生じる。 ■ 大きな組織なので、情報共有、共通理解が難しい。 ■ 9学年全ての要望に応える難しさがある。

		小学生	中学生	その他
			■ 運動会で役割がない中学生は、活躍の場が少ない。	
施設隣接型				■ 会議の時間、打ち合わせの時間が増え、放課後がさらに忙しくなった。 ■ 各教科で、小中で教える内容や方法にばらつきがあるように感じる。 ■ 1年と9年が同じことをやるのは無理がある。 ■ 生活時程にずれがあるので、時数が中途半端になる。 ■ 相手校に日程等無理に合わせざるを得ないこと。
施設分離型	一 中 校 区	■ マンネリズムや交友トラブルをリセットできるのが卒業から入学。そのメリットを無くした損失がとても大きい。		■ 運動会等、土日の行事に双方で参加すると教員の負担が増える。 ■ 研究についての共通理解や一つの授業に対する熱。打ち合わせや協議がほとんどない。 ■ 分離型は移動する手段と時間がないので、実施することが難しい。
	三 中 校 区			■ 小学校側の受け身スタイルが原因か、中学生へのメリットがあまり感じられない。 ■ 時間の確保 ■ 教員の土日勤務の増加
	五 中 校 区			■ 日程を合わせるのが大変で、メリットを見いだせる行事がない。 ■ 授業だけ見ると一貫性が感じられない。 ■ 校舎が離れていては困難を感じる。 ■ 校区には複数の小学校があるため、統一が難しい。 ■ 小中合同の行事があまりない。 ■ 小学校の行事に中学校が一方的に関わっていることが多い。 ■ 市ではたくさんの研修・研究があるので、小中一貫の研修にだけ力を入れることができない。 ■ 中学生が小学生のレベルに合わせた取組になる。 ■ 学校選択制により、小中一貫を進めるのは難しい。

【新たな提案】

<施設一体型>

- 地域清掃は、7年生をリーダーとして、5・6・7年で取り組む方が、安全面、中学年部の育成に良いと思う。
- 文化祭のようなもの（中学生が小学生を楽しませる）

<施設隣接型>

- 中学3年生の話を聴く会の対象を小6まで拡大し、ゴールを知ってから入学するようにする。
- 時程や部活、清掃等、小と中の違いを理解して、無理のない行事にしたい。

<施設分離型>

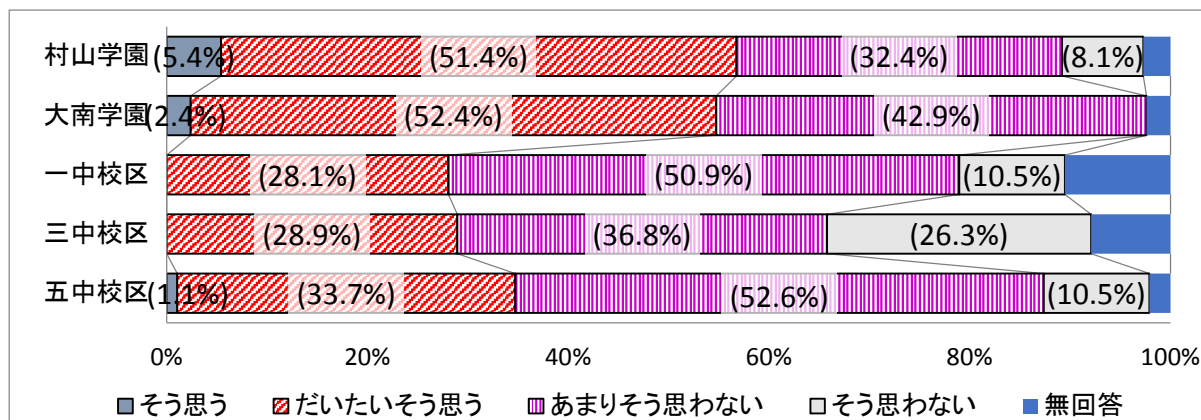
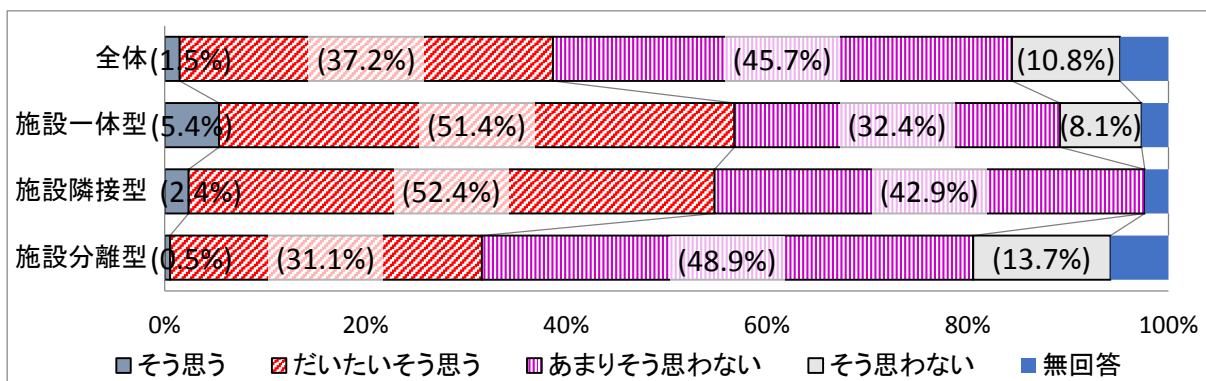
（三中校区）

- クラブなどで楽器の紹介、演奏などで交流ができたらうれしく思う。

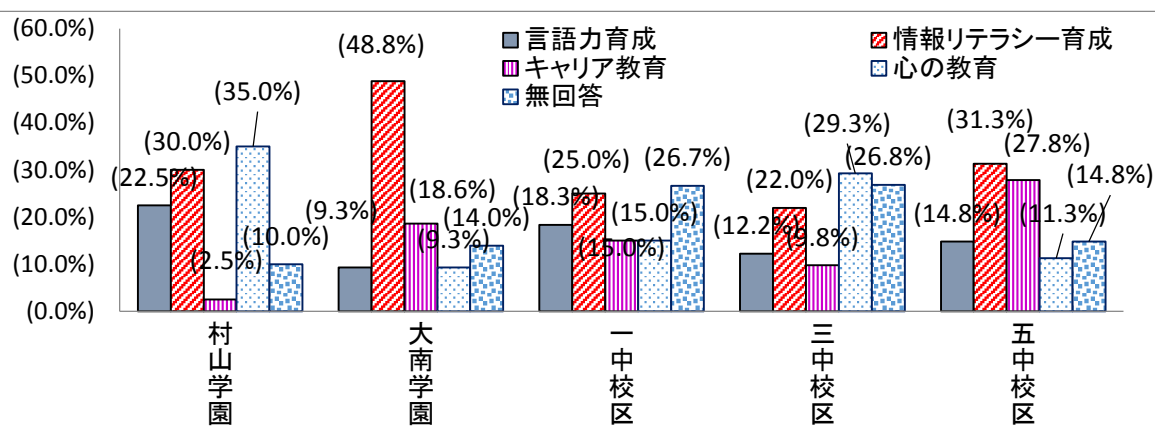
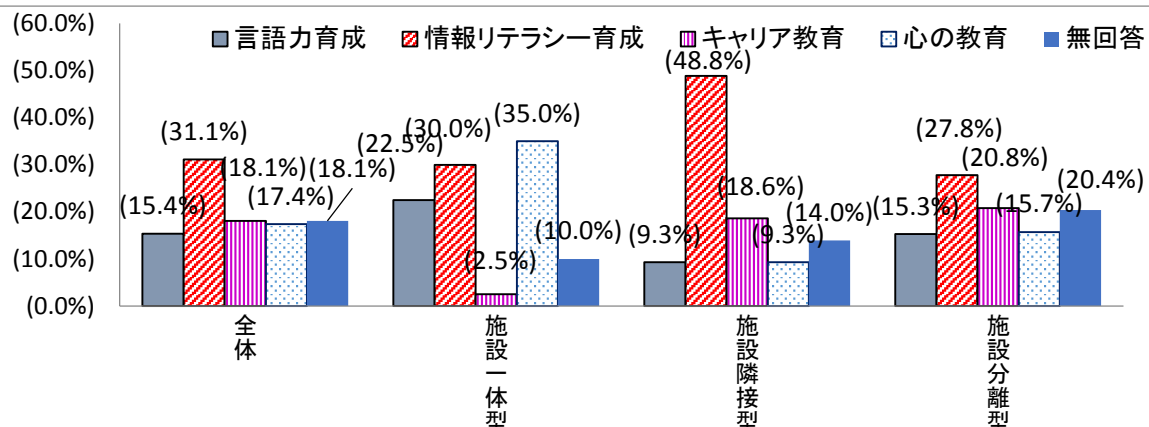
（五中校区）

- 防災体験等
- 中学校教員による出張授業
- 合唱コン練習の見学は、仕上がっている歌を聞かせたいので、日程の工夫が必要である。
- 合唱コンの審査員などで交流することで、将来の姿を見てもらいたい。
- 他の研修の内容・回数などを見直して、小中一貫に力を入れやすくする。
- 合同行事は必要だが、限定的にするべきである。

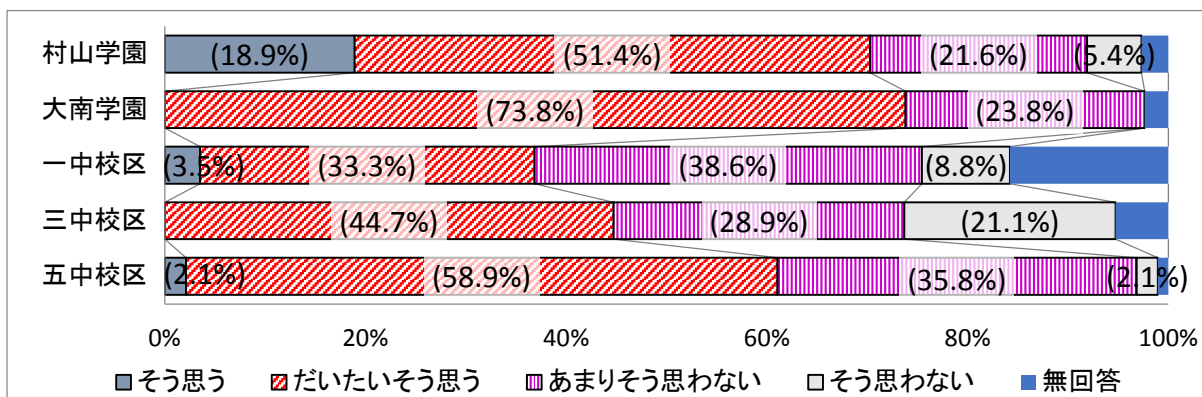
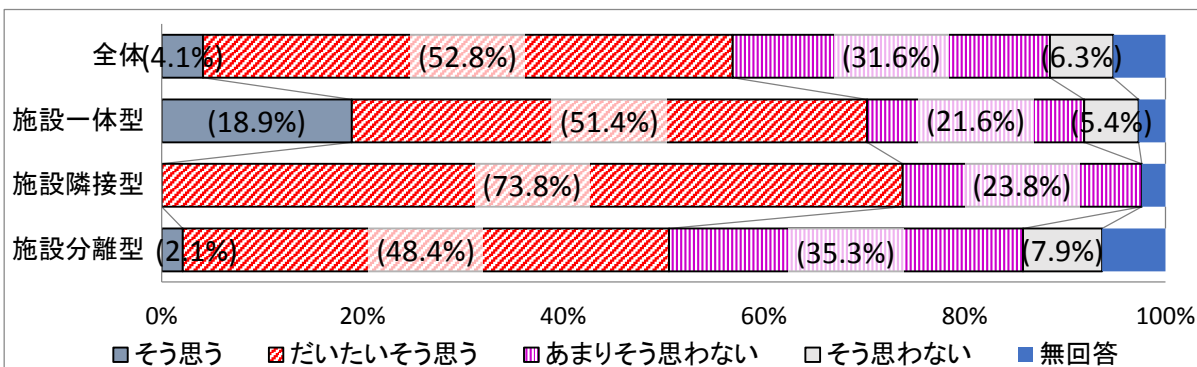
12 小中一貫教育カリキュラムにおける4つの基本カリキュラムが自己の実践に位置付けられている。



13 4つの基本カリキュラムのうち、実践への位置付けが特に十分でないと思う基本カリキュラムは何ですか。



14 4つの基本カリキュラムは、本校の教科・領域等の指導計画に適切に位置づけられている。



19 小学部教員（中学部教員）と連携しながら仕事を進める必要がある校務に関して、今後解決すべき課題がありましたら、お書きください。

【主な意見等】

<施設一体型>

	教員・文化	場・時間	その他
施設一体型	■ 教員の入れ替わりが激しく、今までが伝えられていない。 ■ 転入してくる教員の意識改革 ■ 意識の差。難しいが、小学部の先生の方がいろいろなことに手助けをしている。 ■ 行事の準備を中学生にもっとやらせてほしい。 ■ それぞれの文化の違い ■ 服装や態度等、生活指導について	■ 自学部だけでも手一杯なのに、時程の違う他学部との連携は負担に感じる。 ■ 互いの流れが分からなかったり、ずれていたたりして、相談する時間を改めてとりづらい。 ■ 部活があるため、会議の時間が小中で合わせにくい。	■ 校務の整理（誰がどんな仕事をしているのか、どんな仕事があるのか） ■ 校務に偏りがあるように感じるため、体制を見直したり、分掌の再編をしたりする必要がある。 ■ 小中合同の行事（どうしても中がメインや小がメインと偏る） ■ 誰が何をする（している）かが分かりづらい。 ■ 今以上に情報共有できる場が必要である。 ■ 他校にはない校務がたくさんあるように思うが、自分がカバーしきれていない。分掌として割り振られている以外の校務をできるだけ多く洗い出し、明確にしていく。
施設隣接型	■ 小学校と中学校の考え方の違い。生活指導の基準が違うこと ■ お互いの学校の特長をお互いが理解し、尊重する。 ■ 互いの温度差。それぞれの段階で必要性が異なるので、必要度の低い側が鈍重な印象。 ■ 中学校の先生との温度差。スクラップ&ビルドのバランス ■ 生活指導の課題や学習の遅れ、特別支援教育の引継ぎが十分ではないこと	■ 授業交流における時程の調整	■ 仕事の軽減 ■ 道徳、生活指導、教科指導のすり合わせ ■ 業務の精選。内容のあるものについては深め、必要性を感じないものは精選していくべきである。 ■ やらされている感をなくすための手だてをすること

		教員・文化	場・時間	その他
施設分離型	一 中 校 区	■ 取り組みへの意欲の変化と校務の精選 ■ 小学校教員と中学校教員のモチベーションの向上	■ 小・中の教員が相互に向いて授業することは、授業準備等の負担が増え、働き方改革に逆行している。	■ 小中進学のための児童の実態についての情報交換（信頼の上での風通しをよりよく）
	三 中 校 区	■ 主導がどちらにあるのかをはっきりさせる。 ■ 本当の意味での連携	■ 人手不足。雑務が多すぎる。	■ 卒業生の申し送りの内容 ■ 生活指導 ■ 特別支援を必要とする又は疑いがある場合
	五 中 校 区	■ 生活指導について、児童・生徒と教員の距離感を適切にしたい。 ■ 小学校低・中学年でのいじめなどの事項を、中学入学時に伝えてほしい。	■ 小中教員のどちらも忙しく、話し合う機会や打ち合わせ時間が少ない。 ■ 中学校の時間割変更が難しく、授業交流をしようとしても、時間の確保ができない。	■ 市全体で活用するサーバーの設置が不可欠だと思う。 ■ 合同で行う研究授業は、あまり専門的な協議ができなかった。その教科について深い見識をもっている教員が少ないため、せめて市教研の教科で割り振ると、改善できると思う。 ■ 生活指導情報の共有と、指導の一貫性 ■ 特別支援教育の充実

21 それぞれの形態の小中一貫教育の特色を生かした様々な実践が進められています
が、総体的に考えるとどのような成果がある（得られた）と思いますか。また、課題
はどのようなことが考えられますか。具体的に、お書きください。

【成果】

	児童・生徒の変容	充実した指導
施設一体型	■ 中学生が小学生の面倒を見ることで、中学生が大人として成長できている。小学生も中学生のそんな姿を見て、ちゃんとしようとする光景は素晴らしい。 ■ 上級生が下級生の面倒を見る意識が高い。 ■ 下級生が上級生を見て、かっこいいと思えるようになった。 ■ 小・中ともに相互理解が進み、中学生が小学生の面倒を見たり、小学生が教えてもらうために話しかけたり姿が見られるようになった。 ■ 中1ギャップがほとんどない。 ■ 中学生が急に大人ぶってかっこつけたりせず、礼儀正しく、良い手本となっている。中学生の多感な時期の悩みを、小学部の教員に気軽に話す姿も見られる。	■ 小中一貫して統一した教育の展開 ■ 段階的な指導 ■ 中学校の教員が小学校や特別支援学級の指導に行きやすい。 ■ 9年間で一貫した指導ができる。 ■ 中学校教員の小学生への理解。 ■ 不登校対応は小中連携ができる。 ■ 小中の交流や引き継ぎが手厚い。様子が見て分かること。 ■ 専門の中学校教員から、小学生の体育を指導してもらえる。 ■ 教員の連携はしやすい。教員の人数も多いため、様々な分担ができる。
施設隣接型	■ 学校が落ち着いた。 ■ 小学校段階から中学校につながる取組をしていることで、9年間を見越した力の育成ができている部分は確実にある。 ■ 小学生が中学校生活に希望をもって入学してくるようになった。 ■ 中1ギャップが軽減され、不登校が少なくなった。 ■ 運動会では、小学生、中学生ともに活躍の場があった。 ■ 小から中へ児童がスムーズに移行できている。良い意味で中学校への慣れ ■ 隣接型として目指す姿を近くに中学生の姿を見ることができるので、模範とすることができる。	■ 小中教員の交流が進み、それぞれの理解が深まった。保護者との交流も増えた。 ■ 教員同士のつながりは活発になっている。 ■ 小から中へと子供がつながっている意識が高まった。 ■ 運動会や合唱コンクールなど、行事面では小中一貫校ならではの取組ができていると思う。 ■ 小学校の実態が少し理解できた。 ■ 言語活動の充実 ■ 生徒情報の共有 ■ 両校の教員が顔見知りとなり、何かあった時、話しやすい。 ■ 各教科で専門的な話が聞け、授業に生かせる。

		児童・生徒の変容	充実した指導
		■ 小学校の子供たちが中学校に対して親近感がもてた。	■ 小中教職員の合同会議等で、互いの”顔が見える”ようになった。連携の基盤は信頼。信頼の第一歩は互いの顔が見えること。 ■ 合同会議や合同学運協が良い ■ 小中教員の意識の連帯感が生まれた。
施設分離型	一 中 校 区		■ 卒業時の姿を見て、将来を想像して指導に生かせるところは生かせるようになった。 ■ 卒業時の姿を見て、将来を想像して指導に生かせるところは生かせるようになった。 ■ 校種の違いを理解して、指導の系統性を考えられたことが、教員にとって成果が大きい。 ■ 教員同士が顔見知りになっておくことが大切だと感じた。 ■ 互いに教員が「小学校文化」「中学校文化」の違いを知ることができたのが良い。 ■ 子供の変容やゴールを見通すことができた。 ■ 小学校の事情や教え方の方法などよく分かった。
	三 中 校 区	■ 小学校では、中学校で学ぶことつながっていく内容が分かり、授業を進めるうえで、「中学校に入ったら、この続きを…」「〇〇をするよ」と児童に伝え、意欲を高めることができた。 ■ 中1ギャップの改善	■ 小中の英語教育の接続について考えを深めることができた。 ■ 知っている子供が入学してくる。 ■ 行事での交流、統一した教育目標、ギャップの解消、9年間を見通した教育内容の連続性 ■ お互いの生徒の実状、教員の様子が少なからず知ることになってよかったと思う。
	五 中 校 区	■ 中学生に対する憧れ、また、中学に向けての目標がもてるようになった。	■ 小中の職員の交流、9年間を見通した教科の系統性の意識の高まり、児童会・生徒会の交流（読み聞かせ、挨拶運動、ボランティア活動等）、保護者・地域の交流、PTA、青少対、学運協による合同行事等 ■ 小中一貫したカリキュラム「五中校区スタンダード」があることで、義務教育を一貫した目標の下

		児童・生徒の変容	充実した指導
			で指導することができること ■ 小中の系統性を考えた指導計画や指導案の作成と授業実践が行われたこと ■ 中学生の課題を聞き、小学校で指導を工夫できること ■ 小中それぞれで感じる児童の課題について情報交換できること ■ 進学する中学校の教員と卒業生の実状を知ることができた。 ■ 校区内で育成すべき児童・生徒像が共通理解できたこと ■ 小中それぞれの実態を把握することができたこと ■ 中学校の様子が分かることで、日々の指導に生かせる。 ■ 中学校との指導の縦のつながりを感じることができること ■ より中学校へ子供たちを送り出すという意識が高まったと思う。 ■ 小中学校の一体感が生まれたこと

【課題】

	児童・生徒	システム等	相互理解	多忙感等
施設一体型	■ 全で一緒では、中学生が我慢することが多くなり、ストレスになる。一緒にやるべきことと分けてやるべきことを精査することが、中学生の成長のチャンスになる。 ■ 児童・生徒の接触が容易であることから、生活指導上の問題が起こりやすい。 ■ 発達段階が違う生徒たちに一緒に何かをさせるとき、ねらいをどこに置くかはっきりさせるべき。効果が得られないときは、分けて行いたい。上の学年がお世話係ばかりでは、さらに上を目指さすにくい。 ■ 中学校入学での生徒の気持ちの切り替えがなく、感覚が小学生のまま成長している。 ■ 小6が小学校最高学年という自覚をもちにくい。	■ 教員の入れ替わりで取組等の定着がしにくい。 ■ スクラップをどうするか ■ 行事のそれぞれの校種の特性が失われる。 ■ 発達段階の差が大きく、共通認識での指導に当たりづらい。下級生の面倒を見ずに、その学年としての成長を目指しづらい。 ■ 生活時程。中学校がまだ授業中なのに、小学校が中休みの時は、小学生の声がうるさく、中学校は授業しづらい。一体型でも、ある程度の分離は必要なのではないか。 ■ 一貫にする行事を見極める必要性。発達段階を考えて、有効性があるか。 ■ 小学生と中学生が関わる有効な機会が設定できていない。	■ 中学生の姿を見て、小学生が成長する環境のため、さらに中学生の態度面の指導が必要。教員の連携がしやすいが、まだ、連携しきれていない部分がある。	■ 6年生が忙しい。 ■ 多忙感、ゆとりのなさ ■ 忙しすぎて、教育活動の全体を見渡すことが難しい。 ■ 行事が多すぎて、落ち着いて学習できない。

		児童・生徒	システム等	相互理解	多忙感等
施設隣接型		■ 教科の知識・理解をどのようにして児童・生徒に定着させるか。 ■ 学力向上	■ ブリッジプログラムの良い取組もあるが、形だけという感じがするものもあり、見直しをすることも大切だと思う。 ■ 小・中の教科で統一の教科書や内容がない事 ■ 時間を合わせる事が難しい。	■ 中学校の先生と小学校の先生の考え方に差がある点 ■ 教科について、積極的に関わろうとする指導者がいなければ、小中一貫の意味がない。教員の意識に課題(目的意識が同一ではない) ■ 双方の”学校文化”の相違。尊重すべき面と改革すべき点が、なかなか判断しづらい。 ■ まだまだ連携できる場所がある。	■ 小中両方の行事に出ないため、土日の勤務が増えた。 ■ 学校がかなり多忙となり、仕事量が増え、一つ一つの事、日頃の大切な授業が深まらない。教師の多忙さで、じっくり向き合う時間が少ないように感じる。
施設分離型	一 中 校 区		■ じっくりと授業を検討し、取り組む時間が少ない。 ■ 小・中の教員の時間を合わせる事が大変難しい。 ■ 外国語など、教科が限定された研究となると、専科がある中学校との研究が難しい。 ■ 分離型は、時間、距離、費用面で、児童・生徒間で関わる事が難しい。	■ 小学校は全科だが、中学校は専門教科のため、教員の意識の差で研究授業での交流が難しいことがある。 ■ 生活指導、生徒指導の情報交換の機会があるとよい。 ■ 授業への考え方や捉え方の意見・情報交換の機会があるとよい。 ■ 小中一貫教育が何を目標しているのかがぼやけてきている。	

		児童・生徒	システム等	相互理解	多忙感等
				■ 中学校は高校受験があり、小学校と教え方に差があるのは仕方ない。 ■ 小中一貫教育の大きなねらいの「中1ギャップの解消」は試練の先延ばしではないかと思う。 ■ 独自のカリキュラム設定でどのような成果が得られたのか、確認ができていない。	
	三 中 校 区	■ 学校・行事運営、6年生のリーダーシップが低くなる。7年生は中学入学の喜びや期待感が薄くなる。	■ 中学校へ入るまでの目標をしっかりと立て、年間計画、授業を組み立て、毎時間、学期、年間で取り扱う内容を、中学校での学習と結び付けて指導していくこと。 ■ 他教科での連携	■ 小学校、中学校お互いに授業をし合うなどして、もっとたくさんの教員がお互いの生徒・児童の様子考え方などを知るべき。 ■ 広い視野でとらえるのではなく、一人一人の子供に目を向けること。	■ 教員が小学校の授業へ行ったり、行事へ参加したり、負担が増えている。
	五 中 校 区	■ 一貫教育を行うことによる、子供たちの変化が分かりづらい。 ■ 学力が向上していない。 ■ 児童同士の交流が限られる。	■ 小中の教員の交流の機会が限られている。(中学校教員の指導場面、中学生の実態を実際に見る機会は少ない。)	■ 小中一貫教育に対する小中教員の意識に差がある。 ■ 互いの現場を見る機会が少ない。	■ 学校として研究が多く、何を目指しているのか分からなくなる。 ■ 他教科の具体的な実践が分かりづらい。 ■ 小中での打ち合わせや授業を見学する時間がない。

	児童・生徒	システム等	相互理解	多忙感等
	■ 分離型の小中一貫校のため、敷地も別で一体感が少ない。児童・生徒の一体感はより少ない。	■ 児童・生徒のつながりを多くとることは、互いにとって良いので、増やすと良い。 ■ 一貫教育で実践していることが、日々の実践になっていない。 ■ 行事中心の交流が多く、授業での交流や連携がなかなか進まなかった。教科による差、学年による差、教員個人による差が大きい。 ■ 中学校の学習内容の、小学校側の理解が不十分。各小学校に中学校の教科書があるとよい。「技術」など小学校との連携がとりづらい教科がある。 ■ 施設分離型で一貫校と言うなら、さらなるつながりが必要である。 ■ 小中一貫教育と学校選択制は矛盾する。	■ 教師の個人差もあり、授業の形態を統一しようとしても難しく、また、成果も分かりづらい。 ■ 小学校の生活指導の内容によって、中学校に入学する際、代によって差ができる。	■ 他の研修も多く、小中一貫の研修の時間が少ない。

(6) 保護者アンケートの結果

市内全小・中学校児童・生徒の保護者を対象とし、以下の項目について意識調査を行った。

表は、質問項目ごとに、「そう思う」を4ポイント、「だいたいそう思う」を3ポイント、「あまりそう思わない」を2ポイント、「そう思わない」を1ポイントとして、平均ポイントを算出したものである。

なお、比較表は「ア 小中一貫教育3つの型による比較」「イ 中学校区における比較」を作成した。

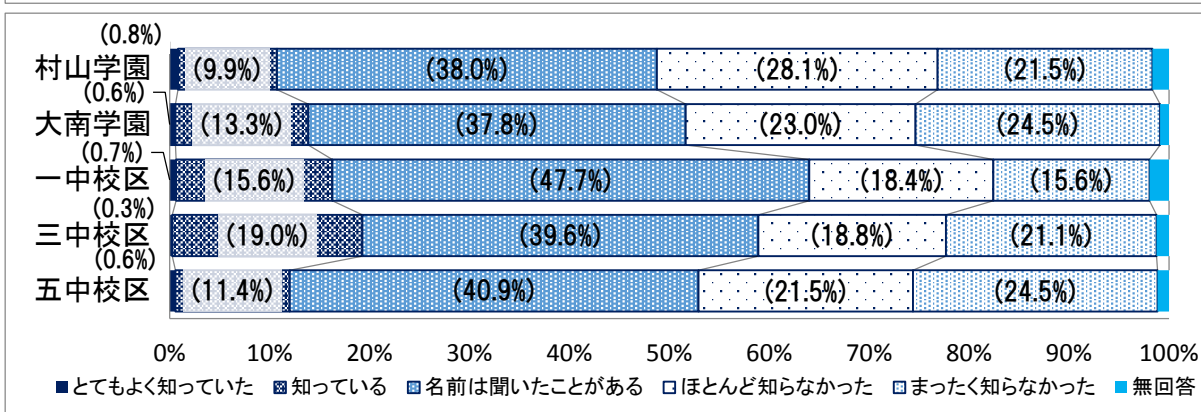
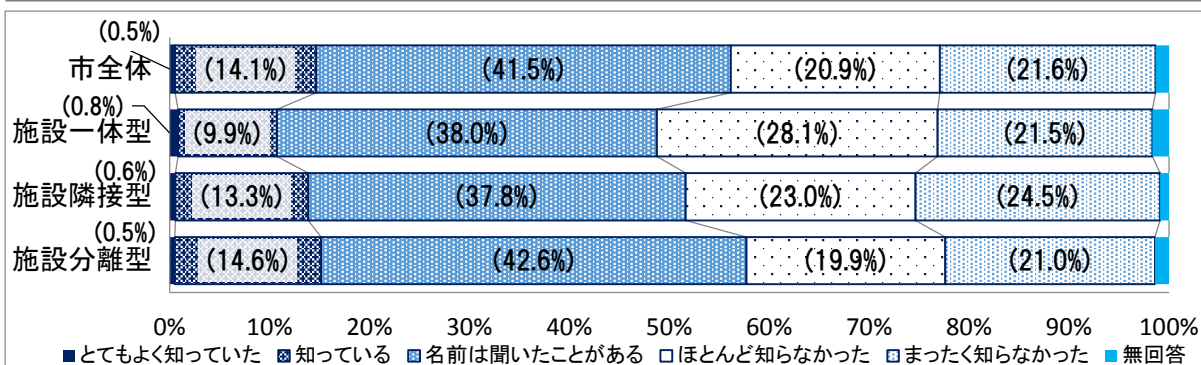
ア 小中一貫教育3つの型による比較

NO.	質問	施設一体型	施設隣接型	施設分離型	全 体
1	学校は教育目標や教育方針をわかりやすく伝えていると思いますか。	2.97	3.19	3.10	3.10
2	お子さんは、学習を理解できていると思いますか。	2.93	2.94	2.97	2.96
3	お子さんは、学校に楽しく通っていると思いますか。	3.38	3.48	3.48	3.48
4	お子さんは、行事や集会などに楽しく参加していると思いますか。	3.52	3.49	3.49	3.49
5	お子さんは、読書の習慣がついていると思いますか。	2.34	2.50	2.53	2.51
6	お子さんは進んであいさつをしていると思いますか。	2.77	2.93	2.91	2.90
7	お子さんは、時と場に応じた言葉遣いをしていると思いますか。	2.81	3.00	2.90	2.92
8	学校は、お子さんのことをよく理解できていると思いますか。	2.86	2.92	2.91	2.90
9	お子さんは、家庭学習をしっかりと行っていると思いますか。	2.87	2.84	2.77	2.79
10	皆さんは、お子さんと家庭でいろいろな話をしていますか。	3.33	3.33	3.31	3.32
11	ご家族で地域での行事に進んで参加していますか。	2.20	2.26	2.47	2.42
12	学校は、保護者との連携や協力体制ができていると思いますか。	2.80	3.04	2.93	2.94
13	学校は、お子さんのことなどを相談しやすいと思いますか。	2.76	2.97	2.89	2.90
14	学校は、お子さんの健康・安全に配慮できていると思いますか。	3.03	3.11	3.09	3.09
15	学校の施設・設備は充実していると思いますか。	2.99	2.81	2.86	2.86

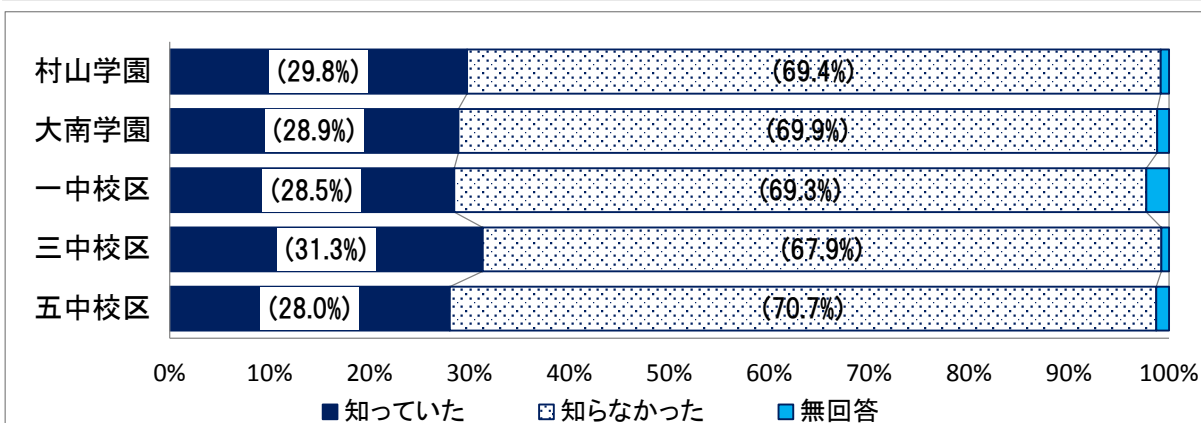
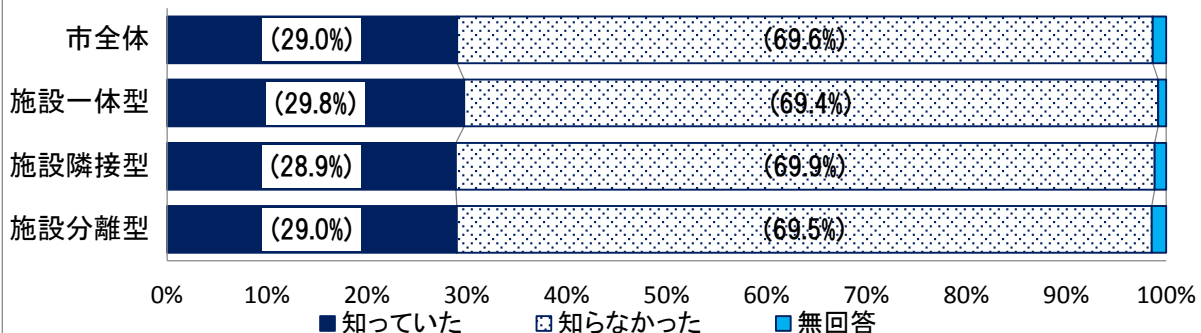
イ 中学校区における比較

NO.	質問	村山学園	大南学園	一中校区	三中校区	五中校区
1	学校は教育目標や教育方針をわかりやすく伝えていると思いますか。	2.97	3.19	3.12	3.13	3.06
2	お子さんは、学習を理解できていると思いますか。	2.93	2.94	2.91	3.06	2.96
3	お子さんは、学校に楽しく通っていると思いますか。	3.38	3.48	3.48	3.53	3.46
4	お子さんは、行事や集会などに楽しく参加していると思いますか。	3.52	3.49	3.48	3.54	3.48
5	お子さんは、読書の習慣がついていると思いますか。	2.34	2.50	2.49	2.59	2.53
6	お子さんは進んであいさつをしていると思いますか。	2.77	2.93	2.98	2.90	2.85
7	お子さんは、時と場に応じた言葉遣いをしていると思いますか。	2.81	3.00	3.02	2.89	2.83
8	学校は、お子さんのことをよく理解できていると思いますか。	2.86	2.92	2.98	2.93	2.84
9	お子さんは、家庭学習をしっかり行っていると思いますか。	2.87	2.84	2.67	2.86	2.80
10	皆さんは、お子さんと家庭でいろいろな話をしていますか。	3.33	3.33	3.30	3.30	3.34
11	ご家族で地域での行事に進んで参加していますか。	2.20	2.26	2.59	2.51	2.36
12	学校は、保護者との連携や協力体制ができていると思いますか。	2.80	3.04	3.00	2.98	2.85
13	学校は、お子さんのことなどを相談しやすいと思いますか。	2.76	2.97	2.96	2.94	2.82
14	学校は、お子さんの健康・安全に配慮できていると思いますか。	3.03	3.11	3.13	3.16	3.02
15	学校の施設・設備は充実していると思いますか。	2.99	2.81	3.08	2.81	2.72

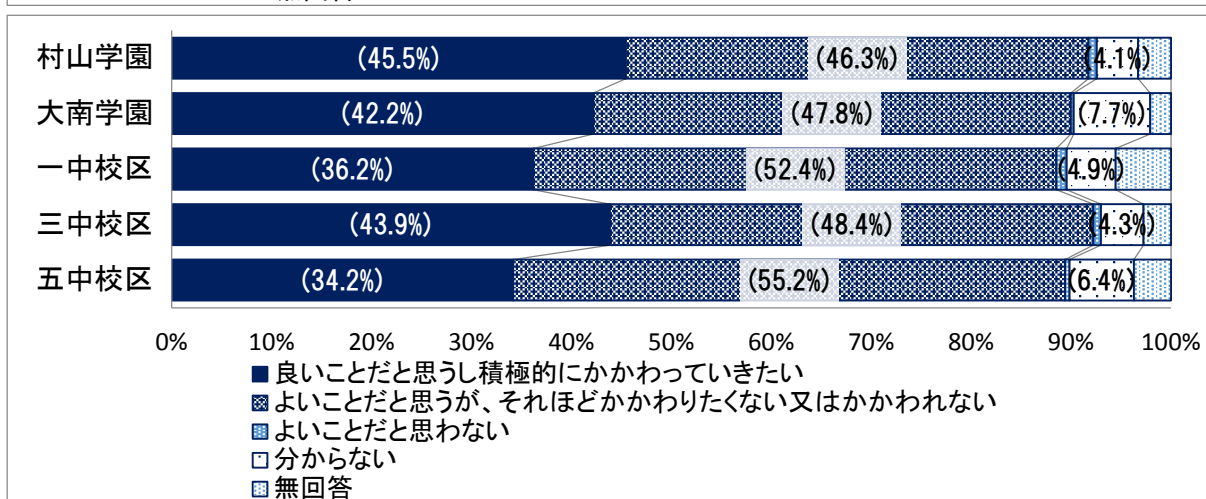
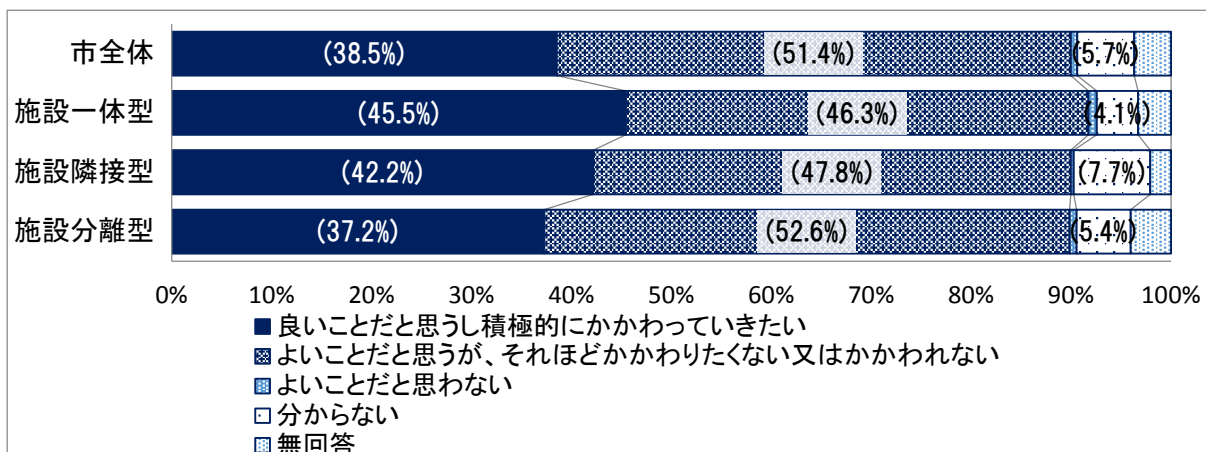
16 コミュニティ・スクールについてどのくらい知っていますか。最も近いものに○を付けてください。



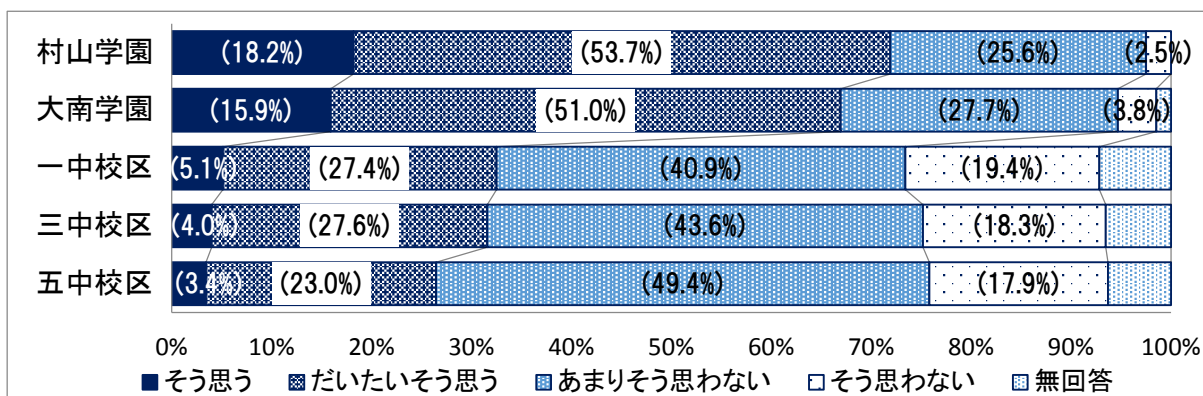
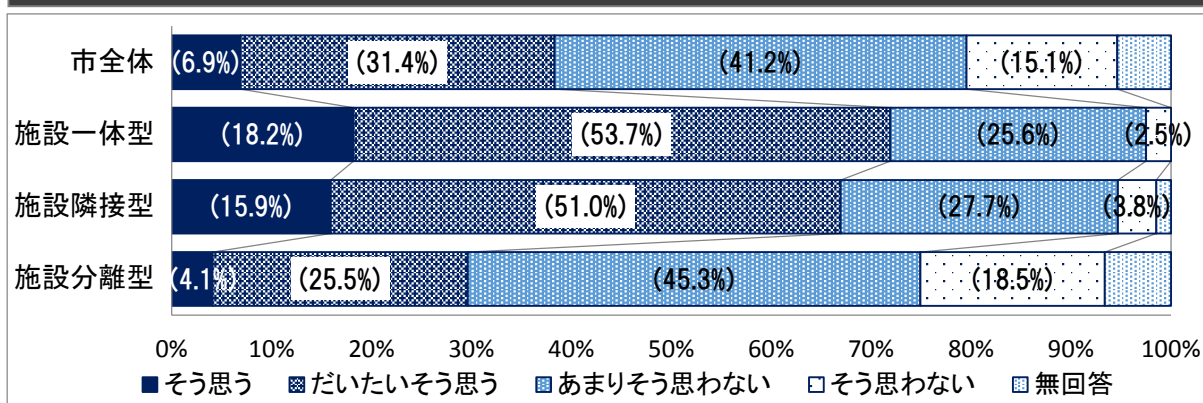
17 本校がコミュニティ・スクールに指定されていることを知っていますか。



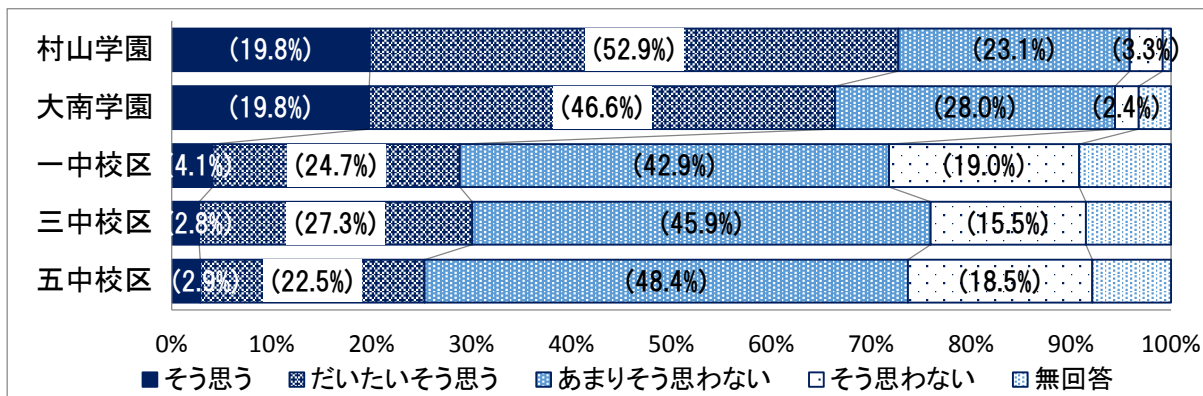
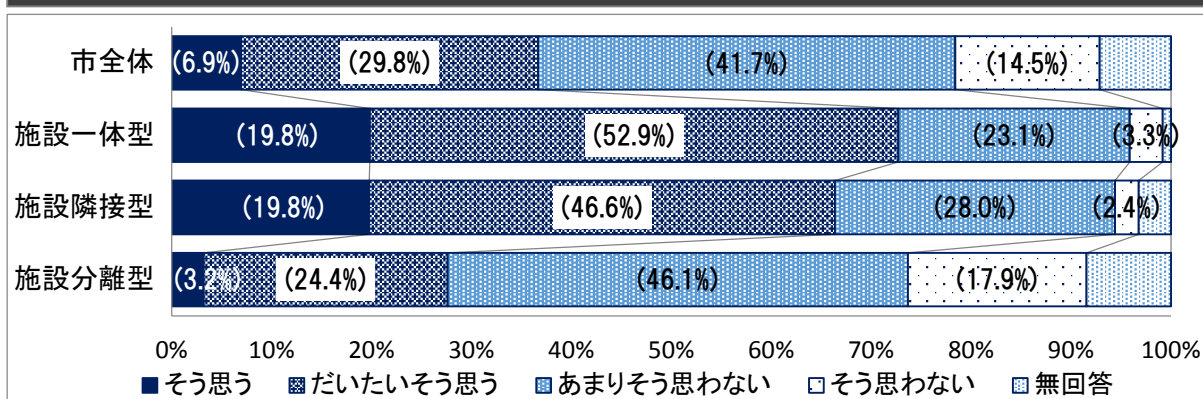
18 地域と学校の結び付きが、今までよりも広く、深くつながることについて、あなたはどのように感じになりますか。最も近いものに○を付けてください。



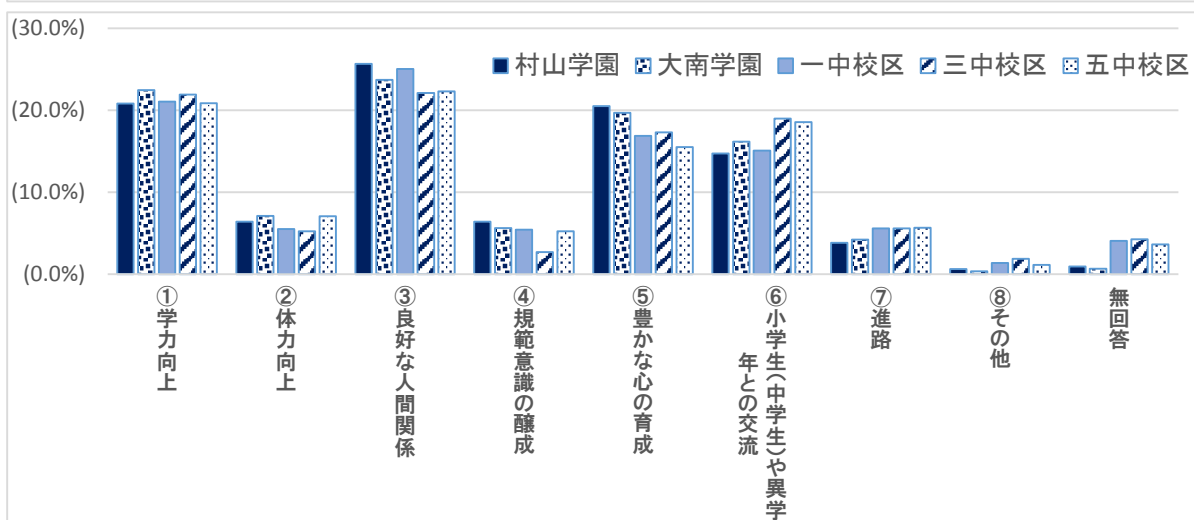
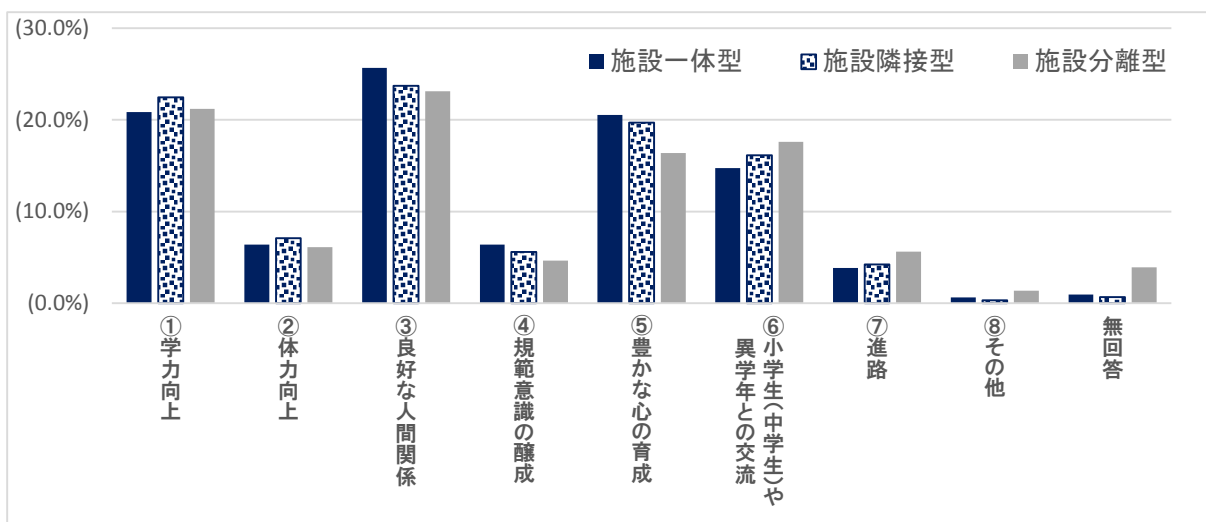
19 みなさんは、本校の小中一貫教育を理解していますか。



20 本校は、一貫校としての取組を積極的に外部に発信していると思いますか。



21 小中一貫教育にどのようなことを期待していますか。3つまで選んで○をつけてください。



22 小中一貫教育に、どのような不安を感じていますか。お書きください。

【主な意見等】

	人間関係	成長	その他
施設一体型	■ 9年間密な人間関係のため、いじめなどがあった時に、その後の生活が不安である。 ■ 上下関係やいじめ ■ 低学年時にトラブルがあった子と9年間過ごすこと ■ 高学年からのいじめや、言葉遣いや態度などの悪影響がないか心配である。 ■ 生徒数が年々少なくなっているような感じがし、クラス替えをしてもほぼメンバーが一緒のため、友達関係が良好でない生徒が多い。 ■ たまに、中学部の生徒から威圧的な態度をとられることがあるようなので心配である。 ■ 仲の良い子が一定の子に決まってしまうそう。 ■ 9年間同じ環境で生活するため、高学年の頃より、友達との付き合い方に思うより気を使っているように感じる。	■ 中学生になる際に、どの程度自覚が出てくるのか。同じ場所に通うため、変わらないのでは。 ■ 限られた人間関係の中ではなんとなくうまくいってしまうこともあり、高校進学後、そのギャップに対応していくことができるか不安。 ■ 上級生の影響が大きいのはいいが、背伸びしすぎるのではないかと気になることがある。 ■ 中学生になった時に、学校が変わらない分、自覚があまりないと思う。幼さを感じる。 ■ 中学生の悪いところを小学生が真似したりすることがあるのではないか。 ■ それぞれ発育段階に差があるのは当然で、その成長に合わせた教育ができない。中途半端になる。	■ 何が向上しているのか、9年みていると感じない。 ■ 学習面では、上の学年の子が下の学年の子を教えてあげるなどいいと思うが、行事などは別にしてほしい。 ■ 小学部は中学寄りになっているため、陸上記録会など体力的に不安になることもある。期末テストも子供の負担になっているのではと感じることがある。 ■ 生徒の少なさ ■ 行事が多すぎるかもしれない。 ■ 新しいことにチャレンジしていくのは必要、大事だが、業務が増え、現場の先生が忙しくなること ■ 小中学校の教員のコミュニケーション（連携）が取れていないように感じる。 ■ 小学校からそのまま中学校に上がるため、厳しさが少し足りないと思う。そこがいいところでもあると思うが、
施設隣接型	■ もしもいじめ等があった場合、逃げ場がないという不安 ■ 合わない子がいたらずっと同じになってしまうこと	■ 学力の差 ■ 中学が小学校の延長教育と感じ、気が緩みはしないか心配している。	■ 市内の他小学校から四中に進学する子は、途中から入るような不安があると聞いた。

		人間関係	成長	その他
		人間関係で一度つまずいたら立て直しが不安	- 生活態度の悪い中学生が小学生へ与える悪影響 9年間という長い時間、良い環境か悪い環境かで子供たちにとって変わってくる。	- 校長が変わった時に、学校の教育方針も変わってしまうかどうか。 - 行事や授業（時間割）が独自で決められない。足並みをそろえないとまらないときがある。 - 小から中への引継ぎのなさ
施設分離型	一 中 校 区	- 小学校時代の人間関係（友達、先生との）がすごく良ければ、最高の9年間になると思われるが、そうでない場合、最悪の子供時代になってしまうと思う。 - いじめなどの問題が起こった時、逃げ場がないこと - 途中から入ることの人間関係の難しさ - 良好な人間関係をつくっていけるのは良いが、反対に悪い人間関係も続いてしまうのでは。 - 結び付きが強すぎて、子供が窮屈に感じてしまうのではないかという不安 - 小学校からの延長なので、先輩・後輩の区切りができていない。また、人間関係が崩れた時、長いとつらい。	- 高学年による低学年への悪影響 - 学力について - 限られた友達ばかりで、高校へは行った時、他の子と仲良くできず、戸惑う。 - 女の子だが、3・4年生からませて大変なのに、中学生と関わることでもっとまかせてしまうのではないかと感じる。 - 小学生（特に高学年）が、中学生と多く関わることで、スマホを使う遊びや所持率、商業地域への子供だけでの出入りが増えそう。 9年という長い期間になると、変化を見出しながら成長していけるかは不安。 6年生の最高学年という意識の低下 - 中学生になっての心機一転の時、手本にと期待されることへの反抗心 - 子供たち個人個人が意識して向上しなくては、あまり意味がないと思う。	- そもそも小と中が「一貫教育」ということが目に見えてこない。「一貫教育」を推進なのであれば、もっと互いの小・中学校を行き交う、授業や集会、イベントを頻繁に行っていたきたい。 - 生徒数が多すぎてしまう。 - 小中一貫教育の指針や方向性が見えず、何も言えない。 - 中高一貫の6年と違い、小中一貫の9年、同じ仲間だけというのは、メリット、デメリットを考えた時、デメリットの方が多いと感じる。 - 先生たちの仕事が増え、今までより、子供たちに手が回らなくなるのではと不安である。 - 生徒の人数が増えて、先生が生徒へきちんと目が行き届くのか。 - なんとなくダラダラと過ごしていないか（節目がない）

		人間関係	成長	その他
	三 中 校 区	■ いじめがあった時長くいるから逃げられない。 ■ 人間関係・力関係が固まってしまい、体の弱い子や気の弱い子などが嫌な思いをし続けるというようなことは起きないのだろうか。 ■ 問題が起きた時、学校内での逃げ場がない。外部編入などの時、既に形成されたコミュニティへの介入の難しさ	■ 交流の悪い面（上級生の人格不足等） ■ 中学生の悪い部分も小学生が真似してしまいそう。 ■ 6年生の最上級生の意識の薄れ。長期間の交友関係から高校生活への不安。	■ 9年間は長すぎると思う。小6年間、中高6年間の方が、ボリュームがちょうどよく感じる。 ■ 指定の小中学校のみのことしか分からないような気がする。他校の良いところを取り入れにくかったり、他校のことが分からなかったりする気がする。孤立が怖い。 ■ 小中合同だと人数が多いので、行事など時間がかかって大変そうだと思う。 ■ 一人一人の個性を先生たちが理解してくれるかどうか ■ 低学年児童の身体面の負担 ■ 他の小学校から転入しづらい。一貫にする意味に疑問。 ■ 施設一体型や隣接型はどうか分からないが、小中一貫を謳っているが、小中の教職員の連携が十分なされているように思えない。
	五 中 校 区	■ もし、学校に行きたくないようないじめがあった場合、環境が変わらない。 ■ 友達と関係が悪化した時、9年間一緒なのは苦になる。 ■ 異学年と交流してよいこともある反面、年齢差の中でのいじめ問題が不安	■ 小1と中3では開きがありすぎ。行事などは一緒に行うのは難しい。 ■ 反抗期を迎える子供を小学校低学年から悪い規範であると捉えられるか。 ■ 異学年との交流で悪い影響を受けないか心配である。	■ 形だけの小中一貫になり、各行事の実施が、子供より優先になり、目が行き届かなくなる。 ■ 運動会などの行事を、小・中全体で行うとしたら、どうなのかと思う。例えば、小学1年生が中学生の競技を見て分かるのかなと思う。

	人間関係	成長	その他
	■ 上級生からの嫌がらせ等ないか不安 ■ 年上との人間関係 ■ 生徒数が多ければいいと思うが、少ないと同じ人間関係の中だけで長く過ごすことになってしまうのが残念	■ 小学校 6 年間の後、同じ生徒のまま上がってしまうこと。新たなスタートの意識がなくなる。	■ 施設分離型のままで「中 1 ギャップ」への対応ができるか。 ■ 中学校が選べなくなる ■ 先生方の負担が増えること ■ 人数が多くなるので、目が行き届かないのではないか、荒れるのではないかという不安

その他、「小中一貫校とそうでない学校の違いがよく分からない。」「そもそも小中一貫教育にどんなメリットがあるのか、まだ理解していない。」等、小中一貫教育の理解に関する内容や、「学校でテスト順位の貼り出しがあり、勉強が厳しいと聞いた。」等、誤った情報を基にしたイメージによる内容が見られた。

小中一貫教育が目指すものやその方法等の情報発信が十分ではなく、保護者に伝わっていないことがアンケート結果から読み取ることができる。

(7) 地域アンケートの結果

市内全小・中学校の学校運営協議会委員を対象とし、以下の項目について意識調査を行った。

表は、質問項目ごとに、「そう思う」を4ポイント、「だいたいそう思う」を3ポイント、「あまりそう思わない」を2ポイント、「そう思わない」を1ポイントとして、平均ポイントを算出したものである。

なお、比較表は「ア 小中一貫教育3つの型による比較」「イ 中学校区における比較」を作成した。

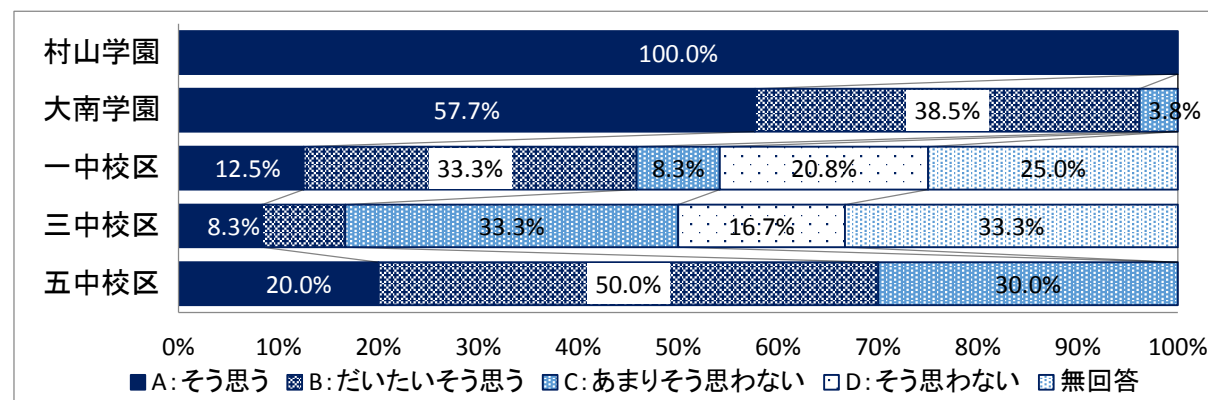
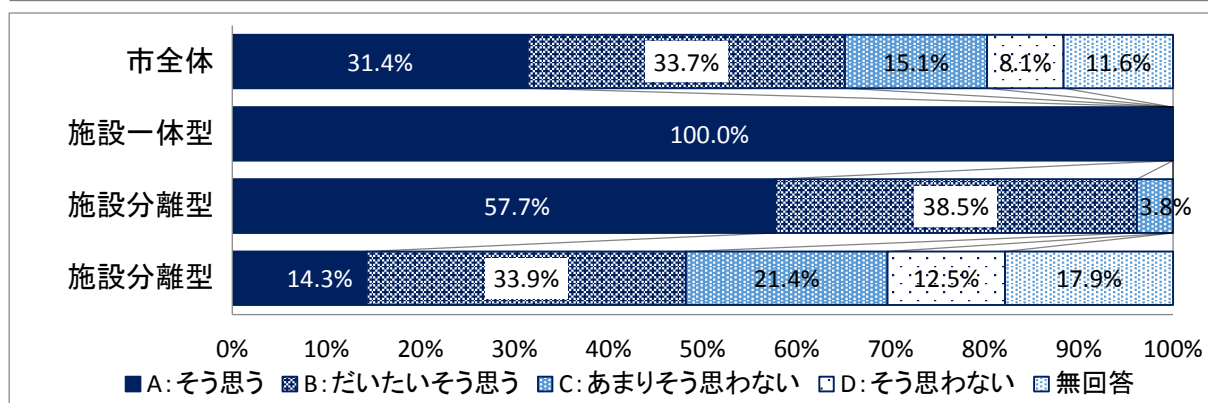
ア 小中一貫教育3つの型による比較

NO.	質問	施設一体型	施設隣接型	施設分離型	全 体
1	学校は学校や児童・生徒の様子などを地域に伝えていると思いますか。	3.75	3.31	3.23	3.28
2	児童・生徒は、楽しそうに学校に通っていると思いますか。	4.00	3.60	3.43	3.51
3	児童・生徒は、しっかりあいさつをしていますか。	3.75	3.19	2.94	3.06
4	児童・生徒は、地域での催し物や仕事を手伝っていますか。	4.00	3.24	3.15	3.22
5	児童・生徒は、地域の行事に積極的に参加していますか。	3.50	3.04	3.11	3.11
6	学校の雰囲気は落ち着いていると思いますか。	3.50	3.62	3.36	3.45
7	学校は、熱心に児童・生徒の指導をしていると思いますか。	4.00	3.65	3.48	3.56
8	学校は、児童・生徒の安全に配慮できていると思いますか。	3.75	3.40	3.32	3.37
9	学校と地域との連携や協力体制はよくできていると思いますか。	3.25	3.36	3.17	3.23
10	学校は、児童・生徒や地域のことについて相談しやすいと思いますか。	3.50	3.25	3.02	3.11
11	学校の施設・設備は充実していると思いますか。	3.00	2.84	2.83	2.84
16	皆さんは、本校の小中一貫教育を理解していますか。	4.00	3.54	2.61	3.00
17	学校は、小中一貫教育の取組を積極的に外部に発信していると思いますか。	3.50	3.33	2.33	2.72

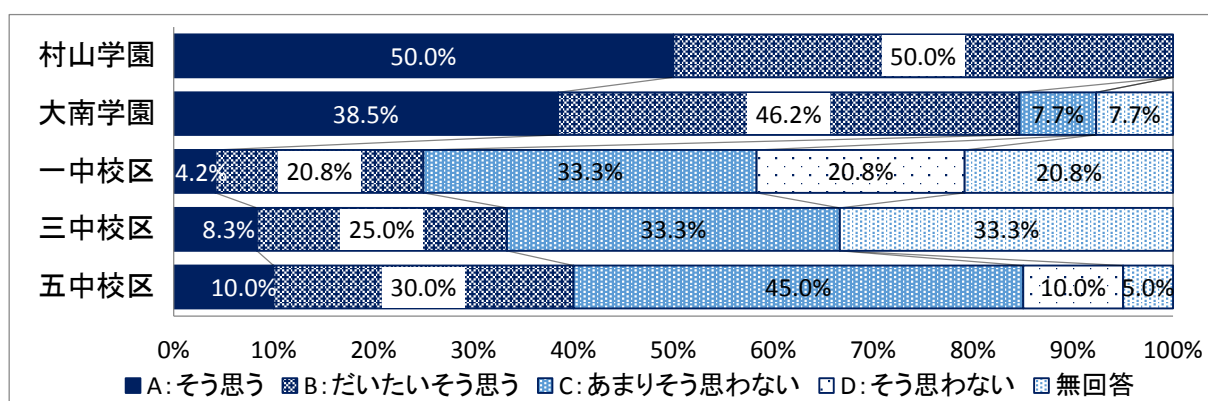
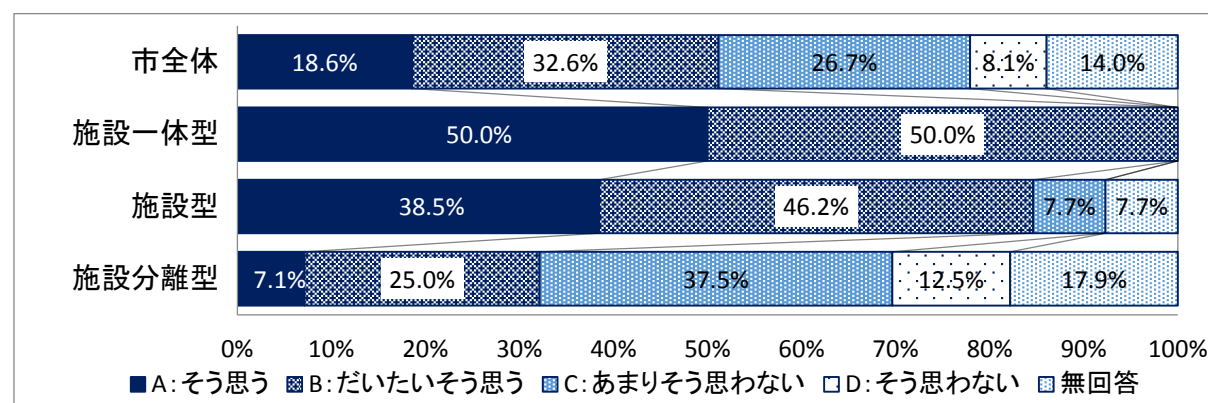
イ 中学校区における比較

NO.	質問	村山学園	大南学園	一中校区	三中校区	五中校区
1	学校は学校や児童・生徒の様子などを地域に伝えていると思いますか。	3.75	3.31	3.24	3.08	3.32
2	児童・生徒は、楽しそうに学校に通っていると思いますか。	4.00	3.60	3.55	3.45	3.30
3	児童・生徒は、しっかりあいさつをしていますか。	3.75	3.19	3.09	2.67	2.95
4	児童・生徒は、地域での催し物や仕事を手伝っていますか。	4.00	3.24	3.10	3.17	3.20
5	児童・生徒は、地域の行事に積極的に参加していますか。	3.50	3.04	3.05	3.17	3.15
6	学校の雰囲気は落ち着いていると思いますか。	3.50	3.62	3.57	3.25	3.20
7	学校は、熱心に児童・生徒の指導をしていますか。	4.00	3.65	3.50	3.42	3.50
8	学校は、児童・生徒の安全に配慮できていると思いますか。	3.75	3.40	3.38	3.17	3.35
9	学校と地域との連携や協力体制はよくできていると思いますか。	3.25	3.36	3.18	2.83	3.37
10	学校は、児童・生徒や地域のことについて相談しやすいと思いますか。	3.50	3.25	3.05	2.90	3.05
11	学校の施設・設備は充実していると思いますか。	3.00	2.84	2.95	2.92	2.65
16	皆さんは、本校の小中一貫教育を理解していますか。	4.00	3.54	2.50	2.13	2.90
17	学校は、小中一貫教育の取組を積極的に外部に発信していると思いますか。	3.50	3.33	2.11	2.63	2.42

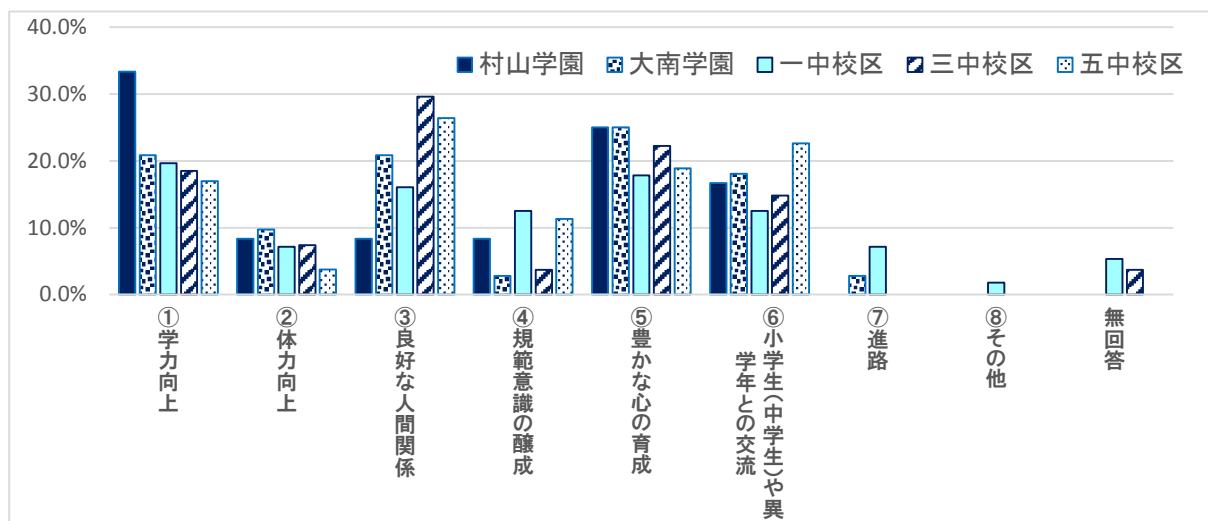
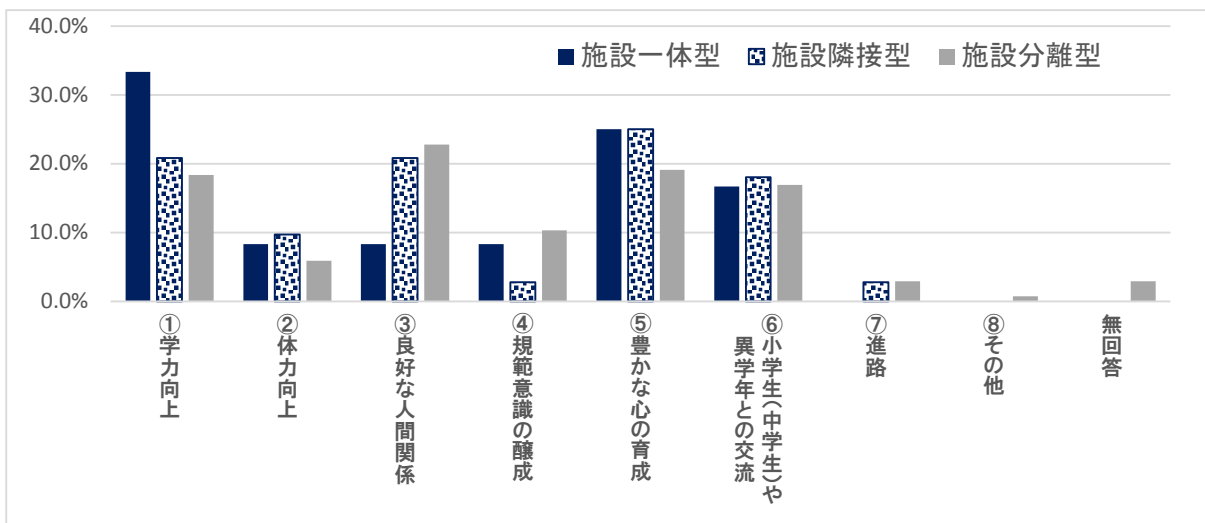
16 皆さんは、本校の小中一貫教育を理解していますか。



17 本校は、一貫校としての取組を積極的に外部に発信していると思いますか。



21 小中一貫教育にどのようなことを期待していますか。3つまで選んで○をつけてください。



22 小中一貫教育に、どのような不安を感じていますか。お書きください。

【主な意見等】

	人間関係・発達段階	地域性	その他
施設隣接型	■ 年齢差が大きいこと		■ 特に不安はないが、結果を急がないでほしいと思う。 ■ 中学校は学校選択制をとっているため、一貫の効果が見込めないことがある。大南学園は「小学6年間」+「中学3年間」それぞれの独立した良さと隣接の良さが出るが、村山学園の9年制は、小中の区別が児童・生徒でついているのだろうか。

		人間関係・発達段階	地域性	その他
施設分離型	一中校区	■ いじめが9年間続いてしまう可能性がある。 ■ 小学1年生と中学3年生では、心や体の発達状況が全く違う。それぞれの成長段階における教育のポイントが絞りにくいのではないか。	■ 地域性を考えて、一貫教育を行ってほしい。無理は良くないと思う。	■ 分離型の推進は難しいと思う。一貫校の成果がよく分からない。 ■ 中高なら分かるが、小中を一貫にする良い点が分からない。 ■ 形にこだわって、中身の伴わない「一貫」になってしまうこと。 ■ 必要性を感じない。もっと別に取り組むことがあるのではないかと思う。
	三中校区	■ 人間関係につまづいた時の対応。小1と中3では、いろいろな点で違いがありすぎる。		■ どうして校舎ごとつなげないといけないのかと思う。 ■ 小学校、中学校教員が共用できるか。
	五中校区	■ 小中9年間同じ組織、人間関係が続くことに問題が出てくるのではないか。 ■ 弱者に対するいじめなどが心配である。	■ 地域との関係 ■ 小学校によっては、二つの中学校に進学する。 ■ 五中校区が無理やり一貫校にされてしまうのではないか。	■ 施設一体型以外あまりメリットを感じていない。 ■ 小学校の特色をどのように打ち出せるのか。 ■ 不安は感じないが、中学に進級するときの気持ちの高まりというようなものが得られるのか。 ■ 五中校区の分離型小中一貫校については、平成27年7月8日に、「白紙に戻す」ということで終わっている。その後の動きがない。仕切り直しをして、ゼロからのスタートを新教育長に期待する。

保護者対象のアンケートと類似している点は、9年間の義務教育の中での人間関係によるトラブル等の心配と、小中一貫教育のメリットがよく分からないというものであった。小中一貫教育の目的と施設一体型、施設隣接型、施設分離型小中一貫教育の違い等について、保護者をはじめとした市民に対する情報発信が十分ではない課題が浮き彫りとなった。

一方、地域アンケートに特有であったのは、地域性の課題である。現在、武蔵村山市では、中学校区を核とした小中一貫教育を実施しているが、各小学校から進学する中学校と小中一貫教育を実施している中学校は、必ずしも一致しないのが現状である。そのような地域を支えてきた方々にとっては、施策としての小中一貫教育が、これまでの地域の在り方等を否定するもののよう捉えられていると考えられる。

3 小中一貫校村山学園の検証

(1) 検証データの比較

対象		実施時期	配布数	回答数	回収率
児 童	3～6年生	平成24年度	323	302	93.5%
		平成30年度	295	280	94.9%
	6年生	平成24年度	69	62	89.9%
		平成30年度	78	75	96.2%
生 徒	7～9年生	平成24年度	241	217	90.0%
		平成30年度	241	213	88.4%
	7年生(中学1年生)	平成24年度	67	59	88.1%
		平成30年度	74	68	91.9%
保 護 者	家庭数	平成24年度	612	388	63.4%
		平成30年度	460	121	26.3%
地 域	学校運営協議会	平成24年度	67	21	31.3%
		平成30年度	14	4	28.6%
教 員	全員	平成24年度	49	48	98.0%
		平成30年度	51	37	72.6%

(2) 児童・生徒アンケートの結果

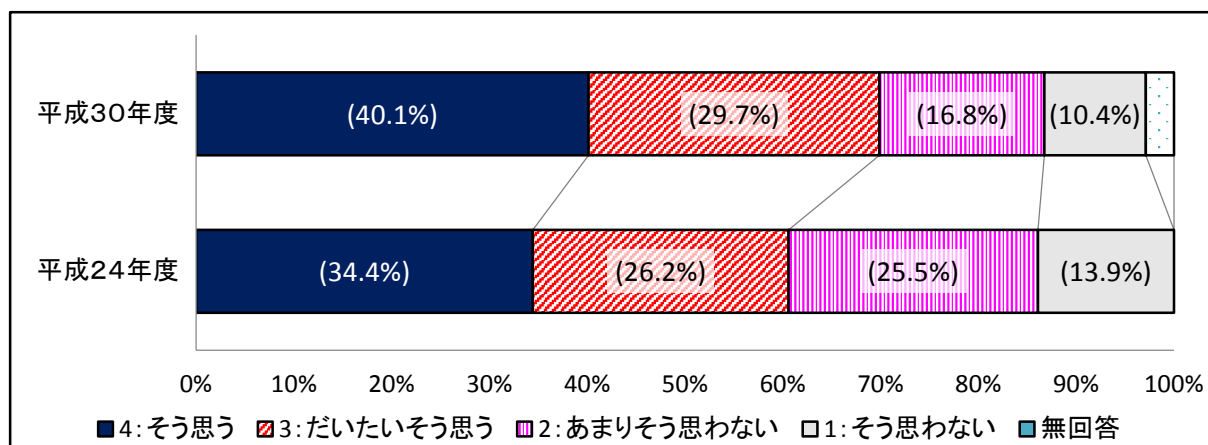
市内全小・中学校児童（3～6年）・生徒（1～3年）を対象とし、以下の項目について意識調査を行った。

表は、質問項目ごとに、「そう思う」を4ポイント、「だいたいそう思う」を3ポイント、「あまりそう思わない」を2ポイント、「そう思わない」を1ポイントとして、平均ポイントを算出したものである。

ア 小学部の経年比較

NO.	質問	平成 24年度	平成 30年度
1	勉強したことが分かる。	3.40	3.34
2	学校に行くのが楽しい。	3.20	3.29
3	行事や集会などに楽しく参加している。	3.10	3.00
4	たくさん本を読んでいる。	2.50	2.95
5	学校・学級のきまりを守って生活している。	3.10	3.27
6	進んであいさつをしている。	3.10	3.25
7	時と場に応じた正しい言葉遣いをしている。	3.00	3.09
8	授業が始まる前に、教科書やノートなど、授業で使うものを 用意している。	3.10	3.19
9	教科書・ノートなど、授業で使うものを忘れずに持ってきて いる。	3.20	3.28
10	宿題や家庭学習をしっかりとやっている。	3.30	3.28
11	友達と仲良く遊んだり勉強したりしている。	3.60	3.58
12	学校には仲の良い友達がいる。	3.80	3.82
13	困っていることなどがあったら、先生や友達に相談してい る。	2.80	3.01
14	先生は私のことを分かってくれている。	3.00	3.10
15	先生は悩みや相談をよく聞いてくれる。	2.90	3.07
16	地域の行事に進んで参加している。	2.70	2.58
17	家の人といろいろな話をしている。	3.50	3.45
18	交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校している。	3.50	3.63
19	将来したいこと、ついてみたい職業、仕事などの夢がある。	3.50	3.50

20 中学部の人たちといっしょに学習や生活（授業、休み時間、合同行事など）するのは楽しい。



※ 分散分析の結果、平成24年度の結果と平成30年度の結果の間には、有意な差が認められる。(F(1.571)=6.12, p<0.02)

【主な理由】

「そう思う」「だいたいそう思う」理由について	
あこがれ	○ 落ち込んでいる下の子に、中学生が元気をくれるから。 ○ 同級生と過ごすときにはなかなかできないことができるし、とてもウキウキして楽しいから。 ○ 中学生は面白いこともしてくれるし、とても優しいから。 ○ いろいろなことを教えてくれるし、遊んでいるときもすごいから。 ○ 中学生は優しく、合同行事は早く進むから。 ○ 先輩を見習って交流するのが楽しいから。 ○ 中学生からいろいろ学ぶことがあるから。 ○ 中学部の人たちと一緒に勉強して嬉しいし、楽しいから。 ○ 転びそうになったら助けてくれたり、安全にできるから。 ○ 勉強していて、頭に入ると分かるから。 ○ 中学生がパワーアップの時に勉強を教えてくれたり行事ができたりするから。 ○ 知り合いがいて、一緒に登下校してくれたりしているから。 ○ 中学生はいろいろなことができるから。
その他	○ いろいろとほかの学校にはない行事があるから。 ○ いろいろな人と触れ合えて、友達も増えるから。 ○ 交流給食がいいし、運動会が盛り上がるから。 ○ 中学部の生活の仕方が分かって自分のためになるから。

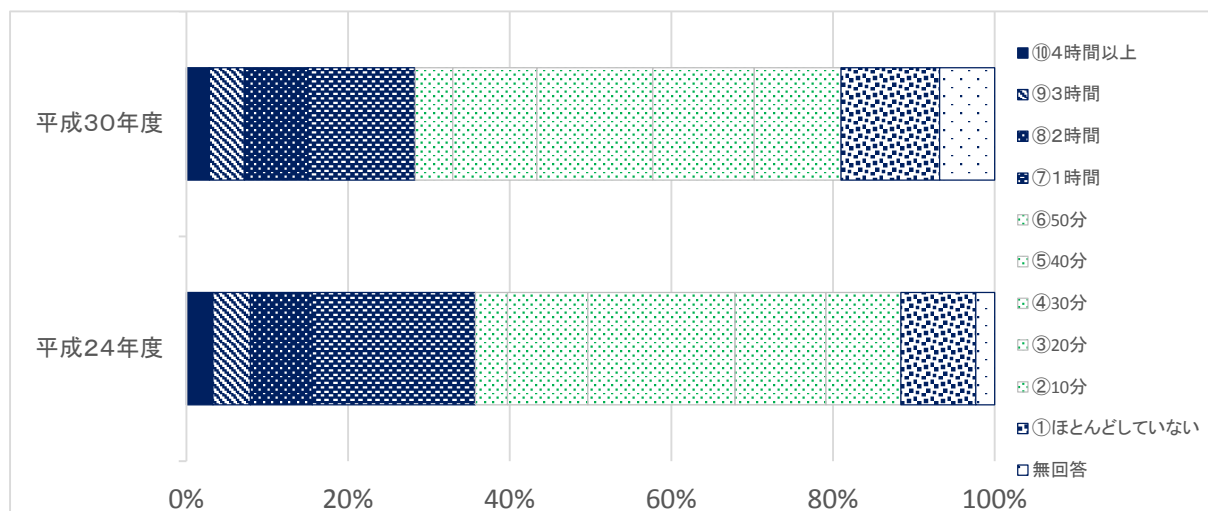
「そう思わない」「あまりそう思わない」理由について	
中学生の課題	▽ 中学生は下級生相手でも言葉遣いが良くないから。 ▽ 中学部の人がふざけていたり、交流給食であまり話さないから。 ▽ 何か怖いことをされそうだから。
対人関係の構築	▽ 固くなってしまい、会話が弾まないから。 ▽ 中学部の人とどう学習すればいいか分からないから。 ▽ 違う学年の人は話しにくいから。 ▽ 間違えたら恥ずかしいから。 ▽ 友達があまりいないから。 ▽ 恥ずかしくてあまり話せないから。 ▽ 気を遣うから。
発達段階	▽ 運動会など小学部だけでやりたいし、中学生も小学生がいるのは嫌だと思っから。 ▽ 中学生が一緒だと、中学生が中心になってちょっとつまらないから。

小学部の児童が、「中学部の人たちといっしょに学習や生活（授業、休み時間、合同行事など）するのは楽しい。」と感じることについて、平成24年度と平成30年度の平均値に有意な差が見られたことは、6年間の小中一貫教育を積み重ねたことの成果であると考えることができる。

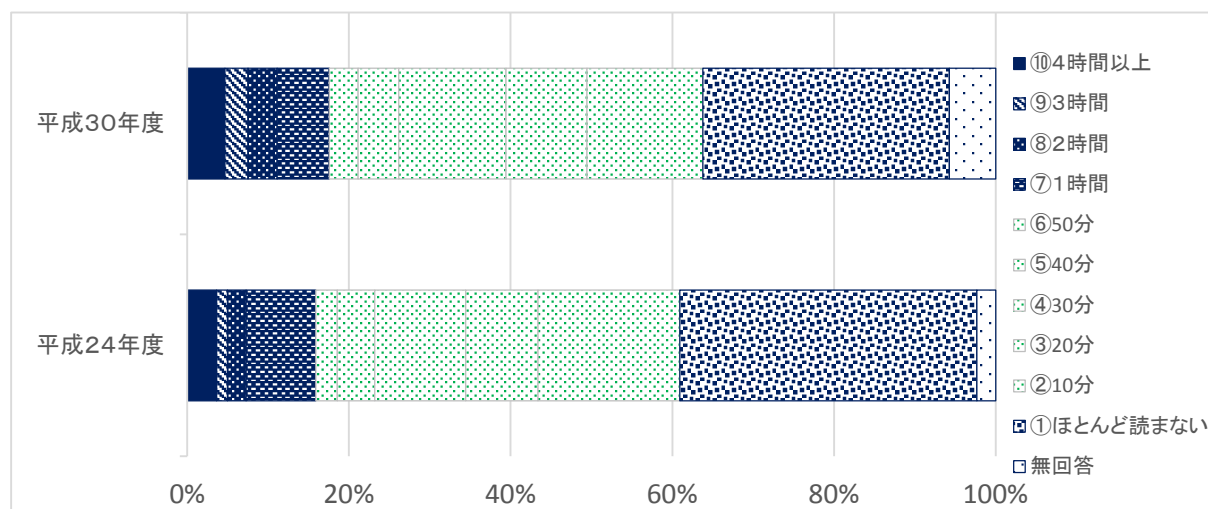
「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した理由の多くは、小学生から見た中学生に対するあこがれであった。施設一体型小中一貫校という環境を活用した取組の内容にもよるが、勉強を教えてもらったり、行事を一緒に取り組んだり、登下校を一緒にしたりする中で、助けてもらったり、自分にできないことができる中学生を目の当たりにしたりして、児童のキャリア形成が促進されているものと考ええる。

一方、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した理由は、一部の中学生による不適切な行動や児童自身にある対人関係構築に関する課題、発達段階に関する課題にまとめることができる。児童自身にある対人関係構築に関する課題については、対象が中学生か否かであり、むしろそのような課題を克服していくための機会をより多く持つことができるという視点からは、小中一貫教育である必要性を後押しする意見であると解釈できる。また、発達段階に関する課題については、小学部の各学年が発達段階に応じたリーダーシップを発揮し、活躍する行事等が確保されている等、教育課程の編成の工夫で解決することができるものであると考える。

21 平日、家庭ではどのくらいの時間、勉強（塾での勉強も含みます）をしていますか。最も近いものに○をつけてください。



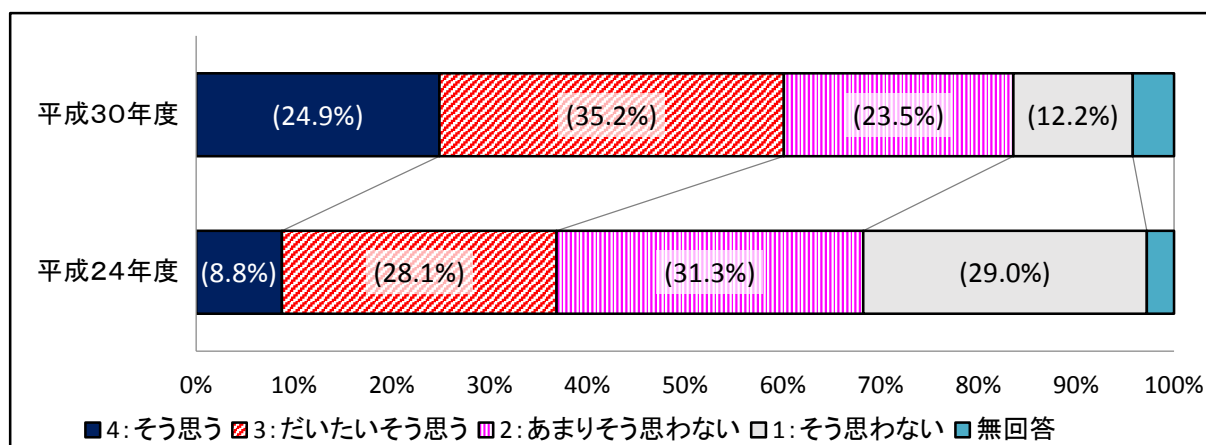
22 平日、家庭ではどのくらいの時間、本を読みますか。最も近いものに○をつけてください。最も近いものに○をつけてください。



イ 中学部の経年比較

NO.	質問	平成 24年度	平成 30年度
1	学習したことが分かる。	3.00	3.05
2	学校に行くのが楽しい。	3.00	3.05
3	運動会や合唱コンクールなどの行事に、積極的に参加している。	3.20	3.39
4	読書量は多い。	2.30	2.09
5	学校・学級のきまりを守って生活している。	3.10	3.27
6	進んであいさつをしている。	3.00	3.27
7	時と場に応じた正しい言葉遣いをしている。	3.00	3.19
8	授業が始まる前に、教科書やノートなど、授業で使うものを用意している。	2.90	3.31
9	教科書・ノートなど、授業で使うものを忘れずに持ってきている。	3.20	3.15
10	宿題や家庭学習をしっかりとやっている。	2.60	2.89
11	学校での友人関係は良好だと思う。	3.20	3.30
12	学校には仲の良い友達がいる。	3.50	3.57
13	困っていることなどがあったら、先生や友達に相談している。	2.80	2.86
14	先生は私のことを分かってくれている。	2.60	2.77
15	先生は悩みや相談をよく聞いてくれる。	2.50	2.79
16	地域の行事に進んで参加している。	2.10	2.60
17	家の人といろいろな話をしている。	3.10	3.25
18	交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校している。	3.20	3.46
19	将来したいこと、ついてみたい職業、仕事などの夢がある。	3.00	3.13

20 小学部の人たちといっしょに学習や生活（授業、休み時間、合同行事など）するのは楽しい。



※ 分散分析の結果、平成24年度の結果と平成30年度の結果の間には、有意な差が認められる。(F(1,413)=38.22, p<0.01)

【主な理由】

「と思う」「だいたいと思う」理由について	
自己の成長	○ いろいろなことが学べるし、小学部の子も楽しんでくれるから。 ○ いろいろな人と交流し、仲良くなれるから。 ○ 「こういう言葉で話すと伝わる」など、新しい発見があるから。 ○ 人の面倒を見るのは嫌いではないし、なんとなく居心地がいいから。 ○ いつもとは違う年代の人と触れられるから。
頼られることへの達成感	○ 子供と仲よく遊んだりするのは嫌いではないし、子供に覚えてもらえるのはうれしいから。 ○ 小学生が元気で、見ていて楽しいから。オレンジ班で一緒だった子たちが「班長」と言ってくれる。 ○ 小中一貫だと、小学生は中学生を見て成長するのでいいと思うから。 ○ 頼ってもらえると嬉しいから。 ○ 小さい子がかわいいから。 ○ 自分が小学部だった頃を思い出したり、笑顔になってくれる小学生を見てうれしくなったりするから。 ○ 中学生はすごいと思われ、達成感のようなものがあるから。
その他	○ 他の学校とは違うことができている、積極的に参加していると楽しいから。 ○ 運動会などを一緒にやるのが楽しいから。 ○ 小中一貫でしかできないことだから。

「そう思わない」「あまりそう思わない」理由について	
対人関係	▽ お世話をするのが苦手だから。何を話せばいいか分からないから。 ▽ 人と関わりたくないから。 ▽ お互い緊張して、同じ学年の人としか話さないから。
上級生の自覚	▽ 面倒を見るのが大変だから。 ▽ パワーアップなどは、放課後、すぐに部活に行けなかったり、帰れなかったりして迷惑だから。 ▽ わざわざ小さい子と関わらないといけない理由が分からないから。 ▽ 中学部だけで運動会や合唱コンクールをやりたいから。 ▽ 小学部は小学部で話していて、仲良くできないから。
その他	▽ 中学部が授業や学活をしているときに、小学生の声がうるさいから。 ▽ 授業の始まる時間と終わる時間が違うと、廊下で話し声や笑い声が少し気になるから。 ▽ 小さい子と触れ合うことで学べることもあるが、授業中うるさかったりするから。

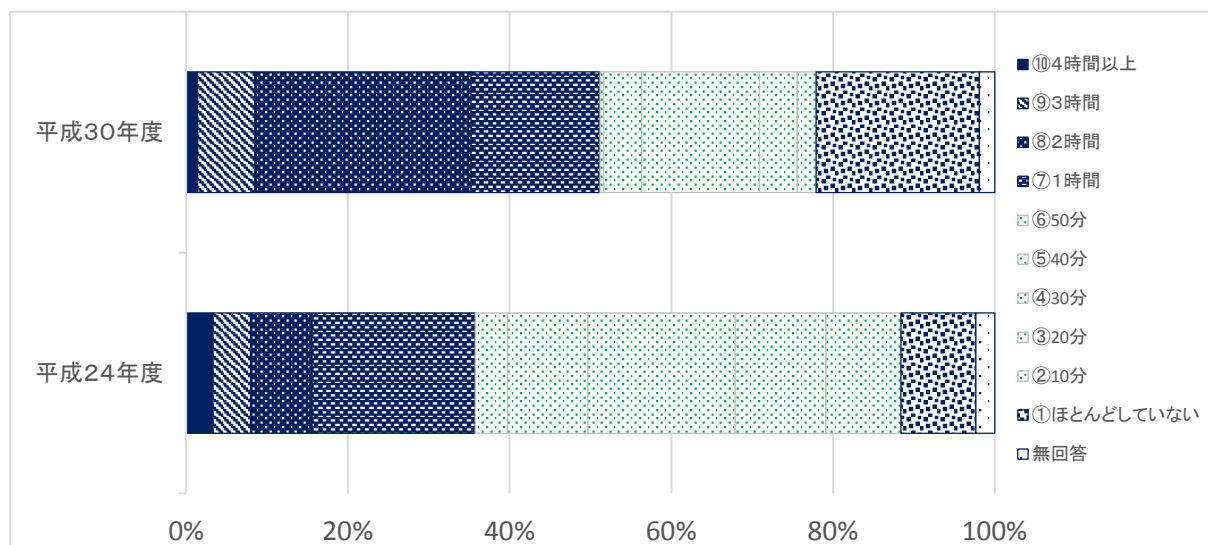
中学部の生徒が、「小学部の人たちといっしょに学習や生活（授業、休み時間、合同行事など）するのは楽しい。」と覚ることに付いて、平成24年度と平成30年度の平均値に有意な差が見られたことは、6年間の小中一貫教育を積み重ねたことの成果であると考えることができる。

「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した理由の多くは、大きく分けると生徒の「自己の成長」と「頼られることへの達成感」の二つに分けることができる。小学部児童のアンケートでは、中学生に対するあこがれが大きな理由となっていたが、対峙する中学部生徒にとっては、そのような場が自分自身の成長の場であると感じたり、児童に対応する中で頼られている実感とそれに対する達成感を味わったりする場面となっていることが分かる。施設一体型小中一貫校という環境を活用した取組の内容にもよるが、小学部児童との関わりを通して、生徒のキャリア形成が促進されているものとする。

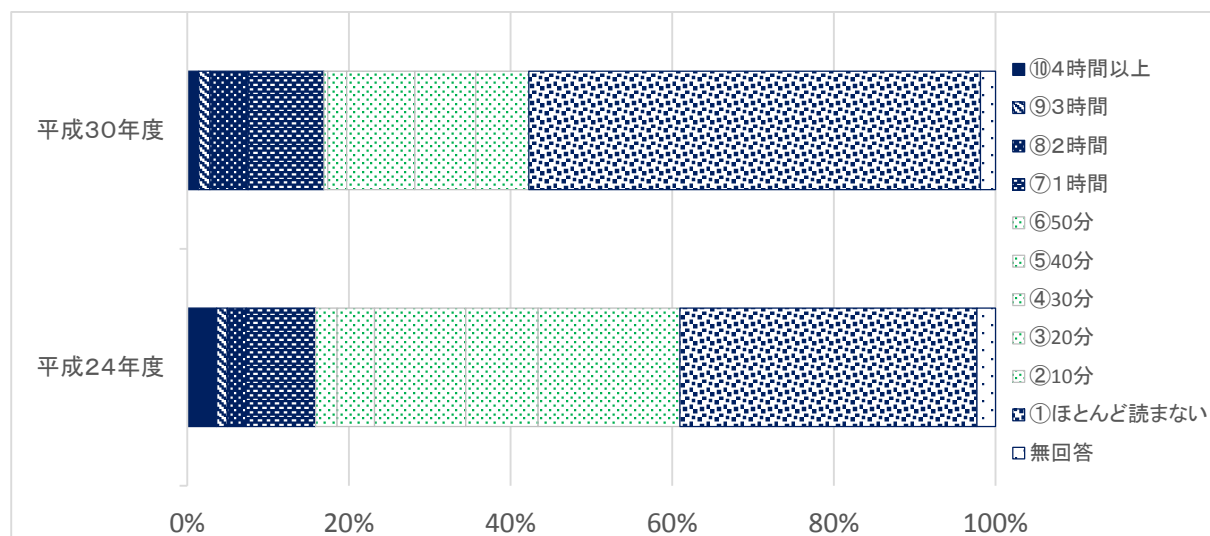
一方、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した理由は、小学部児童と同様に対人関係を構築すること自体が苦手な生徒がいるとともに、上級生として下級生のお世話をすること自体を苦痛に感じている生徒がいることが分かった。武蔵村山市では、小中一貫教育を通して「対人関係力」の育成を目指していることから、個々の児童・生徒の特性を踏まえつつ、小中一貫教育を通して、課題解決を推進していく必要があるものとする。

また、その他にカテゴライズをしている内容については、学校内でのルールを明確にすることで解決できる内容であり、それらの課題解決を図ることが、児童・生徒の成長にもつながっていくものとする。

21 平日、家庭ではどのくらいの時間、勉強（塾での勉強も含みます）をしていますか。最も近いものに○をつけてください。



22 平日、家庭ではどのくらいの時間、本を読みますか。最も近いものに○をつけてください。

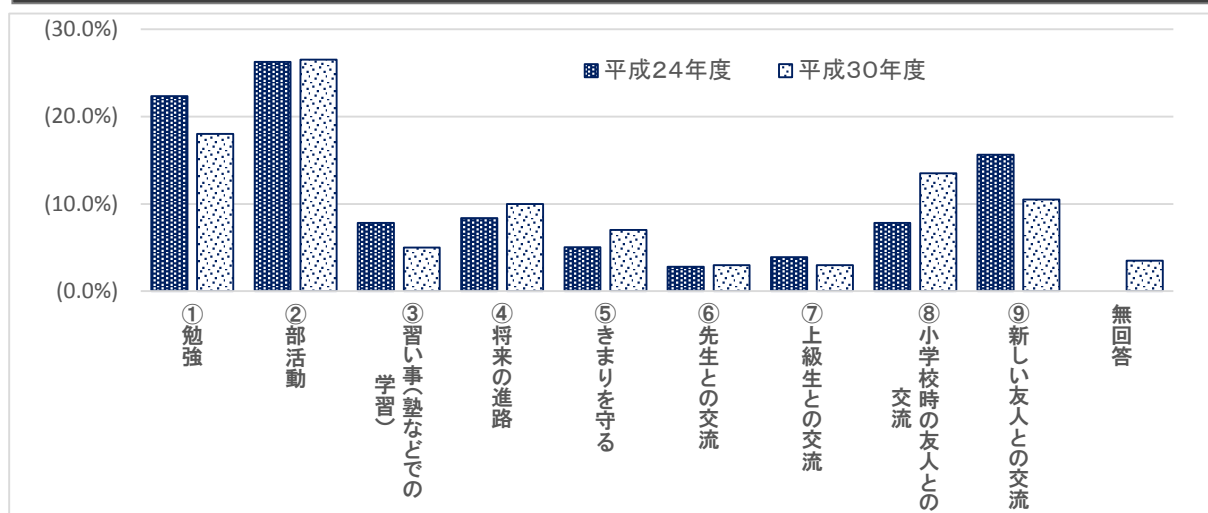


(3) 接続期（6・7年生）アンケートの結果

以下の項目について意識調査を行った。

ア 小学校6年生アンケートの結果

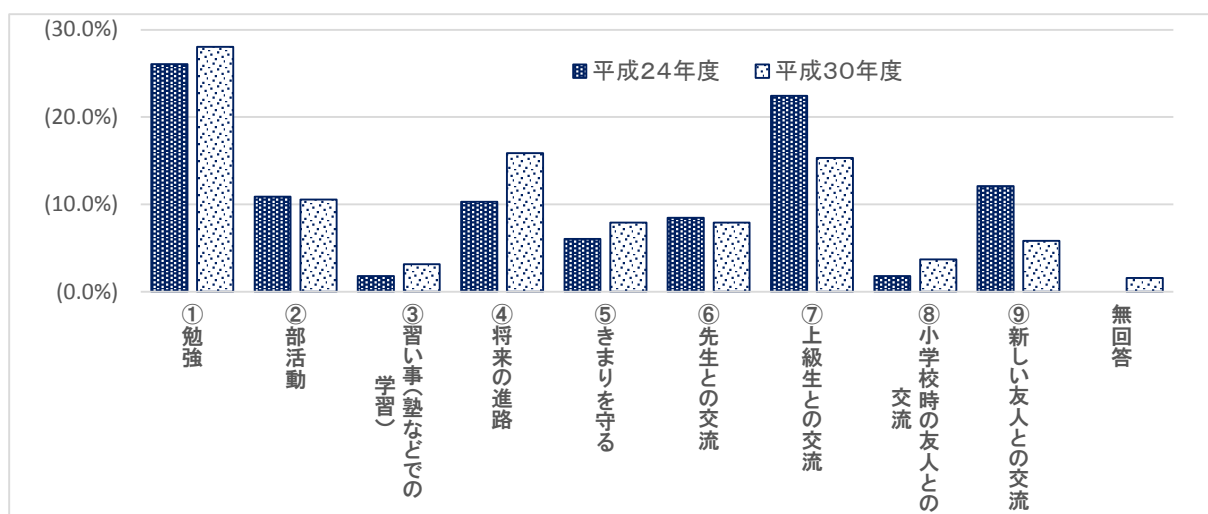
1 来年の4月から7年生（中学生）になりますが、何か、期待していること（頑張りたいこと）はありますか。3つまで選んで○をつけてください。



【自由記述】

- 新しい友達を作ることが心配
- 勉強が楽になってほしい。
- 他の学校にはないゲーム部などをつくってほしい。
- ダンス部がほしい。
- 今の部活の種目より多くしてほしい。
- 家庭科部などの裁縫、料理をする文化部などがあったらいい。
- 写真部があったらいい。
- 中学校が楽しみ
- バレーボール部があったらいいと思う。
- 7年生になったらいろいろなことを頑張りたい。
- 水泳を頑張る。
- 部活動が楽しみ
- ドッジボールが好きなので、ドッジボール部があったらいいなと思った。

2 来年の4月から7年生（中学生）になりますが、何か、心配に思うこと（不安に思うこと）はありますか。3つまで選んで○をつけてください。

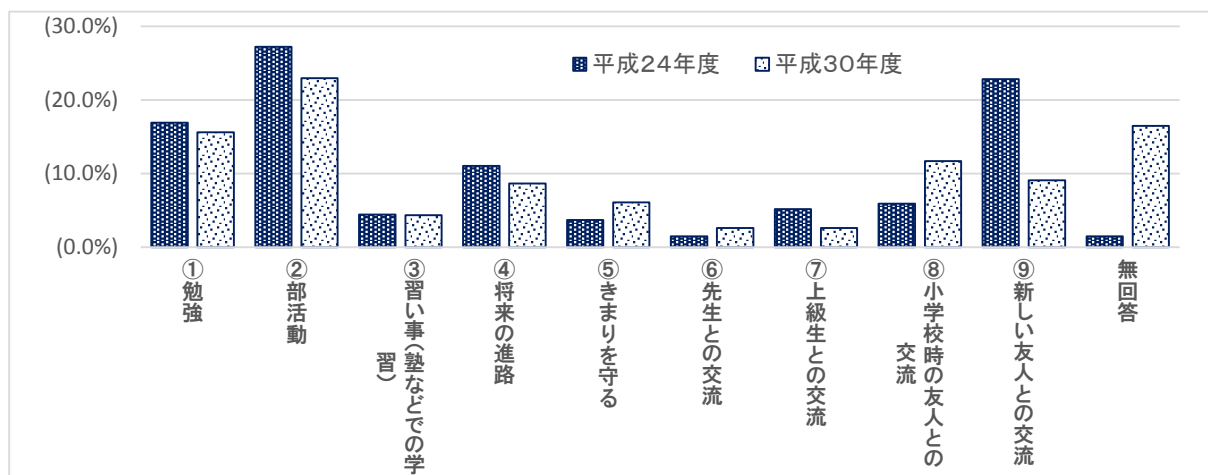


【自由記述】

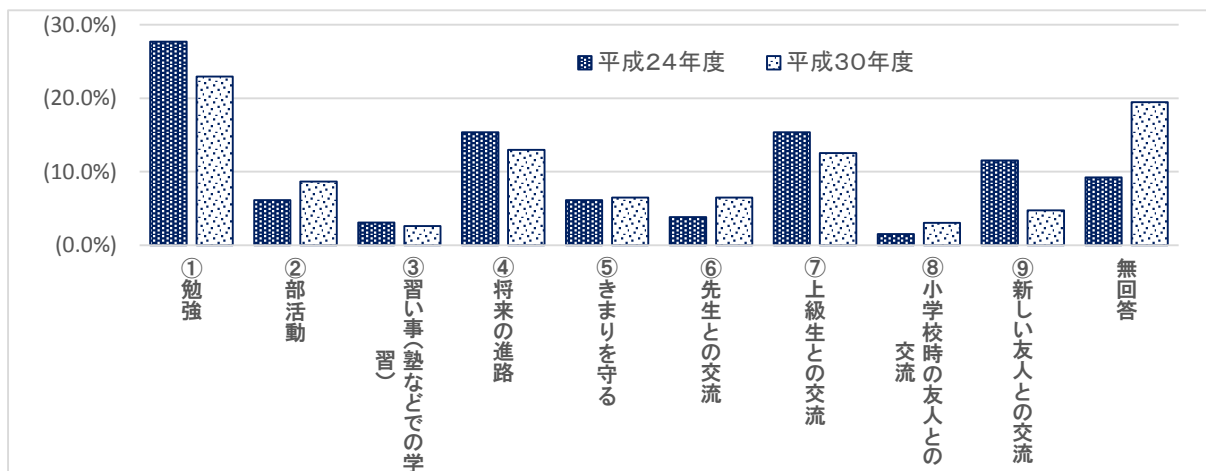
- クラスになじめるか心配
- 勉強ができるか心配
- 学力をもう少し上げてほしい。勉強態度が少し悪い。
- 勉強を頑張る。
- 勉強についていけなさそう。
- 中学生になって友達ができるか不安
- 6年生の間に、中学の先生と関わりたいです。
- 勉強と部活動の両立が心配

イ 中学校1年生アンケートの結果

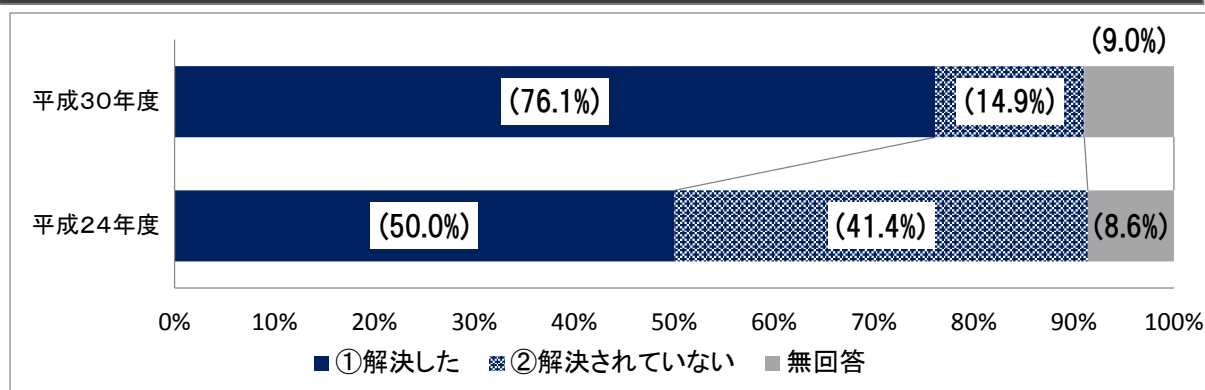
1 今年の4月に7年生（中学生）になりました。7年生（中学生）になる前に、期待していたこと（頑張りたいこと）は、ありましたか。3つまで選んで○をつけてください。



2 今年の4月に7年生（中学生）になりました。7年生（中学生）になる前に、心配していたこと（不安だったこと）は、ありましたか。3つまで選んで○をつけてください。



3 7年生（中学生）になる前に、心配していたこと（不安だったこと）は解決しましたか。いずれかに○をつけてください。



【自由記述】

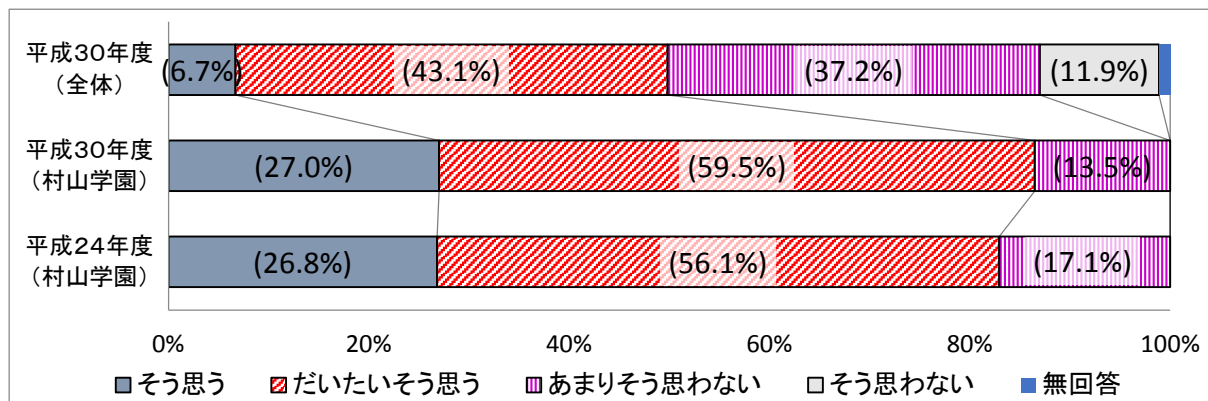
- 一つは部活動がまだ決まっていないこと。時々、授業で付いていけないときがある。
- 規則
- 書くのが遅いので、授業が早く進んで大変
- ずっと授業中、クラスの人がうるさくて、聞きにくい。
- 部活動で同級生が練習中に歌っていて、みんなで注意しても歌うのをやめてくれない。
- 一人が注意すると、みんながうるさくなって、授業がなかなか進まないこと。
- 部活動と勉強の両立
- 自分が勉強についていけるか。
- 友達関係
- 授業中ちょっとうるさい。
- 部活動と勉強の両立

- 授業中に私語が多く、クラスがまとまっていない。帰りの会が始まるのも終わるのも遅い。
- 部活動で上級生に話すこと
- 授業中とてもうるさい。授業で分かる人だけで進めている気がして、少し追いつかない。テスト期間の時に勉強があると少し勉強が危ない。
- 勉強をしていないこと
- 友達とのけんかが増えた。
- 習い事の時間の関係で部活動を早退することが多いから、裏で何か言われているかと心配である。
- 授業についていけない。
- 部活に必要な荷物が多く、困っている。

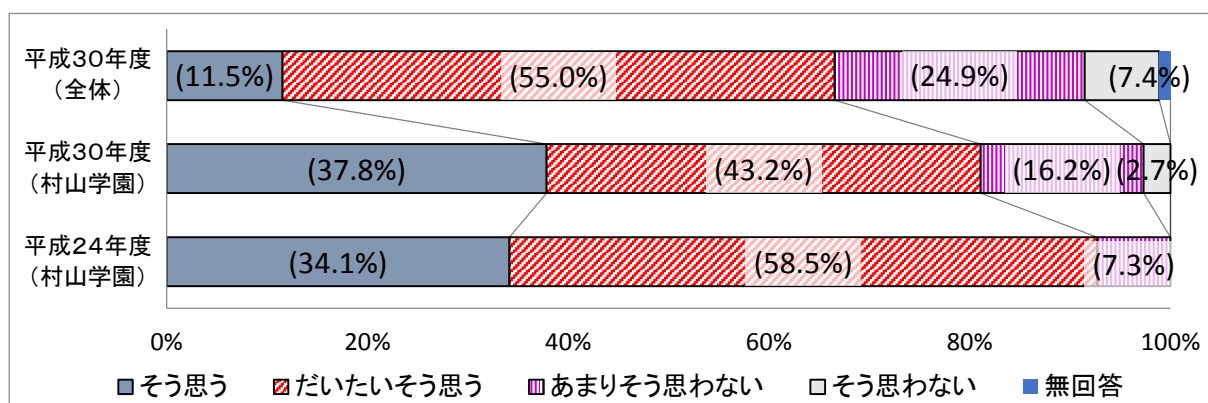
(4) 教員アンケートの結果

以下の項目について意識調査を行った。

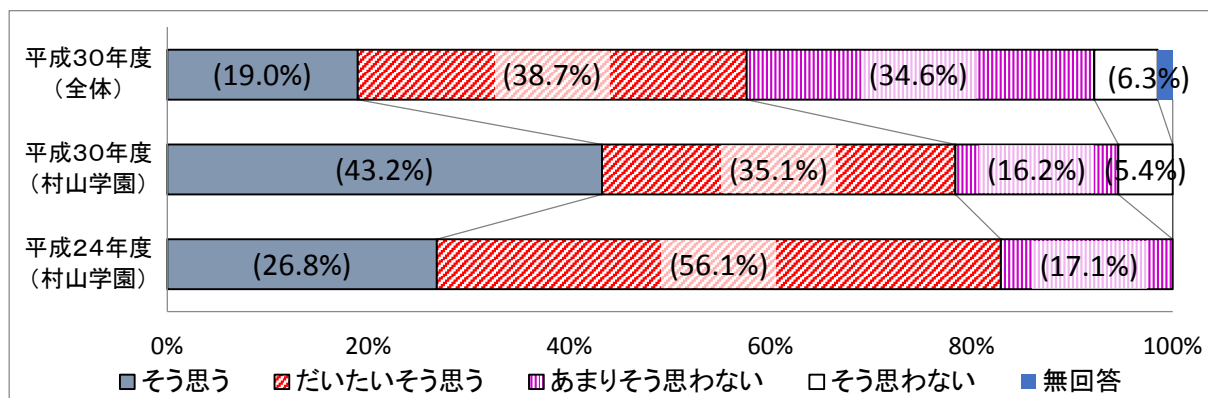
1 小中一貫教育を通して、児童（生徒）の姿から、これまで自分が抱いていた児童像（生徒像）に変化や新たな気付きを見出すことができた。



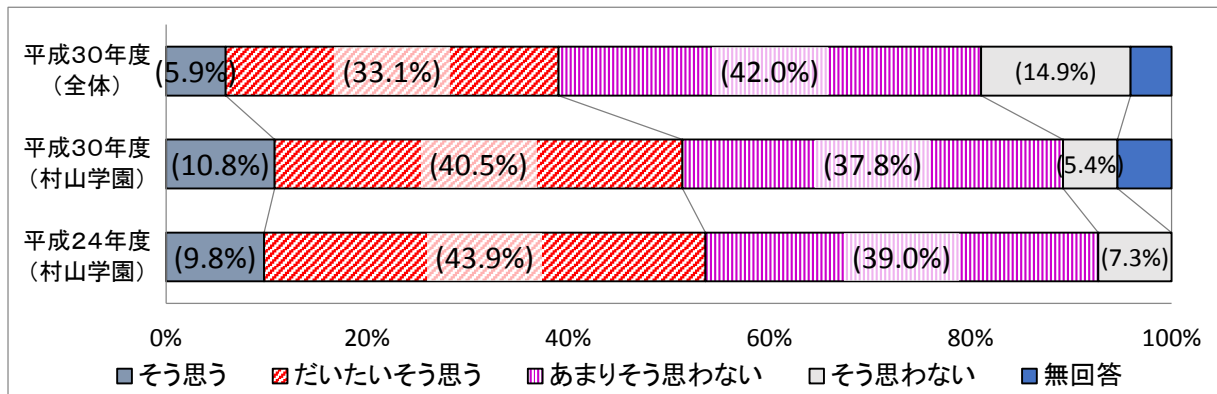
2 小中一貫教育を通して、児童（生徒）の学習や生活の様子を見て、児童（生徒）の発達の段階を理解することができた。



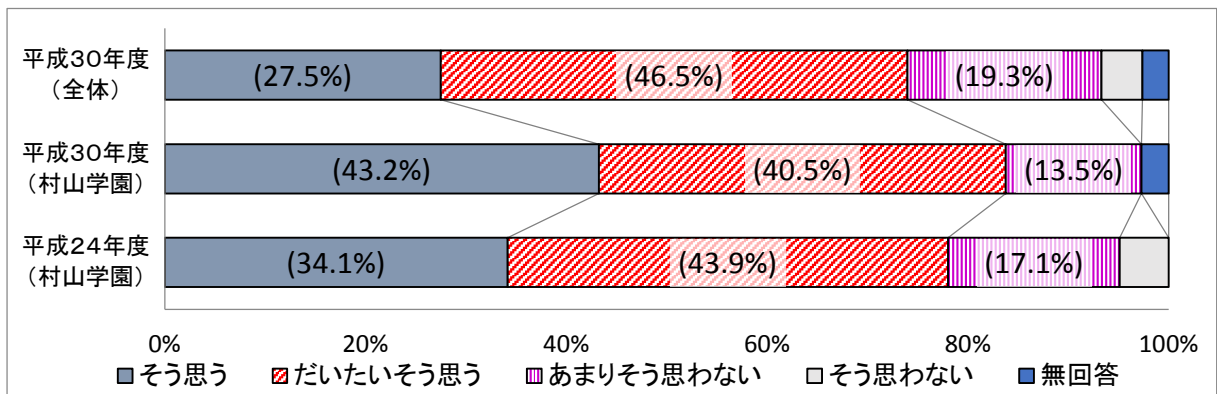
3 児童（生徒）に接したり、小学部教員（中学部教員）の児童（生徒）に対する指導を見たりすることで、生徒（児童）への指導の在り方を考え直す契機となった。



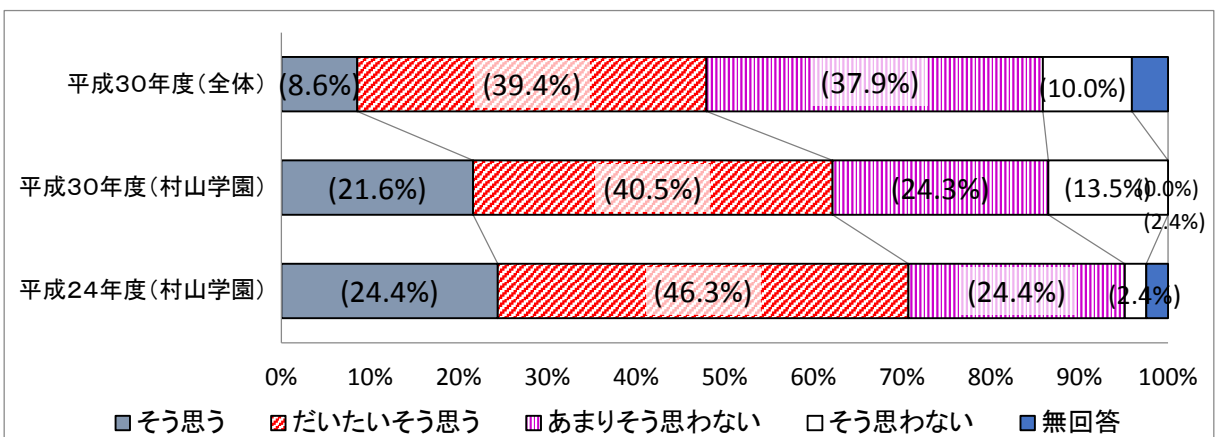
4 小学部教員（中学部教員）の児童（生徒）に対する指導から影響を受け、生徒（児童）に対する生活指導や学級指導の内容・方法を変えたところがある。



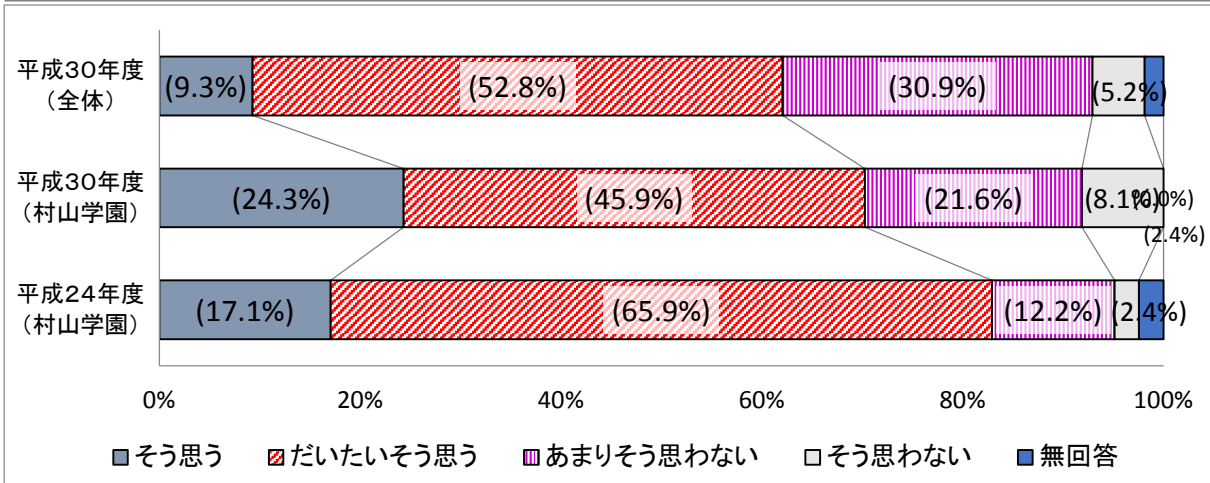
5 小学部教員（中学部教員）の授業や生活指導等について、場面に即した具体的な内容や方法を知りたいと思う。



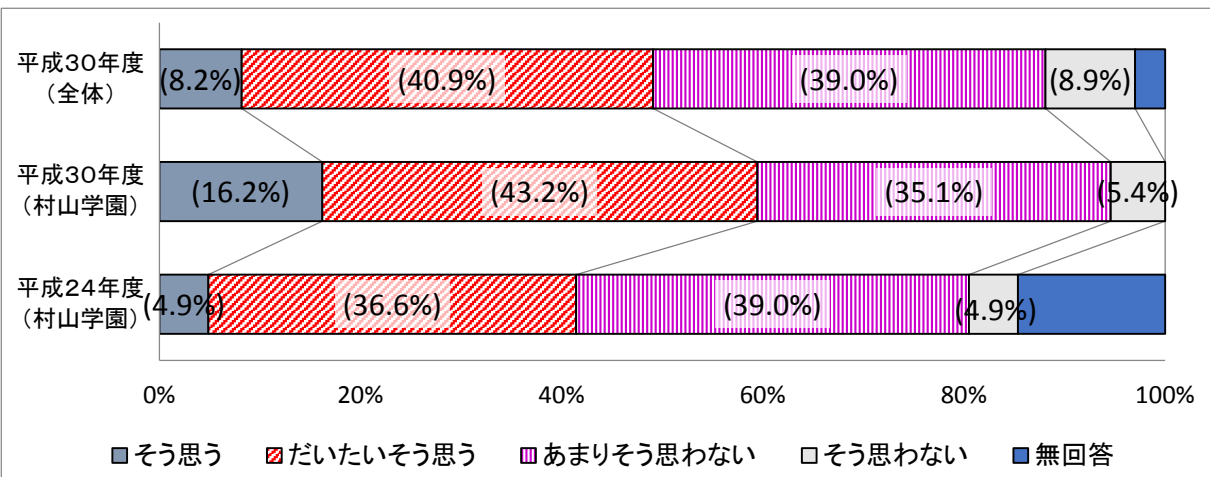
6 校内研究を通して、小中一貫校としての研究活動が次第に深まっている。



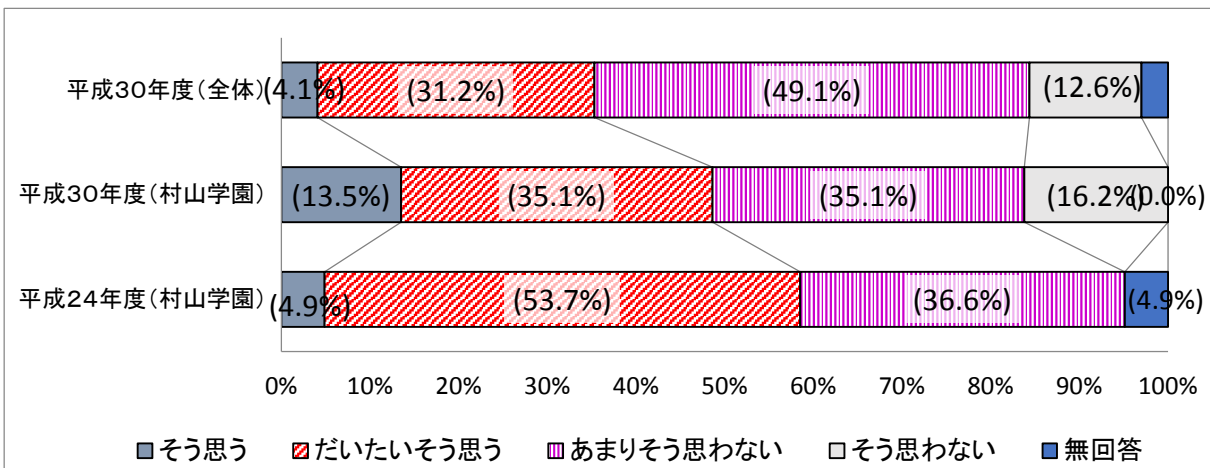
7 小中一貫教育における交流活動等を通して、児童・生徒の発達の段階や指導の系統性を理解することができた。



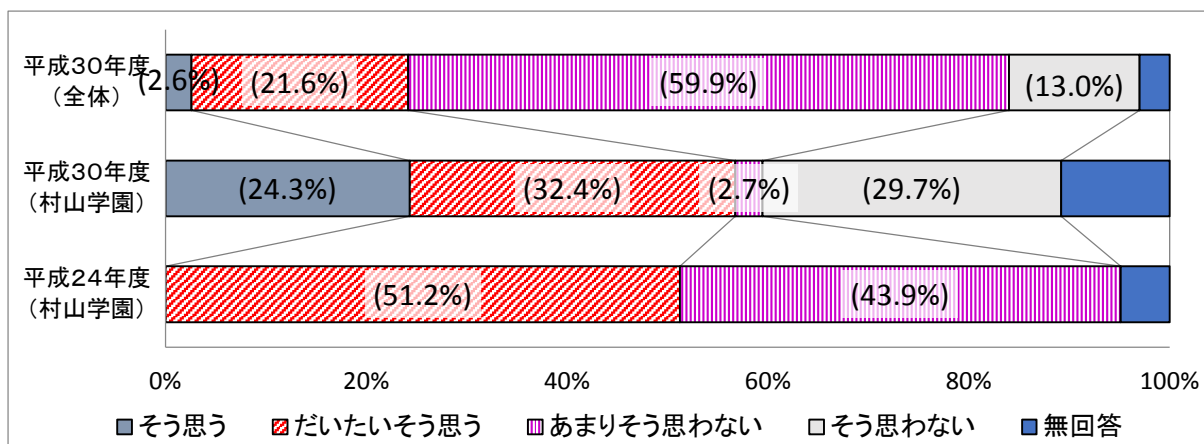
8 小中一貫教育における交流活動や小中合同で実施した授業等を通して学んだことを、自分自身の授業に取り入れ、指導を工夫している。



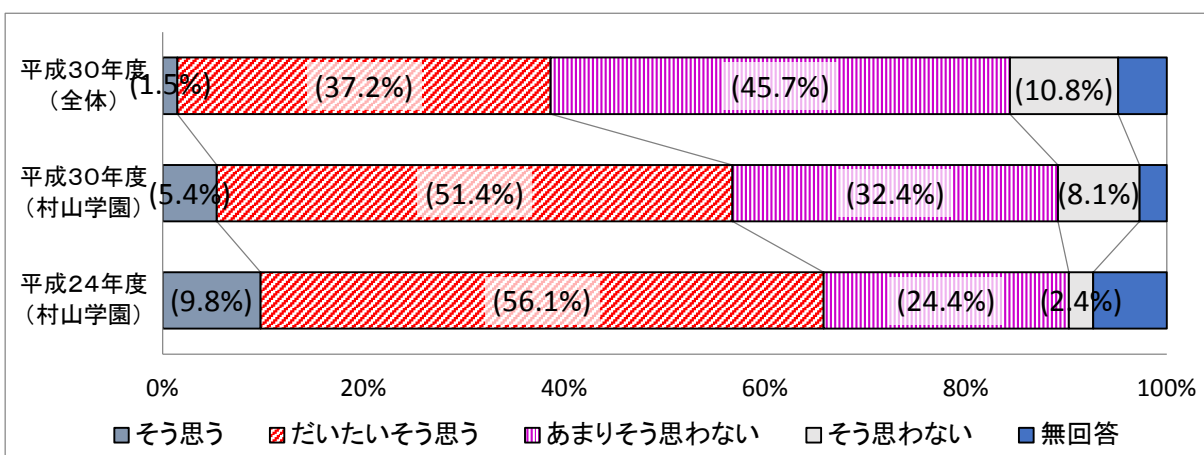
9 児童・生徒に学習意欲の高まりが感じられるようになってきた。



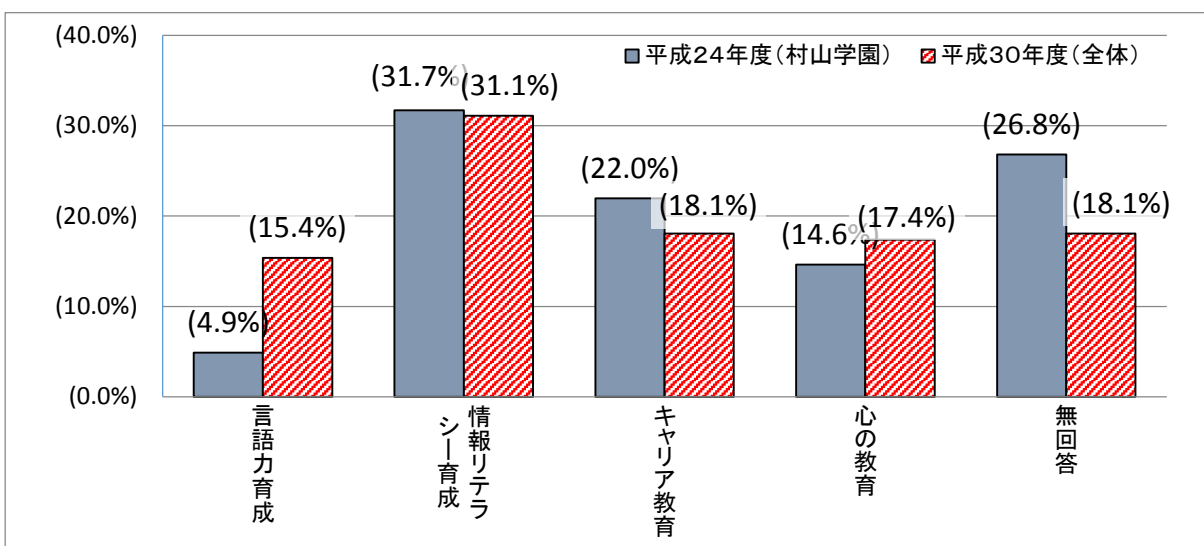
10 児童・生徒に学力の向上が見られるようになってきた。



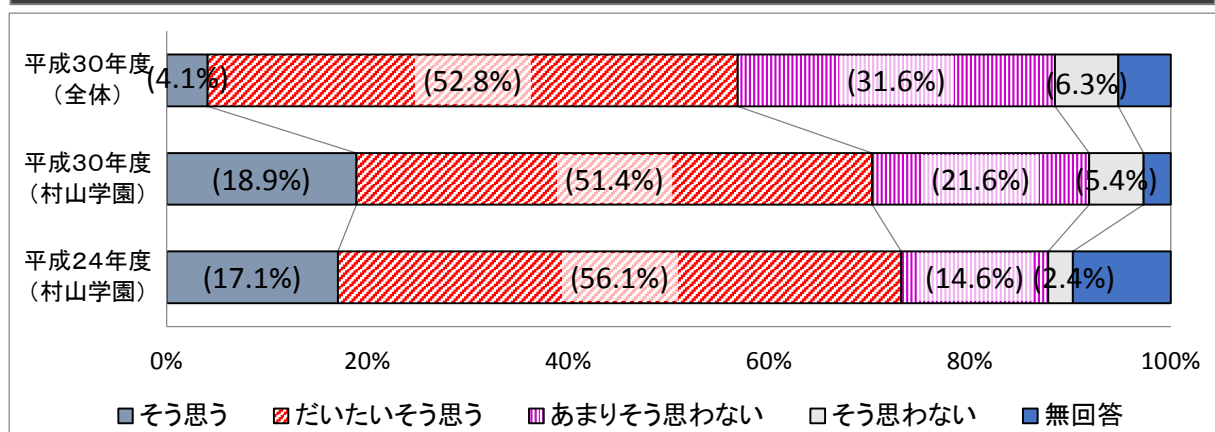
12 小中一貫教育カリキュラムにおける4つの基本カリキュラムが自己の実践に位置付けられている。



13 4つの基本カリキュラムのうち、実践への位置付けが特に十分でないと思う基本カリキュラムは何ですか。



14 4つの基本カリキュラムは、本校の教科・領域等の指導計画に適切に位置づけられている。



15 職員室が共用になった（共用である）ことによる利点は何だと思えますか。ありましたら、お書きください。

【主な意見等】

- ◎ 小中の交流
- ◎ 小中の教員の連携、協働
- ◎ 行事等の打ち合わせがしやすい。(2)
- ◎ 小学部・中学部の様子が分かる。
- ◎ 聞きに行くのが楽。
- ◎ 情報を共有しやすく、コミュニケーションを取りやすい。(6)
- ◎ 話しやすい。
- ◎ 何か起きた時にすぐ分かること。
- ◎ 兄弟のことについて、すぐに情報共有できること
- ◎ 小中への引継ぎ、日常の姿の交流、行事等学年の様子が分かる。
- ◎ 風通しが良い。
- ◎ コミュニケーションを取りやすい。
- ◎ 相談、連携がとりやすい。(5)
- ◎ 特別支援教室は共用ではない。
- ◎ 小中教員の交流がしやすい。
- ◎ 親近感がある。
- ◎ 分掌の仕事が楽
- ◎ 小中の教員の連携がとりやすい。
- ◎ 打ち合わせがしやすい。
- ◎ 大きな組織でも、顔を合わせることで共通理解がしやすい。別々だったら、一貫校としての意識をもちにくいと思う。
- ◎ 誰が残っているか分かりやすい。
- ◎ 電話を回しやすい。

16 職員室が共用になった（共用である）ことによる課題は何だと思いますか。ありましたら、お書きください。

【主な意見等】

- ▼ 狭く、圧迫感を感じる。(3)
- ▼ 電話が小中同じ回線を使っているため、スムーズではない。(3)
- ▼ 話が全体に通りにくい。
- ▼ 朝の欠席連絡が小・中入りまじり、事情が分からないまま取り次いだり切ってしまうことがある。
- ▼ 広すぎる。(2)
- ▼ 情報が錯綜してしまう。
- ▼ 小中それぞれの発達段階に合わせた対応がとりづらい。
- ▼ 広くて話が聞こえにくい。
- ▼ 生活リズムの違いや放課後の対応
- ▼ 一緒といえども、見えない壁のようなものを感じる。会議が少ないため、情報交換が少ない。
- ▼ 別々の会議や外部との連絡がしにくい。
- ▼ 電話を取ったりする時や急な人手が必要だったりするときの意識の差が見えすぎる。

17 学園手帳を導入したことで、どのような効果があったと思いますか。

【主な意見等】

- ◎ 自ら時間や服装などのルールを守るようになった。
- ◎ 基準の統一
- ◎ 児童・生徒の一体感が出たこと
- ◎ 一貫した内容で指導等ができる。
- ◎ 9年間を見通した規律を作ることができている。
- ◎ 集団の一員としての自覚が高まる。
- ◎ 作成時に、生活指導部で内容の小中統一ができた。
- ◎ 一貫した生活指導
- ◎ 学園のルールを確認できる。
- ◎ 小・中共通のルールが明確になり、指導しやすくなった。
- ◎ 小学生には、特に効果は見られない。
- ◎ ルールをきちんと示すものとしていいと思う。

18 学園手帳の課題は何だと思いますか。ありましたら、お書きください。

【主な意見等】

- ▼ 使っている言葉が中学生向けではない。
- ▼ 低学年にも分かりやすいような表現をしないといけない点。
- ▼ 中学3年になってもルビふりの手帳はどうか。「中学生になった」と喜びを感じる機会が減る。
- ▼ 活用方法
- ▼ 9学年を一つにそろえることの難しさ。
- ▼ 日常的に使うことが少なく、日頃持ち歩く習慣や意識が低い。
- ▼ 発達段階に即した理解につながる表現が必要。1～4年生用、5～9年生用に分けてもよいかと思う。
- ▼ 発達段階に即した表現
- ▼ 小学部は使う場面がない。
- ▼ ランドセルにしまっているだけで、児童は特に活用していない。
- ▼ 費用や資源の削減
- ▼ 小学生には、小さくて読みづらい。

19 小学部教員（中学部教員）と連携しながら仕事を進める必要がある校務に関して、今後解決すべき課題がありましたら、お書きください。

【主な意見等】

- ▼ 教員の入れ替わりが激しく、今までが伝えられていない。
- ▼ 行事の準備を中学生にもっとやらせてほしい。
- ▼ 転入してくる教員の意識改革
- ▼ 自学部だけでも手一杯なのに、時程の違う他学部との連携は負担に感じる。
- ▼ それぞれの文化の違
- ▼ 互いの流れが分からなかったり、ずれていたりして、相談する時間を改めてとりづらい。
- ▼ 服装や態度等、生活指導について
- ▼ 部活があるため、会議の時間が小中で合わせにくい。
- ▼ 部活動
- ▼ 校務の整理（誰がどんな仕事をしているのか、どんな仕事があるのか）
- ▼ 校務に偏りがあるように感じるため、体制を見直したり、文章の再編をしたりする必要性がある。
- ▼ 小中合同の行事（どうしても中がメインや小がメインと偏る）
- ▼ 誰が何をする（している）かが分かりづらい。
- ▼ 今以上に情報共有できる場が必要である。
- ▼ 意識の差。難しいが、小学部の先生の方がいろいろなことに手助けをしている。
- ▼ 他校にはない校務がたくさんあるように思うが、自分がカバーしきれていない。分掌として割り振られている以外の校務をできるだけ多く洗い出し、明確にしていく。

20 管理職は、校長 1 名、副校長 3 名で組織されていますが、この体制についての利点や課題について気付いたことがありましたら、お書きください。

【利点】

- ◎ 例外もあるが、いつでもどなたかがいてくださり、判断を仰ぎやすい。
- ◎ 緊急時、報告しやすい。対応等がスムーズである。(2)
- ◎ ありがたい体制である。
- ◎ 体制としては小・中の役割、統括の役割が明確でよい。
- ◎ 副校長が複数いるため、連絡や相談がしやすい。(4)

【課題】

- ▼ 副校長への報告・連絡・相談を増やしていきたい。そのうえで、副校長から適時、必要事項が校長へ伝わるようにしてほしい。
- ▼ 校長の位置付けと副校長 3 人の役割分担
- ▼ 課題は、連携するという点で自分に関わりがないと感じる人がいること。
- ▼ 校長 1 名の場合、中学校の校長が小学校の発達段階に対して、理解を示してもらえないことがあるので、校長に意見できる役職の方にてほしい。
- ▼ 校長と統括副校長の守備範囲がとてつもなく広い。
- ▼ 担当がはっきりしていないことが課題である。
- ▼ 統括副校長の位置付け
- ▼ 出張が多く、不在になる時が多い。
- ▼ 誰に何を伝えるべきか、区分が分からない。
- ▼ 4 人管理職がいるので、長期休業日等は誰か一人がいればいいと思う。また、情報を何人もの人に同じことを言わなければならないことがあり、副校長に報告したら校長に伝わっているといいと思う。

武蔵村山市立小・中学校における小中一貫教育

【質問紙調査の結果等から見た9年間の成果と課題】

施設一体型小中一貫教育

施設隣接型小中一貫教育

施設分離型小中一貫教育教育

3つの型の小中一貫教育の推進【中学校区での取組】

『人間力』の育成

①「知的能力」

基礎学力や専門的な知識・ノウハウをもち、自ら継続的にそれらを高めていく能力と応用力

自立した一人の人間

バランスよく高められた総合的能力

②「対人関係力」

コミュニケーションスキル、リーダーシップ、公共心、規範意識、他者を尊重し高め合う力

③「自己制御力」

知的能力や対人関係力を発揮するための意欲、忍耐力、自分らしい生き方や成功を追求する力

平成19年度武蔵村山市立小・中一貫校カリキュラム作成委員会報告書「武蔵村山市立小・中一貫校（仮称）武蔵村山学園の教育について」より内容を抜粋し図式化した。

成果と課題

小中一貫教育 5プロジェクト

プロジェクト①【知的能力】

確かな学力の定着

- 各学校の研究に基づいた取組の成果はそれぞれ見られ、各学校の教職員が、児童・生徒の実態としてその成果を実感している。（報告書第3案 10～23 ページ）
- 市全体の平均正答率という視点からの「学力調査の結果（国・都・市）」や「中学校・高等学校等への進学実績」においては、顕著な成果は認められなかった。（報告書第3案 24～27 ページ）
- 教員の「児童・生徒の学習意欲の高まり」についての実感は、施設一体型・隣接型・分離型の間に有意な差が見られ、施設一体型や隣接型が、分離型より高かった。（報告書第3案 51 ページ）

プロジェクト②【対人関係力】

豊かな心の育成

- 保護者が抱く小中一貫教育への期待と不安は、「高校進学時に対応できるか。」「中学生から悪影響を受けないか。」「人間関係のトラブルから回避できないのではないか。」等、人間関係に関わるものが多く見られた。（報告書第3案 71～75 ページ）
- 「中学部の人たちと一緒に学習や生活するのは楽しい」と回答する村山学園の児童が 69.8%おり、平成 24 年度の調査結果を 9.2pt 上回った。また、「小学部の人たちと一緒に学習や生活するのは楽しい」と回答する村山学園の生徒が 60.1%おり、平成 24 年度の調査結果を 23.2pt 上回った。（報告書第3案 83 ページ及び 87 ページ）

プロジェクト③【自己制御力】

志をもって取り組む態度

- 「来年の 4 月から中学生になりますが、心配に思うことはありますか。」という質問に対して、施設一体型の児童は、「勉強」や「将来の進路」に関心が向き、「上級生との交流」や「新しい友人との交流」を心配する施設隣接型や分離型の回答とは傾向が異なった。（報告書第3案 34 ページ）
- 「将来したいこと、ついてみたい職業、仕事などの夢がある」との質問に対する回答をポイント化すると、施設一体型、隣接型・分離型の順に高い。また、施設一体型での同質問への回答において、生徒の平均ポイントが 6 年前より高くなっていた。（報告書第3案 30 ページ及び 86 ページ）

プロジェクト④【中1ギャップへの支援】

不安や心理的な負担の軽減

- 市全体の「不登校児童・生徒の推移」においては、顕著な成果は認められないが、「暴力行為の発生件数の推移」においては、大幅な減少が見られた。（報告書第3案 26～27 ページ）
- 施設一体型小中一貫校の児童・生徒アンケートの経年比較において、「②学校に行くのが楽しい。」「⑩学校には仲の良い友達がいる。」「⑪困っていることなどがあったら先生や友達に相談している。」「⑭先生は私のことを分かってくれている。」「⑮先生は悩みや相談をよく聞いてくれる。」の平均ポイントが、6 年前と比較し、小・中学部のどちらもともに高くなっていた。（報告書第3案 82 及び 86 ページ）

保護者・地域の意見

【保護者アンケート】

- 「小中一貫校とそうでない学校の違いがよく分からない。」「小中一貫教育のどんなメリットがあるのか、まだ理解していない。」等、小中一貫教育の理解に関する内容や、「テスト順位の貼り出しがあり、勉強が厳しいと聞いた。」等、誤情報を基にしたイメージの内容が見られた。（報告書第3案 75 ページ）

【地域アンケート】

- 保護者同様、人間関係によるトラブルを心配する意見や、小中一貫教育のメリットがよく分からないという意見が多かった。中学校区を核とした小中一貫教育の実施と、進学する中学校が必ずしも一致せず、小中一貫教育の推進が地域性の否定と捉えられている意見も見られた。（報告書第3案 80 ページ）

プロジェクト⑤【『人間力』育成】

教師力の向上

- 教員アンケートにおいて、「これまで自分が抱いていた児童・生徒像に変化や新たな気付きを見出した。」「児童・生徒の発達段階を理解できた。」等、児童・生徒理解に肯定的な回答を表す平均ポイントが、施設一体型、隣接型、分離型の順に高く、特に一体型では他の形態と有意な差が見られた。（報告書第3案 41 ページ）
- 教員アンケートにおいて、「異校種教員の指導を見ることで指導の在り方を考え直す契機となった。」等、指導方法の工夫、研究活動の深化、系統性の理解等について肯定的な回答を表す平均ポイントが、施設一体型、隣接型、分離型の順に高かった。（報告書第3案 42～50 ページ）